

Ⅲ 学校評価自己評価

京丹後市立幼稚園・学校評価自己評価報告一覧

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
1 峰山幼稚園	幼稚園教育目標 「主体的に活動し、健康な心と体をもった幼児の育成」 1 挨拶と笑顔が溢れる幼稚園 2 異年齢交流が活発で、子どもたちが夢中になって生き生きと遊ぶ幼稚園 3 保護者地域から愛され信頼される幼稚園
2 大宮幼稚園	“笑顔 いっぱい げんきななかま!!” —かんじて かんがえて みんなでつながろう。— (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。
3 網野幼稚園	(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 (3) 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を養う。 (4) 常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 (5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
4 丹後幼稚園	一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、生きる力をもつ子を育成する。 27年度合言葉 「元気・勇気・笑顔、つなごう・つなごう たんごのわ スマイル！」
5 弥栄幼稚園	「自然に親しみ 丈夫な体と 豊かな心を持った 明るい子どもの育成」 ○健康で生き生きと活動する子どもの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもの育成
6 かぶと山幼稚園	《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～一人ひとりが輝いてみんなとつながる喜びを感じよう～ 1 幼児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。
7 峰山小学校	1 就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。 2 授業力の向上に全力を尽くす。 3 子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。 4 地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。
8 吉原小学校	1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】
9 五箇小学校	課題を主体的に受け止め、最後まで粘り強く立ち向かう力を育て、峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。 学校再配置に向けて、閉校準備も併せて、保護者・地域の方々が「一緒になって良かった」と思える学校づくりに向け、計画的に準備を進める。
10 新山小学校	1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
11 丹波小学校	1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
12 長岡小学校	「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子を育成する。
13 大宮第一小学校	1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進
14 大宮南小学校	「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 上記教育目標を達成するために、教職員が組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、再配置校として地域・保護者から信頼され、児童にとって行きたくなる学校づくりを目指す。
15 網野北小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 網野南小学校	網野町域小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 1 規範意識の醸成 2 自ら将来を切り拓く力 3 豊かな人間関係を築く力 4 自然・人・社会とつながる力の育成
17 島津小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
18 橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子（知） み：みんななかよく支え合う子（徳） の：のびのび生き生きやりぬく子（体） 賢く、やさしく、たくましく、みんなが輝く『楽しい学校』～元気・笑顔・挑戦～
19 豊栄小学校	学校教育目標「郷土を愛し、自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」の具現化を図る学校づくりを進める。 ・「学ぶ意欲があふれる学校」をテーマに重点的な取組をとおして、学校力の向上を図る。
20 間人小学校	1 人権尊重の精神に立った教育を進める。 2 基礎基本の定着と質の高い学力を身に付けさせる。 3 開かれた学校づくりと信頼される学校をめざす。 4 防災意識を高め、安心・安全の学校づくりを進める。

学 校 名	学 校 ・ 園 教 育 目 標
21 宇川小学校	教職員の協働体制と創意工夫により、学校教育目標の具現化を目指し、「安全で元気に気持ちよく学べる学校」の創造に努める。
22 吉野小学校	日常の教育活動を充実させていくことで、児童が安心して意欲的に活動できる学校、保護者・地域から信頼される学校をつくる。
23 弥栄小学校	かしこく やさしく たくましく ～自主・自立～ (1) 言語活動の充実 (2) 自己肯定感の醸成
24 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。
25 高龍小学校	・2年目の学校課題を整理し解決する。 ・児童に知・徳・体をバランス良く定着させる。 ・教職員評価・学校評価をととして教職員の資質向上・組織的な教育活動を継続して行う。
26 かぶと山小学校	※町内同一目標 小中一貫教育 ふるさとを愛し 意欲的に学び 優しい心をもち 根気強く努力する子どもの育成
27 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・粘り強く挑戦する生徒 【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり
28 大宮中学校	1 学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着 2 進路を切り拓く能力と実行力の育成 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上
29 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
30 丹後中学校	丹後中学校の開校2年目の教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校にする。 「再配置して良かった。」と実感してもらえるような丹後中学校の教育を創り上げることである。
31 弥栄中学校	1 基礎学力の定着・活用力の育成と主体的な学習態度の養成 2 心の教育の充実による不登校の未然防止と解消 3 小中一貫教育の推進による指導の円滑な接続の実現 4 生徒指導の3機能を生かした積極的な生徒指導の展開 5 安心・安全で信頼される開かれた学校づくりの推進
32 久美浜中学校	1 学校再配置をして、みんなが良かったと言える学校づくりを推進する。 2 職員体制を確立させ、組織的な指導力を展開する。 3 学力の充実・向上を図るとともに、キャリア教育を生かした進路指導を推進する。 4 豊かな心を育成する教育を推進する。

平成27年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

園名〔 京丹後市立峰山幼稚園 〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
幼稚園教育目標 「主体的に活動し、健康な心と体をもった幼児の育成」 1 挨拶と笑顔が溢れる幼稚園 2 異年齢交流が活発で、子どもたちが夢中になって生き生きと遊ぶ幼稚園 3 保護者地域から愛され信頼される幼稚園		○戸外を中心に幼児が自ら考えて遊びたくなるような環境構成を工夫したことから、主体的に生活や遊びを進められるようになった。 ○小学校に併設された環境であることで、1年生の生活科と連動したり様々な学年の小学生と交流活動ができたりし、刺激を受けた。 △挨拶の奨励を行ってきたが、十分とは言えなかった。今後さらに保護者との連携を図り、挨拶の奨励をしていく。	・体験的な活動の場を意図的・計画的に取り入れ、幼児の主体的で協同的な活動を引き出す環境構成に努める。また、言葉で思いを表現できる力を育む。 ・保護者・地域と連携し、ルールや他人を大切に思う心などの規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。 ・特別な配慮を必要とする幼児に対し、保護者や関係機関、小学校と連携をとりながら、適切な支援ができるよう努める。
評価項目	重点目標	具体的方策	○成果と△課題(自己評価)
教育課程	○自己の発揮と他者とのかわりを通した、協同性の育成 ・自己肯定感を育て、主体的に活動する力をつける。 ・人間関係を深め、友達と協同して遊びや活動をし、学び合いができる力をつける。 ・他者とかかわる際に味わう感情体験を大切にし、育ちに繋げる。 ・コミュニケーション力や規範意識など様々な力を総合的に育む。	(1) 多様な他者との出会いや体験の機会を設定する。 ・施設の見学や訪問・行事や取組にかかわった交流・体験活動 (2) 幼児が主体者となる遊びや生活の充実に向け、環境構成を工夫する。 ・戸外遊び・室内遊び・運動遊び・朝の会活動・当番活動 (3) 集団生活ならではの経験や、友達と取り組む醍醐味が味わえる活動を行う。 ・飛天、地域の祭り等への出演・宿泊体験・運動会・収穫祭・発表会・共同製作 (4) 異年齢交流保育を推進する。 ・園外活動・ランチルーム給食・異年齢グループ活動	○学校支援ボランティアの田んぼを借り、どろんこ遊びや田植え・稲刈り体験をすることができた。思いきりどろんこになって開放感を味わったり、田んぼや米作りに関心を持ったりした。 ○田植えを通して学校支援ボランティア・保護者ボランティアの方と交流することができた。来年度はさらに充実させたい。 ○環境、時間、異年齢交流、保育者の関わり方等、検討・計画・実行・評価・改善に努めた。登園後すぐに戸外遊びをすることで、子ども達が「早く遊びたい」と意欲的に登園し、主体性が育った。 ○「わくわく探検隊」と称して園外保育に出かけ、自然環境と触れ合った。園近隣の田畑や丹後鉄道高架下は毎日出かけられる場所になり、毎朝のマラソンコースとして全園児が自然に触れながら体を動かすことができた。 ○園外活動・給食・グループやチーム活動等を通して異年齢での保育を取り入れた。大人数であるが、子どもも保育者も名前と顔を覚え、こども園全児を全職員で保育する意識が高まった。
	○対人関係を繋ぐ言葉力の育成 ・はっきりと返事や挨拶が出来る力をつける。 ・人の話をしっかりと聞き、自分の思いを言葉で表現する力を身につける。 ・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうとともに語彙力を豊かにする。	(1) 挨拶の奨励を行う。 ・挨拶運動や家庭と連携した取組 (2) 自分の思いを言葉で表現する取組を進める。 ・感動体験の機会設定や発表や話し合いの機会設定 (3) しっかり聞き理解させる取組を進める。 ・クラスや全児で話を聞く機会設定 ・「目と目を合わせて聞く」事の徹底 (4) 絵本や物語に親しむ機会を多く設定する。 ・一日1冊絵本読み聞かせの実施 ・絵本の貸し出しと「絵本カード」の取組 ・保護者と連携し「絵本だいすき」の取組	○毎日、玄関にて笑顔と元気な挨拶で出迎えた。元気よく挨拶をする子ども、進んで挨拶しようとする子どもが増えてきた。 △「目と目を合わせて」挨拶したり会話したりすることは、今後課題である。指導の仕方の工夫を重ねていきたい。 ○絵本の読み聞かせは、各担任を中心に熱心に取り組んだ。春から親子読み聞かせに取り組み、3学期は、保護者に「絵本大好き！親子読み聞かせカード」の取組協力をしてもらった。絵本を通して親子の会話が増えてきている。 ○全体的に自分の言葉で思いを話したり、友達の思いを聞いたりできるようになった。2月の発表会では、一人一人が年齢なりにその成果を発揮することができた。

	○人権尊重の精神・規範意識の芽生えの心の育成 ・してはいけない事や、言っではいけない事に気付かせ、生活の中に決まりやルールがある事を理解させる。 ・幼児が互いに大切な存在であることを認識できる教育を展開する。 ・ボランティア精神の芽となるような温かい心を育てる。	(1) グループ活動や当番活動を行う。 (2) ルールのある遊びを積極的に取り入れる。 (3) 生活の中のちょっとしたトラブルやもめごとの場面を見逃さず、指導する。 (4) 生き物の飼育活動を行う。 (5) 当番活動やチーム活動等協同する活動の機会を多く設ける。 (6) 社会の中で人に喜ばれ自分が役に立ったと感じられる体験をする。 ・高齢者施設訪問・高齢者大学と交流・クリーン作戦・アルミ缶収集	○新園舎での新生活の中で一人一人が安全に安心して生活していけるよう、職員でその都度考えたり話し合ったりしてきた。子ども達も生活ルールを守りながら、生活している。 ○年長児を中心に飼育活動を協力して行い、命に直接触れ合う機会が持てた。 △今年度は、高齢者や地域の方と触れ合ったり、社会に目を向ける機会を持つことができなかった。来年度は民生委員さんと連携して、ボランティア精神の芽となるような温かい心を育てていきたい。
子育て支援	○家庭地域との連携と子育て支援 ○家庭の教育力の向上	(1) 地域の子育ての基地として地域から愛される幼稚園を目指す。 ・園開放や園庭開放の実施 ・地域の祭りや行事への参加 ・園外保育活動の実施 (2) 家庭の教育力向上に向け支援する。 ・保護者同士の交流の機会の設定・研修機会の提供 ・体験活動の機会提供・園便り等で情報提供 (3) 子育てについての相談の場を設定する。 ・園長とお喋り会・個人懇談会・金曜日園まで迎え（5歳児集団降園班） (4) 子育て支援センターとの連携	○園庭開放を月2回行い、降園を園庭側にしたことにより、担任と話す機会や保育室の様子を感じてもらえる機会が持てた。 ○保護者会が中心になって行った木製遊具の修理・作成や運動会後のバザー・模擬店は、幼稚園の保護者がリードする形ではあったが、保育所保護者の参加もあり、ひとつの目的に向かって協力する良い機会となった。保護者会活動を通して、家庭の教育力向上を支援していきたい。 △園開放の充実・園長とおしゃべり会の充実（育児相談・園の教育保育について・保護者間交流の場・体験等）を図る。 △子育て支援センターとの計画的な連携を進める。
小中一貫教育への取組（保幼小連携）	○幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続 ・教育内容や指導方法のあり方の相互理解を深める ・幼稚園児と小学生との交流で思いやりや優しさ憧れ等豊かな心を育む。	(1) 園児と児童の交流を行う。 ・園外保育「わくわく探検隊」 ・小学校行事への参加や見学 ・幼稚園行事に参加 (2) 職員の交流を行う。 ・合同研修・保育参観 (3) P T Aの連携を行う。	○2学期は園外保育で学校へ行く機会を多くした。直接行って雰囲気を感じることや身近に思う機会になった。来年度は、早くから計画を立てて連携に努めたい。 ○保護者会のベルマーク収集に協力してもらった取組を通して町内の各小学校とつながっていくことができた。 △職員の研修や交流等、峰山学園を通して連携をしていきたい。
研修	○園内研修の充実 ○教員の資質向上	(1) 年間研修計画により指導力の向上を目指した理論研修、事例研究に取り組む。 (2) 月案・週案・特別支援等園内研修の充実を図る。 (3) 初任者研修を通して、全職員が一緒に学ぶ機会を作り、資質を向上させる。	○初任者研修を通して、職員全員で園内研修が行えた。 ○10月は、丹後公立幼稚園教育研究会の交流学習会を通して園内研修を充実させることができた。 △正職も臨職も全員で研修をする機会が持てるようにし、資質向上に努めたい。
次年度に向けた改善の方向性	・「峰山学園」として同じ目標を持ち、小学校との連携を図っていきたい。 ・保護者が子育てに関心を持って意欲的に子育てしていけるよう、家庭との信頼関係に努めていくとともに、保護者同士がつながれるような機会をつくっていく。 ・保護者や地域に開かれたこども園として、参加型保育や保育参観日の工夫をしていく。 ・PDCAサイクルに基づいた質の高い保育・教育実践に努める。		

(別紙様式 2)

平成 27 年 度 学 校 評 価 自 己 評 価 報 告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立大宮幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔 いっぱい げんきななかま!!” 一かんじて かんがえて みんなでつながろう。― (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。		○自ら挨拶のできる子どもが増えた。 ○自分のことばで思いや考えを表現し、人の話を聞く態度が身についてきた。 ○園での子どもの活動内容や様子を分かりやすく保護者に知らせる工夫をした。 △職員間の報告・連絡・相談の徹底と研修を深める。 △保幼小の連携を通してスムーズな接続について研修を重ねる。	(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (4)大宮中校区（保幼小中一貫教育）の連携を進める。
評価目標	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ○自分の思いや考えを表現し行動できる力を養う。 ○幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。 ○常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。	(1) 園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 （園内）・砂.泥遊び・プール遊び ・園内の草木・野菜.花づくり ・虫取り・小動物の飼育 （園外）・遠足:天の橋立 ・散歩:花畑見学・神社・農道を歩く・よもぎ摘み・公園で遊ぶ・小動物捕り (2)あいさつ運動:玄関で元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3)登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 (4)活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。 ・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。 (5)散歩や集団降園などで交通ルール・集団でのルールを共に考え知らせる。また、保護者会で交通安全・危機管理について学習会を行う。（保護者会と共催）	○大宮町の自然に恵まれた環境に目が向けられるように保育者は言葉かけを行い、感動を言葉で伝える表現の仕方を学ばせることができた。 ○地域へ出かけて行き、地域の方の話を耳を傾け、かかわりを持つことで知識を広げることができた。 ○『朝の第一歩は挨拶から！』を伝えることで声を出すことの楽しさを知った。保育者が玄関で登園を迎え、挨拶を交わしながら子ども達の状況を視覚から感じ、保護者との連携で個に合った対応をすることができた。 ○友だちや保育者とのかかわりの中で感動や思い・考えを言葉で伝えられる環境を一緒にづくり、遊びが発展していく楽しさを味わうことができた。 △ルールやきまりを守ることの大切さを繰り返し指導する。（園児・保護者）

子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。	(1)子育て相談（随時） (2)園開放（月2回） (3)預かり保育 (4)支援センターの利用 (5)一時預かり制度の利用	○園や家庭での様子を送迎時・家庭訪問・電話連絡・メモ・個人面談・クラス懇談会などで伝え合うことができた。 △保護者と話ができる時間や場を考えていく必要がある。
小中一貫教育への取組 （保幼小連携）	○大宮中校区の連携 (1) 学びの“基礎力” ・遊びを通して、人とのかかわることの楽しさを知り、思いや考えを言葉で表現する子どもを育てる。 (2) 学びの“発展力” ・いろいろな人とのかかわり、自分の良さや友だちの良さに気づき、思いやりのある豊かな心を養う。	(1) 大中校区校園長会・経営会議を通して子ども達の実態から課題点を見つけ、共通の目標を持つ(ことば力・聞く力・話す力) (2)中学校との連携 ・地震津波合同訓練・体育祭見学・作品の交流 ・福祉体験での交流・参観交流 (3)小学校との連携 ・発表会（生活・音楽）鑑賞・連絡会・運動会見学 ・体験入学・保育参観・小1スタートプログラム検討 (4)保育所との連携 ・5歳児交流会・担任会・参観交流 (5)高校生との連携 ・花の苗植えと交流	○大宮学園の経営会議で共通の目標を持ち、『ことばの力』を中心に環境を整え、教育保育を進めていくことで、年齢に合った発達を促すことができてきた。 ○異校種交流を行うことで園児・保育者が生活や学びの見通しを持ったり、あこがれの気持ちを育てたりするなど、心を豊かにすることができた。 ○公開保育を通して職員間の連携や捉え方など学び合うことができた。 △5歳児を中心とした連携と交流であるが園全体(0.1.2.3.4.5歳児)の発達と教育保育の研修内容として学び合う。
家庭・地域との連携	○自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ○人とのかかわりを持つ力を育む。	(1)登園時間を9時までとし、集団で行動することの楽しさを知る。（生活点検カード） (2)社会人講師を迎えて様々な体験をする。 ・本の読み聞かせ・お茶会・サッカー教室 ・琴・尺八の演奏に合わせての読み聞かせ ・ALT との交流・看護学生との交流 (3)高齢者との交流 グループホームおおみやとの交流(随時)・おおみや苑	○活動内容を子ども達と相談しながら、時間の大切さや体を動かすことの楽しさを経験し、生活リズムと関係していることを学ぶことができ、行動へとつながってきた。 ○様々な講師を迎えたり、通園地域の方とのかかわりを持ったりすることで年齢なりの挨拶や言葉の使い方・かかわりができた。 △地域を知り、交流を深めていく。
次年度に向けた改善の方向性	○自ら挨拶できる子どもにする。 ○園での活動や様子を分かりやすく伝える工夫をする。 ○職員間の報告・連絡・相談を徹底する。		
	○思いや考えを年齢なりの言葉で伝え、人の話を聞く態度を身につける。 ○保幼からの小中一貫教育につながる0～5歳児までの発達や教育保育の研修をする。		

(別紙様式2)

平成27年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔 京丹後市立網野幼稚園 〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 (3) 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を養う。 (4) 常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 (5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。		・エピソードをとることにより、幼児の言動をしっかりと受けとめ、環境を整えて共感関係の確立に努めた。 ・仲間とともにを基盤に幼児達が考え、力を合わせ自分達で解決しようとする力に繋げていくことができた。 しかし、自分の思いをなかなか言葉で表現できない実情は残っている。 ・登降園指導、街頭指導等 PTA とともに指導にあたり交通安全対策に努め、地区委員を中心に反省をしその都度改善できた。 ・学校ボランティアによるお茶会や地域のデイサービスとの触れ合い等地域の方とかかわり学びを広げることができた。	「どきどき わくわく きらっ！」 ～自己肯定感をはぐくみ仲間とともにかがやく心の育ちをめざして～ ・楽しい幼稚園生活を過ごす ・主体的な活動をくり広げる ・人とつながり合うことの喜びを味わう
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	「どきどき わくわく きらっ！」 ～自己肯定感をはぐくみ仲間とともにかがやく心の育ちをめざして～ ・楽しい幼稚園生活を過ごさせる ・主体的な活動をくり広げられる環境をつくる ・人とつながり合うことの喜びを味わわせる	・一人一人の幼児と心をつなぎ、個々が安定できる幼稚園生活の創造をする。 ・自らが健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ・集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、他人に関心をもたせる。	○幼児一人一人を受け止め、話を聞き、寄り添うことを前提に様々な取組を進めてきた。友達と一緒に考え、頑張って取り組み、互いを応援することで達成感や成就感を共に味わうことができた。自己肯定感を“あったかはあと”とすることで幼児にもわかりやすく伝えられた。 ○年間通して体操やマラソンができたことは良かった。 △ほとんどの幼児が園生活のリズムが習得できている中、支援を要する幼児に対して具体的な方策が必要である。
子育て支援	・園開放により、就園前の親子の保育参加を行い、子育ての安定を図る。 ・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に幼児の様子を知らせ家庭と連携し、共に育てる。	・月1回の「なかよしスクール」を開催する。園児と交流をもったり、楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。 ・子育て講演会を開催し、子育てに関することを考える場とする。 ・保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。	○△「なかよしスクール」は予定通り月1回開催することができた。内容も園児との触れ合いや親子で楽しく遊び、地域の子育て支援の場としての役目は果たせた。しかし、更に幅広く認知してもらえるように広報の仕方を考えていく必要がある。 ○子育て講演会は参加率も高く意識の高さを感じた。 △送迎時や懇談会等で保護者の話を聞き、連携をとってきたつもりだったが、不十分な点があった。

小中一貫教育への取組 (保幼小連携)	・『網野学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき取り組みを進める。 ・幼小の円滑な接続の為、幼児と児童の交流の機会や、教師同士の合同の研修の場を設け、相互理解を深める。 ・保幼小連絡会を充実させる。	・小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に出席参加し内容を全職員で確認する。 ・保幼小連絡会や幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけ就園や就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会などの学校行事を見学させて貰うことにより、子ども達の就学に対する意欲、憧れをもたせる。 又日頃から保幼小の交流がもてるよう内容を検討していく。	○『網野学園』小中一貫教育推進方針の中の「これだけは！家庭編」に着目し、職員間でも共通理解し各家庭へもたよりに載せたりしながら啓発していった。 ○△経営会議や小1部会、また、公開授業等は積極的に参加し、アプローチプログラムの作成には協力できた。しかし、今後はその利用の仕方を園内で検討していかなければならないと考える。 ○幼小の連携が交流だけに終わらない為にも当初に計画を立て、実行できたことは子ども達の就学に対する意欲の高まりにつながった。
研修 (職員の資質向上)	・京都府公立幼稚園教育研究会研究発表に向け研究を進めていき、定期的に全職員で確認する。 ・職員全体で全園児を捉え、共通理解の下で課題を明確にし対応する。	・昨年に引き続き月一回、エピソードを持ち寄り学習する。 ・研究発表に向けた事前研修や公開保育等で指導・講評を頂いたことを全職員で学習し深めていく。 ・職員会議や園内研修においてそれぞれの職員が意見を出し合い、活発な会議となるよう職員の資質向上を図る。	○京都府公立幼稚園教育研究会研究発表は課題も残るが、学習を深めていった2年間の研究の成果が発表できた。 ○園内研修はワークショップやビデオ研修により、職員みんなが意見を言いやすい状況をつくることができた。今後も他の研修方法も探り、研修内容の充実と職員の資質向上を図りたい。
次年度に向けた改善の方向性	・京都府公立幼稚園教育研究会研究発表指定園を受け、様々な角度から保育を見直し、環境(物的環境・人的環境)の重要性を改めて知った。日々保育を見直し、検証していく必要がある。 ・小中一貫教育が本格始動していく中で、幼小の連携は必須であるが、地域や保護者等とつながる横の関係も更に密にしていきたい。 ・園内全体で全園児を捉えるべく、職員間の報・連・相をしっかりとし、また、園内の研修等を充実させ、職員の資質向上に努めたい。		

平成27年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔 京丹後市立丹後幼稚園 〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、生きる力をもつ子を育成する。 27年度合言葉・・・「元気・勇気・笑顔、つなごう・つなごう たんごのわスマイル！」		○異年齢交流は、継続的な取組により関わりも増え、やさしさや思いやりの気持ちが育ってきた。保育者間で協力や連携し共に育ち合える環境・関係作りが大切である。 ○身近な自然や人との出会いや関わりを大切に、自然体験や感動体験の機会を多く取り入れ、豊かな心や自主性が育つよう努力した。 △保幼小中一貫教育を見据えて、小学校へスムーズな接続が出来るよう、保幼小中交流の計画的な取組や職員間の連携・共通理解が一層望まれる。	・異年齢交流を通して、人と人とのつながり、いたわりややさしさ、思いやりの心を育む心豊かな人間性・社会性をもった子を育成する。 ・聞く力や話す力が身につくよう計画的に取り組み、自分の思いを言葉で表現するなど言葉力の向上を図る。 ・保護者、地域の人との連携や保幼小中連携を深め、自然体験・生活体験・社会体験を通して地域に根ざした園作りや、たくましく健やかな体と心をもった子の育成に努める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	豊かな人間性・社会性をもった子の育成 ・異年齢交流、合同保育を通して、いたわりややさしさ、思いやりの心を育む。 健康な体と豊かな心の育成 ・多くの体験を通して、心身共にたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ子 言葉力の向上 ・進んで挨拶や返事をする力をつける。 ・自分の気持ちを言葉で表現する力を育てる。 ・自分の思いを伝えたり人の話をしっかりと聞いたりする力の育成	・生活の中での異年齢交流、合同保育 散歩や遊びの交流・発育測定・つながり遊び・体操・リズム運動・運動会・遠足・発表会・誕生会・集団遊びなど ・縦割り活動（チーム活動、菜園活動、かかし作り、正月遊び・クッキングなど共同する活動） ・地域の人との交流や行事参加 ・地域の人との菜園活動や合鴨放鳥のお手伝い、サッカー教室、交通教室 ・挨拶運動の推進（挨拶デー、小中学校と同日の親子挨拶運動の取組） ・朝、終わりの会（1日の振り返り）、当番活動 ・保育者による読み聞かせ ・ボランティアによる読み聞かせ ・体験発表・お話作り・良い所発見	○継続的な異年齢交流の取組により、生活の色々な場面でいたわりややさしさ、思いやりの心が育ってきた。 ○色々な活動を進めたり相談し合う中で、自分の思いを表現したり、待つ・聞く・挑戦したりする姿が増えた。 ○人の話を聞く、思いを話す等繰り返しの指導により聞いたり、話したりする姿が多くなった。 ○日々の読み聞かせや保護者の読み聞かせ等、多くの方の読み聞かせを通して絵本好きの子が増えた。毎週の絵本の貸し出し冊数が増え言葉の力の向上につながった。 ○農業従事者の方との農園活動は、感動を伴う体験が多く心身共豊かになった。食育活動の推進にもつながった。 ○△挨拶運動、特に“ハイタッチ“の取組により成果はあった。しかし、誰にでも進んで挨拶をする雰囲気や環境作りは引き続き必要で月1回の保護者協力を求めている △色々な体験を通して開放感や満足感を獲得させながら、人の役に立つ体験や認められる喜びなど自信や意欲を育てる体験や環境の工夫、きっかけ作りを大切に取り組んだが、自分から進んで取組む自主性は不十分であった。

子育て支援	・保護者や未就園児保護者のコミュニケーションの場を作り、子育ての安定を図る。 ・家庭と連携し、家庭の教育力の向上を図る。	・子育てについて悩みなど出し合える場作り。(ママのお喋り会など) ・保護者の読み聞かせの実施(1回) ・子育て支援センターや園開放、園庭開放での未就園児との交流 ・園全体で、子育て講演会、クラス懇談会、個人懇談会 ・生活点検表の活用・・・夏、冬 ・預かり保育、一時預かり保育の活用 ・早延長保育の実施	○読み聞かせは、保護者の参加者も増え、読み聞かせの楽しさや必要性が高まった。 ○生活点検表は親子で生活を見直し、一緒に取り組むなど効果的であった。我が子のいい所探しも効果的だった。 ○講演会や懇談会は子育て支援につながった。 △ママのお喋り会は行事企画を通して会員の交流が深まったが、子育てについて話を深める場も必要である。 △講演会(夜)への参加が少ないので、時期や時間の見直しをしながら参加しやすい工夫が必要である。
小中一貫教育への取組(保幼小連携)	・保幼小中学校との連携を密にし、スムーズな接続を図る。 ・合同研修を通じた連携 ・園の様子や連携の取組を地域に知らせ、関心を持ち支援をしていただく。	・校園所長会の実施(毎月) ・保幼小連携会議の実施 ・地域に園だよりを配布し活動の発信 - 中学校・・・合同避難訓練、職場体験、合唱祭鑑賞、体育祭参観など - 小学校・・・運動会応援、学習発表会前の発表鑑賞、学習発表会参観、交流学習会への参加、体験入学、給食体験 ・保育参観と連絡会の実施 ・育ち部会との合同研修	○校園所長経営会議や保幼小連携会議の実施により小中一貫教育推進へ繋がった。 ○保幼小中合同研修は共通理解の場となったり、職員の交流の場にもなったりして連携が進んだ。 ○中学校との連携は中学生の優しさを通して憧れや親しみが増し身近な存在となった。又3年目となり連携が定着してきた。 ○小学校とは計画的に会議を持ちスムーズな接続へつながる取り組みが出来た。
研修(職員の資質向上)	・園内研修の充実 ・職員の資質向上	・年間研修計画に基づいて、指導力の向上を目指した研修や公開保育、事例研究に取り組む ・特別支援教育について研修を深め、職員間で共通理解をする ・研究テーマ(自己肯定感をもった子の育成)に沿って合同研修を進める ・PDCAサイクルの活用	○研修会への積極的な参加や復命研修、公開保育、研究テーマの取組などが職員の資質向上につながった。特に職員の自己肯定感が育めるよう意識した △特別支援教育については、講師を招いて学習を深めるなどの確な支援に向けた中身の濃い研修が必要である。 △保育所兼務、研修や諸会議も多い中、全職員で共通理解しながら研修を深める努力はしたが、計画的に取り組めなかった。 △常にPDCAサイクルの活用を意識した取組が必要である。
次年度に向けた改善の方向性	・異年齢交流は、継続的な取組により異年齢児との関わりもスムーズになり、優しさや思いやりの気持ちが育ってきた。一人一人の子どもの良さを認め合いながら共に育ち合える環境づくりや関係づくりを大切に豊かな人間性や社会性をもった子、思いを言葉で表現できる子など言葉の力の育成に努める。 ・身近な人との出会いや関わり、地域の伝承文化事象を大切に、自然体験や感動体験の機会を多く取り入れ、豊かな心と丈夫な体や自主性が育つよう努める。 ・挨拶運動を推進しながら保護者も交えて小中学校と同時期に挨拶運動日を設定し、挨拶や返事が飛び交う取組を強化する。(挨拶運動旗作成) ・保幼からの小中一貫教育本格実施に向けて、校園所長会を中心に連続性や共通性のある円滑な接続を目指して職員間で連携しながら共通理解を図る。 ・職員の資質向上のため引き続き研修時間を確保するよう計画的に取り組むとともに、特別支援教育の充実に向けて一人一人を大切にした保育や保護者のニーズも大切にした支援に努める。		

(別紙様式2)

平成27年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立弥栄幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
「自然に親しみ 丈夫な体と 豊かな心を持った 明るい子どもの育成」 ○健康で生き生きと活動する子どもの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもの育成			○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための教育活動を充実させる。 ○園開設初年度に当たり、計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。 ○保幼小の効果的接続の在り方について、隣接弥栄小学校との共同研究を充実させる。 ○園開設初年度に当たり、家庭・地域との連携の仕組みを整え、教育活動、子育て支援を充実させる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○明るく伸び伸びとした行動力、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成する。 ○園生活での身近な人と親しみ、関わりを深め、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。 ○身近な環境や自然に自ら関わり、発見や考えたことを生活に取り入れる力を育成する。 ○自ら思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする、豊かなコミュニケーション力を育成する。 ○五感を磨き、豊かな感性や表現力を育成する。	○主体的な活動、体験活動を充実させる。 ・主体的に活動する中で、生活に必要な習慣や規律を自ら取り入れる力を育むための健康・安全・生活指導の充実を図る。 ・楽しみながら体力づくり、友達づくりを行う力を育むために、体を目一杯使う運動・遊びの充実を図る。 ・園内外の自然・自然物へ主体的に働きかけ、発見や感動を体験させるための体験活動の充実を図る。 ・豊かな人間関係を結ぶ力を身に付けさせるために、異年齢活動の充実、地域連携教育活動の充実を図る。 ○生きる力の基礎基本の徹底を図る。 ・衛生指導、食育指導、園内事故防止指導、交通安全指導等、自分の命を守る指導・教育活動の充実を図る。 ・豊かなコミュニケーション力を育むため、読み聞かせ・絵本等言葉の表現を楽しむ場面、保育士の指示・教えを聞く場面、友達の思いや考えを聞く場面、自分の思いを伝える場面等、全ての園生活を通して言葉を介した教育活動の充実を図る。 ○心の教育を充実させる。 ・当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等を通して、思いやる心や自尊感情を育むための体験活動、指導の充実を図る。 ・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会を大切にする指導の充実を図る。	○主体的な活動、体験活動を充実させることができた。 ○日常的・主体的に、生活習慣・規律を身に付けさせるための健康・安全・生活指導の充実を図ることができた。 ○子ども達が作り出すサーキット等を取り組み、楽しみながら体力や友達を作る力を育むことができた。 ○計画的に園外教育に取り組み、自ら自然に働きかけ、発見や感動を体験させる活動の充実を図ることができた。 ○異年齢活動や地域連携活動を充実させ、豊かな人間関係を結ぶ力を育むことができた。 △さらに、様々な異年齢活動の充実を図る。 ○生きる力の基礎基本の徹底を図ることができた。 ○きめ細かな日常指導や行事(クッキング・交通安全啓発事業)により衛生・園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。 ○園生活の全ての聞く場面・思いを伝える場面や創作劇の取り組みを通して、言葉を介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 △さらに、話し合い活動の充実を図る。 ○心の教育を充実させることができた。 ○当番・野菜栽培・カイコ飼育・異年齢活動等を充実させ、思いやる心や自尊感情を育むことに努めた。 ○園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会や人権教室・地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。 △さらに、豊かに関わりあう活動場面の充実を図る。

子育て支援	○発達年齢に応じた家庭教育目標について、計画的に発信し、家庭の教育力を向上させる。 ○保護者の子育て不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように、子育て支援を充実させる。	○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に関わる家庭教育指標を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会（PTA）」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための子育て支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。 ○日常的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援を充実させる。	○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園HP」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会（PTA）」等により、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、発信・取り組みを充実させることができた。 ○日常的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。 △バス通所、多様な降園時刻対応のための降園方法により、保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対して、より効果的な子育て支援のための情報連携の工夫を図る。
小中一貫教育への取組 (保幼小連携)	○弥栄中学校区小中一貫教育実施に向けて、保幼小中の連携内容・方法を整える。 ○弥栄小学校との「もうすぐ1年生」体験入学推進事業の取組を充実させる。	○弥栄中学校区小中一貫教育準備校の取り組みを通して、10年間の一貫した教育を実現するための基盤となる力の育成を図る。 ○年間を通して計画的に幼小連携教育活動を充実させ、小1プロブレムの解消を図る。 ○教職員の合同研修会・研究協議を通して、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのカリキュラム、指導方法について研究する。	○弥栄中学校区小中一貫教育準備校の取り組みを通して、経営会議で明らかになった、10年間の一貫した教育を実現するための基盤となる力を育成するための目標達成に向け、園教育の充実に努めた。 ○弥栄小学校との「もうすぐ1年生」体験入学推進事業を通して、年間を通して計画的に幼小連携教育活動を充実させ、小1プロブレムの解消に努めた。 ○弥栄小学校との日常的な交流を深めることができ、保幼小連携の基盤づくりを充実させることができた。 △さらに、教職員の合同研修会・研究協議を通して、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのカリキュラム、指導方法についての研究を充実させる。
家庭地域との連携	○園開設初年度に当たり、園・家庭・地域との連携の仕組みを整える。 ○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。	○3保育所の保護者会（幼稚園PTA）の特色ある活動、組織運営を引き継ぎ、園と家庭、保護者同士の連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための組織づくり・活動づくりを進める。 ○弥栄こども園ならではの園周辺環境・施設を活用した園外教育活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図る。 ○園だより、各クラスだより等、園からの丁寧な発信により、新生「弥栄こども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との連携の充実を図る。	○3保育所の保護者会の特色ある活動、組織運営を効果的に引き継ぎ、園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための組織づくり・活動づくりを進めることができた。 ○弥栄こども園ならではの周辺環境・施設を活用した新たな園外教育活動の創造と充実、地域ボランティアの活用による新たな園内教育活動の創造・充実を図ることができた。 ○園だより、各クラスだより、園ホームページ等、園からの丁寧な発信により、新生「弥栄こども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との連携の充実に努めた。 △保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対して、より効果的な情報連携の工夫を図る。
次年度に向けた改善の方向性	○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常的教育活動・異年齢活動の充実を図る。 ○計画的に事例研修・公開保育等園内研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。 ○園開設2年目に当たり、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○保幼小の効果的接続の在り方について、隣接弥栄小学校との連携教育活動・共同研究の充実を図る。 ○弥栄中学校区小中一貫教育の実施に当たり、10年間の一貫した教育を実現するための基盤となる力を育成するための園教育の充実を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔 京丹後市立かぶと山幼稚園 〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
≪元気 勇気 笑顔 つながれ仲間≫ ～一人ひとりが輝いてみんなとつながる喜びを感じよう～ 1 幼児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切に作る心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。			○幼児自らが環境に興味関心を持ち、様々な体験を通じて自分に自信を持って意欲的に活動する力をつける。 ○生きる力の基礎となる基本的生活習慣の自立を意識させる。 ○保護者の子育てへの不安に寄り添い、安心して子育てができるよう支援する。 ○地域の自然や文化にふれ、生活体験や社会体験を豊かにする取り組みをすすめる。 ○保幼小中連携を深める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程	○幼児自らが環境に興味関心を持ち、様々な体験を通して自分に自信を持って意欲的に活動する力をつける。 ○自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 ○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的生活習慣や態度を養う。 ○常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。	(1) 丹後の自然の中で、五感を通して遊ぶ。 (園内)・砂、泥遊び、プールあそび ・園内の草木、野菜、花作り ・虫とり、生き物の世話 (園外)・牧場見学、梨狩り、久美高農場見学、神社、農道を歩く・かぶと山公園、展望台であそぶ (2) 挨拶をする：登園時、降園時に挨拶をすることによって、言葉を交わす心地良さを知る。 ・自分の思いをことばで表現する機会を設定する。 (感動体験の発表、話し合いの機会の設定) ・基本的生活習慣が確立し、どれだけ自立しているのか個々の実態を把握し、個々に合った助言、指導を行う。 (3) 生活の中での危険や危機に気づかせる。 ・散歩、遠足、交通指導教室などで交通ルール、集団行動のルール等を共に考え、知らせていく。 ・遊具の安全な使い方を知らせる。	○泥の運搬やままごとハウス設置など環境を整えることで遊び込むことができた。戸外活動を多く取り入れることにより、体幹・足腰がしっかりしてきた。 ○牧場見学・高校生との交流・地域活動への参加などにより非日常的な活動を楽しみ、たくさんの経験を持つことが出来た。 △挨拶の徹底ができなかった。自然と挨拶のできる雰囲気づくができなかった。 ○保育者が、子どもの気持ちや思いを汲みとり、気長に待ってやることで自分の思いを自分の言葉で言える子どもが増えてきた。 ○生活点検表記入により、基本的生活習慣の自立について保護者に意識してもらえた。 ○くり返しの指導により、保育者の指示をしっかりと聞き行動できる子どもが増えた。

子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。	(1) 子育て相談（随時） (2) 園開放 (3) 預かり保育、一時預かり保育の活用 (4) 支援センターの利用 (5) 子育て講演会	○各制度、センター等は利用者が多く、おおむね満足されている。 △気になる子どもを、療育や発達機関に繋げることができたが、保護者と定期的に話し合う場を持つことが難しかった。
小中一貫教育への取組 （保幼小連携）	○小中学校との連携を密にし、スムーズな接続を図る。	(1) 町内校園長会に出席して子ども達の実態を聞き、共通の目標の為に幼稚園でできる事を見出す。 （生きる力を養う） (2) 中学生の職場体験での交流 (3) 小学校との連携 ・運動会見学・体験入学・授業体験・クラブ発表見学	○連絡会・経営会議・アプローチカリキュラム作成など、交流する機会を多く持つことができ、同じ目標を共有することができた。
危機管理	○幼児の特性を十分に理解した上で、職員一人ひとりが事故防止に心がけ、気配りをして事故を未然に防ぐ。 ○幼児と職員の命を守る為に安全な保育環境を保障する。	(1) アナフィラキシーショック・熱性痙攣への対応 ・全職員が常に事故防止についての高い意識を持つ。 ・緊急時に適切な対応ができるように、全職員でロールプレイングをする。 ・個々の危機管理マニュアルを作る。 (2) 想定される災害・事故等に対処する職員体制の確立 ・火災、地震、津波の避難訓練、及び防犯訓練 ・ヒヤリ事例、ハット事例の報告	○職員全員でアナフィラキシー対応の研修・朝礼での除去食確認により、全員が危機感を持って対応できた。 △危機感が薄れない為の、定期的な研修ができていない。 ○火災、地震がいつの時間に起きても対応できるように、避難訓練の時間を様々なときに設定した。 ○警察官による防犯訓練や消防士による防火訓練ができ、職員同士の行動確認ができた。
次年度に向けた改善の方向性	・幼児をとりまく環境づくりに力を入れる。自然環境はもちろんであるが人的環境を一番と考え、職員一同が同じ目的・同じ意識を持って教育にあたることのできる集団づくりをしていく。その為に、昼や終礼の時間等を有効に使い、短時間でも研修できる体制を整えていく。 ・幼稚園ができたことにより、高校生・老人クラブ・各ボランティア・指導主事など多くの人が来園され、多くの刺激を受けた。しかし、園からの発信ができにくかったので、施設慰問や地域の行事などへの積極的な参加を考えていく。 ・子ども達の姿をタイムリーに保護者に伝えることにより、子ども達の成長を感じてもらおうと共に、園の信頼感へと繋げていくようにする。		

(別紙様式1)

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立峰山小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。 2 授業力の向上に全力を尽くす。 3 子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。 4 地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。		○学力の充実・向上及び学習習慣の定着と教員の授業力の向上を目的とした集中取組期間を各学期に設定する等、教育活動の工夫・改善を進めることができた。 ○特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させることができた。 △互いを尊重し、望ましい人間関係をはぐくむ学級経営を充実させる必要がある。	1 汎用性の高い能力をはぐくむ授業を工夫し、「授業が楽しい」と感じる子を限りなく増やす。 2 児童が安心して学べる学級経営を充実させ、「学校が楽しい」と感じる子を限りなく増やす。 3 教育的ニーズに応じた特別支援教育を進める。 4 地域社会の一員として地域に貢献しようとする子を限りなく増やす。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○学習意欲を高め、思考力、判断力、表現力をはぐくむ魅力ある学習指導を行い、学習内容を確実に定着させる。	○教材研究に十分な時間をかけ、指導目標と学習のめあてを明確にする。 ○家庭学習の習慣を確立するため、家庭学習の手引きを活用する。 ○教員の授業実践力を高め、基礎学力の充実・向上、学習習慣の定着を図るために、保護者の協力も得ながら学校あげて集中的に取り組む。 ○学習に関する児童アンケートをもとに検証し、指導方法の改善・開発を進める。	○学習に関する児童アンケートでは、先生はわかるまで、できるまで教えてくれる（96%）、授業はわかりやすい（95%）、授業中は先生の話や友達の考えをしっかりと聞いている（93%）と肯定的回答の割合が高い。 ○小グループで話し合う活動を取り入れた学習形態を工夫したことにより、自分の意見や考えを発表している（86%）と、昨年度結果より9ポイント上昇した。 △宿題を忘れずにしている（92%）と、学年の目標としている時間以上家庭学習をしている（81%）とを比較すると、家庭学習の時間に課題があるといえ取組が必要である。
生徒指導	○自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を培うとともに、人を思いやり礼儀を重んじる心をはぐくむ。	○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童が自己決定をしていく場を増やした指導を行う。 ○豊かな人間性をはぐくむため、児童会活動をとおして異年齢活動やチーム活動を活発にする。 ○学校不適應や不登校を起こさせないため、早期発見、早期対応と情報共有に努める。	○生活に関する児童アンケートでは、学校は楽しい（89%）、学校のきまりを守っている（92%）と肯定的回答の割合が高い。 △いじめはどんな理由があってもいけない（83%）と、昨年度結果より15ポイント低下しており、高学年児童の意識の変化を検証し、心に響く指導を工夫する必要がある。 △だれもが認められる学級経営を推進し支援の必要な学級に対しては全校指導体制を整え指導を充実させる。

健康（体育）・安全	○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。	○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、朝の体力づくりに取り組む。 ○家庭との連携を図りながら基本的な生活習慣を確立するための点検活動を行い、生活を改善する取組を行う。	○体力づくりの学級での取組目標を設定することにより目標を持って体力づくりに取り組む児童が増えた。 ○PTAや校区安全ボランティアの会との連携により登下校の見守り活動を継続的に行うことができています。 ○地域ぐるみで子どもの安心・安全を確保する観点から不審者情報については地域・保護者に積極的に広報した。 △早寝早起きには課題あり家庭と連携した生活習慣を確立する取組を強化する必要がある。
小中一貫教育への取組	○保・幼、小、中学校の一層の連携をととして、小学校への入学や中学校への進学 の不安を限りなく減らす。 ○小中一貫教育モデルカリキュラムを検証する。	○京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し、小中9年間を通して、一貫性のある言語活動や学び方の指導を行う。 ○中学校での関数領域につながる算数の学習内容について小中一貫教育カリキュラム算数・数学編を活用し、系統性を踏まえた授業づくりを行う。 ○特に6年生については中学校の授業や生活を体験する取組を充実させる。	○峰山学園教育目標に関する児童アンケートでは、自分にはよいところがある（83%）、将来の夢や目標を持っている（78%）と肯定的回答の割合は高い。 ○中学校での授業体験、合唱祭への参加、部活動体験等の中学校生活体験活動や交流活動を行うことで、6年生児童の中学校生活への期待が大きく膨らんだ。 △小中一貫教育モデルカリキュラムの趣旨を生かし「ことばの力」をはぐくむ指導を充実させる。
特別支援教育	○一人一人の教育的ニーズに応じたすべての子どもを支援する教育を推進する。	○通常の学級に在籍する特別な支援を必要としている児童に対して落ち着いた学習環境を整えとともに、特性に配慮した指導を進める。 ○特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに対応するため、保護者との信頼関係を築きながら、個別の指導計画や個別の教育支援計画を改善していく。 ○得意分野を伸ばす指導を積極的に取り入れる。	○エジソン学級の開設を契機に得意分野を伸ばす指導を増やしたことで児童の自信と学習意欲を高めることができた。 ○保護者と定期的に懇談し合意形成を図りながらニーズに応じた特別な支援を要する教育を進めることができた。 △過剰な刺激を減らし、整然とした学習環境、教室環境を整えることが必要である。
研修（資質向上の取組）	○授業研究を充実させ実践的指導力の向上を図る。	○峰山学園の取組とリンクさせ、自己決定の場があり、共感的な人間関係をはぐくみ、自己存在感のある授業のあり方について実践的に研修する。 ○授業研究を充実させるための理論研修の回数を増やす。	○峰山学園としての指導方法の工夫・改善を進めるため、中学校と同じ視点に立ち、授業づくりを進めることができた。 △認識の力を高める授業づくりを引き続き推進する。
次年度に向けた改善の方向性	1 学習意欲の高い児童を育成するため、ことばの力をはぐくみ学習能力を高める指導の工夫・改善に努める。 2 児童が互いに認め合い安心して学べる学級経営の充実に努める。 3 教育的ニーズに応じた支援を充実させ、保護者との合意形成に基づく特別支援教育の充実に努める。 4 峰山学園の他校と切磋琢磨し、互いの指導のよいところを取り入れ、小中一貫教育の質を高める。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉原小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園 【児童】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園 【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学園 【保護者・地域】		○研究授業を通して、ねらいが明確でわかりやすい授業に向けての授業改善が図られた。 ○生徒指導部のねらいを踏まえた児童会活動の実施により、よさを認め合う活動等により、自己肯定感の高まりが見られた。 ○本年度の重点の意識化により、学級経営、分掌経営に重点を意識した目標及び具体的方策が作成され、実践が進められた。 ○児童欠席者数の減少、保護者の授業参観等の行事への参加増、感想等から、児童・保護者の学校への意識が好転した。 △小中一貫教育の趣旨とその重要性が担任レベルの意識にまで十分に浸透したとは言い難い状況が見られた。	・基礎基本の定着と個に応じた指導のための授業及び取組の充実・改善 ・活用する力と学習意欲を高める授業への改善 ・支援を要する児童への指導の充実 ・道徳教育・人権教育の指導の充実 ・いきいきと活動する意欲を育てる指導の充実 ・全校的な体力づくりの推進 ・ねばり強く挑戦する態度の育成する指導の充実 ・情報の発信、学校公開の推進 ・一貫教育の推進と地域住民・保護者との連携強化
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・授業研究を中心に、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 ・組織的で個に応じた指導・補習体制を確立させ、基礎学力の定着を図る。 ・知識・技能を用いて活用する力を育成する授業と学習意欲を高める授業を積極的に進める。	・研究推進部が中心となり算数を研究の柱として「ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を事前研・模擬授業を通して構築し、研究授業の中で学び合い、検証する。 ・マナビータ임、補習・発展学習等により、担任外を含めて、個に応じた支援をする。 ・知識技能を用いて、考える力を育成する授業と学習意欲を高める授業を学力充実のための授業として意識し、授業改善に努める。	○グループ学年での事前研・全体での模擬授業を取り入れた事前研を通し、学校全体で研究授業を構築し、研究そのものが主体的な研究となり、事後研も活性化した。その中で全学年がねらいを明確にすることを意識し、日常の授業に反映された。 ○家庭学習ステップアップ月間（家庭学習がんばり月間）の実施により家庭学習の習慣が定着してきた。 ○チャレンジ問題(掲示物)に興味を持ち解いてみようという気持ちを持たせ、遊びの中で活用する力を伸ばすことに繋がられた。
生徒指導	・良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 ・発達段階に応じた「友だちと仲よくし、助け合う」の気持ちを育成する指導を進め、優しいいっぱいの学校をつくる。	・教師が児童の良さを、児童同士が互いの良さを通信・学級活動、異年齢集団での活動を通して伝え合い、自己肯定感を高め、意識して積極的な態度を育成する。 ・特別活動、学級活動、道徳の時間他全教育活動を通し、人権教育・道徳教育を推進する。	○学校・学級通信で児童の状況を肯定的に伝え、互いの良さを認め合うことができた。 ○異年齢集団の活動を通して、他学年から児童の良さを認められ、また、人権旬間では、「友達の良さを見つける」取組で自己肯定感・自己有用感を感じることができた。

健康（体育）・安全	・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 ・困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する	・児童一人一人に目標を持たせ、朝マラソン（雨天時の縄跳び）等を実施し、自己の体力増進を図るとともに、粘り強く目標に向かう気持ちを育てる。 ・児童への保健指導、保護者への啓発（保健だより等）を行い、体力の向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。	○運動会・校内マラソン大会・大縄大会等の取組に向け、異年齢集団で教え合い、励まし合う姿があり、技能面も含め心身の健康への気持ちが高まった。 ○体重測定時等に行うミニ保健指導が有効で、自分の身体に関する意識が高まった。学年の発達段階に応じた性に関する指導を通し、命の大切さを意識するようになった。
小中一貫教育への取組	・小中一貫教育推進により中学校との円滑な接続を図るとともに保護者・地域との連携を一層強化する。	・中学校との円滑な接続をねらい、各学年で付けなければならない学力を明確にし、発達段階に応じた指導を行う。 ・小小連携を活用し、基礎基本の充実を図る。 ・アプローチプログラム・スタートカリキュラムを活用し幼・保との円滑な接続を図る。	○峰山学園の各担任会において中心となる教材を確認しモデルカリキュラムに沿って実践することができた。 ○幼保がアプローチプログラム・スタートカリキュラムを意識し教育・保育を行い、小学校がスタートカリキュラムを活用することで円滑にスタートが切れ、1年生も安心して学校生活を送れた。 △学校風土があり、足並みをそろえる部分では、小小連携を一層推進する必要がある。
開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進めるとともに、学校再配置について準備を進める	・学校便り、学級通信、ホームページ、保健だより等で、学校・児童の様子や意図的な肯定的評価を発信し、学校公開を進める。 ・様々な情報を発信し、できる限り情報の共有をする。特に再配置の情報については意図的に発信する。	○学級通信は毎日の様子を保護者へ発信することができた。ホームページはアクセス数 10 万を目標にし、11 月には達成できた。 ○学校便り、学級便り、ホームページ等、肯定的評価を発信したため、保護者に学校の動きを知らせるとともに信頼につながった。 ○再配置について学校だより等で積極的に発信した。 △学校側からの一方的な発信になりがちであった。
特別支援教育	・学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	・教育相談部を中心に支援を要する児童を的確に把握し、具体的な支援方策を検討し、明確にしながら、担任・保護者と連携を密にした指導を進める。	○配慮を要する児童に対して、学校体制の中で支援方策を共通確認し取組めた。また、保護者、関係機関との連携を密に行うことができた。 ○特別支援学級では保護者との面談を繰り返し行い、児童の特性、発達段階に応じた指導を行うことができた。 △中・高学年に対する支援が弱かった。
次年度に向けた改善の方向性	1 新設校「いさなご小学校」として落ち着いた学校環境づくりが最重要課題である。新設校といいながらも学校規模の異なる 2 校の再配置でもあり、何かと混乱が起こることが予想される。学習、生徒指導、特別支援教育その他多方面にわたり配慮が必要と考えている。 2 学校評価を踏まえ、児童・学校状況など、実態に即して重点目標の設定と年間を見通して進行管理を徹底する。 ・峰山学園としての幼小、小小、小中連携の強化、家庭との連携強化による学力の充実 ・学習指導面、生徒指導面、特別支援教育について 3 学習指導における算数科の研究の充実を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立五箇小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
課題を主体的に受け止め、最後まで粘り強く立ち向かう力を育て、峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。 学校再配置に向けて、閉校準備も併せて、保護者・地域の方々が「一緒になって良かった」と思える学校づくりに向け、計画的に準備を進める。		○ 挑戦する心を持ち、粘り強く課題に取り組もうとする意欲を高めることができた。 ○ 漢字・計算力を高める取組を継続的に行うことにより、児童の意欲を高めると共に漢字・計算力の向上を図ることができた。 △ 引き続き、自分の思いや考えを表現する力等、高める取組を計画・継続的に進めていく必要がある。 △ 家庭学習・読書など保護者との連携を深め、取組を進める。	今年度の達成目標の実現に向けた実践を進める。 1 自分の考えを持ち、考えや思いを表現する児童を育成する。 2 友だちと仲良くし、思いやりの心をもって行動できる児童を育成する。 3 挑戦する心を持ち、粘り強く最後まで努力できる児童を育成する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で、児童が「わかる授業」・「できる授業」を計画的に進める。 2 自分の考えや思いを発表する場を全教育活動の中に設定し、思考力・表現力の育成を図る。 3 組織的で個に応じた指導・補習体制を確立させ、基礎学力の定着と発展学習の進展を図る。	1 研究推進部が中心になって、算数を研究の柱とし、ユニバーサルデザインの視点を生かした、ねらいが明確で児童が「わかる授業」・「できる授業」づくりに全職員で取り組む。 2 普段の授業をはじめ、朝会や集会活動を中心に全教育活動の中で思考力・表現力を育てる取組を進める。 3 放課後の補習・発展学習等により、授業だけでなく、学級での活動全体を通して、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。	○「わかる・できる授業」に向けて、全教職員で研究授業に取り組み、前時の振り返り、問題提示、自力解決グループ交流、まとめ、ふりかえり、適応問題、発展学習という、五箇小学校独自の学習スタイルを確立することができた。 ○行事や普段の学習の中で思考力・表現力を高めることができた。 △放課後補習・学年対抗で漢字・計算を競う取組で、一定の成果を上げることはできたが、家庭との連携した取組には課題が残った。
生徒指導	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 児童の良さを伝え合い、互いに認め合うことで、児童個々の自己肯定感を高める。 3 異年齢集団による活動を工夫し互いに思いやる心を育てる。	1 教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方策を明確にしながら、担任・保護者と連携した指導を進める。 2 自己肯定感を高める取組を生徒指導や特別活動の取組の中に位置付け、継続的に進める。 3 行事や取組では、高学年にはリーダーとしての役割を持たせる。特に6年生には「あこがれの6年生」として積極的に他の学年の児童と関わる場を設定する。	○支援を必要とする児童の状況を的確に把握し、具体的な支援方策を教職員で意志統一しながら、指導することができた。 ○教員が朝会で児童の良さを伝えることで、児童に自己肯定感を持たせることができた。 ○6年生の頑張りで行事や取組が成功したと感じられる評価を行うことで、「あこがれの6年生」として育てることができた。

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも最後までねばり強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1 集中的に朝マラソンや五箇りんピックの取組等を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 2 個々のめざす目標を明確にし、個々の発達段階に応じた取組の中で、達成感を持たせねばり強く挑戦する態度を育成する。	○朝マラソン、朝縄跳びなどを通じて体力の向上と休まない身体づくりを目指して取組を進めてきた結果、全校で欠席0の日が107日となり、欠席も大幅に減少した。 ○マラソン大会では、全員が完走することができた。また、大縄大会では、全種目で大会新記録が出ただけでなく、大縄では高学年、低学年ともに全チームが大会記録を上回る成績を出すことができた。
小中一貫教育への取組	1 峰山学園の教育目標に迫るため、本校の今年度の達成目標を設定しその実現を図る。 2 9年間を見通した一貫性・系統性のある指導を進める。 3 峰山学園の取組を積極的に保護者・地域に発信する。	1 峰山学園の教育目標に迫るため、本校の児童の実態をもとに具体的な達成目標を設定し、全教育活動の指針とする。 2 指導法の研究、児童生徒理解等、小中の連携を密にとりながら一貫性・系統性のある指導を進める。 3 ホームページや学校だより、学級通信を活用した積極的な情報発信を行う。	○本校の今年度の達成目標を設定し、その実現に向けて教育活動を展開することにより、峰山学園の教育目標に迫ることができた。 ○ペア学習やグループ学習など、小中で重要視している授業展開を取り入れながら、授業研究を進めることができた。 ○今年度から峰山学園教育支援協議会も立ちあがりホームページやたよりなどで積極的に情報発信をおこなった。
研修（資質向上の取組）	1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。 2 個に応じた指導の推進と指導法について研修を進める。 3 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	1 活用する力と学習意欲を高める指導について校内研修を行い、共通理解のもとその視点を意識した授業を学年に応じて進めていく。 2 職員会議や校内研修の校長通信を活用して、個に応じた指導法についての研修を行う。 3 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方について研修を進める。	○授業研究会に向けて、グループ研、事前研、事後研のみならず、模擬授業に取り組み、活用する力と学習意欲を高めるための研究を進めることができた。 ○職員会議、校内研修では校長通信を使って、学級経営や、児童理解・アクティブ・ラーニングなどの研修を実施した。 ○峰山学園の合同研修会を通して、中学校卒業時に責任を持つ系統だった指導を研修してきた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信を行う。 2 P T A・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 3 地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 4 学校再配置に関わって、保護者・地域との情報の共有・双方向での発信を行う。	1 学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 2 P T Aをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 3 地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 4 学校再配置に向けて、保護者・地域の思いを吸い上げながら情報の共有を図り、よりスムーズに準備を進めていく。	○学校だより、学級通信、ホームページの更新、新聞報道により学校の様子を積極的に発信することができた。 ○P T Aや五箇地区区長協議会、五箇地区公民館、敬老会との連携をし、閉校に向けた取組を進めることができた。 ○朝マラソン・放課後補習などに学校支援ボランティア等の活用を図ることができた。 ○学校再配置に向けて、保護者、地域の思いを吸い上げながら、準備を進めることができた。
次年度に向けた改善の方向性	「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」の実現に向け、峰山学園の経営方針に基づいて取組の具現化を行う。 1 学校再配置初年度となるため、保護者・地域の方々が「一緒になって良かった」と思える学校づくりを最優先に取り組む。 2 全市的に小中一貫校がスタートするにあたり、さらに自校課題克服に向けて一層努力する。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		○学校課題を克服するための学校運営システムの整備が進んだ。 ○算数科を重点とした授業改善に取り組み、中学校区で確認している授業の視点に基づいた授業づくりが進んだ。 ○指導体制を配慮し、学校事故件数が大きく減少した。 △組織体系の組織化・効率化・機能化の質を高める。 △「楽しく、実感を伴った学習の創造」「分かりやすく伝える力の習得」「学び合う集団」の実現に向けた授業づくりを目指す。 △学級活動・児童会活動等を通して、児童が自ら生活上の諸問題を解決する力を培う実践を進める。 △教育課題克服の系統性を明らかにする。 △家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上と地域の教育力の活用を図る。	1 確かな学力の育成 2 コミュニケーション能力の育成 3 評価を見通した取組の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、指導方法及び授業改善に生かすことで学習意欲を高める魅力ある学習指導を行う。 2 自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力、豊かな人間関係の育成に努める。 3 豊かな人間関係を背景に将来に渡って、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	1 学力診断テストや学力・学習状況調査等の結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善に取り組む。 2 算数科を重点教科として、自分の考えを深め・伝え・共に考える能力の向上を目指すとともに、課題解決を楽しむ力の育成に繋がる授業研究を進める。 3 全教育活動で言語活動の充実（書くこと・読むこと・読書）を図る。 4 家庭学習も含めたすべての教育活動を有機的に関連付けて学力の向上を図る。 5 効果測定と授業との関連を明らかにし、目標と指導と評価の一体化を進める。 6 家庭訪問・連絡ノート・懇談会・たより等で家庭との連携を図り、生活習慣、家庭学習課題の改善に取り組む。	○算数科の研究を通して、児童が意欲を持って学習に臨み、考えを伝えあったり教えあったりする活動を取り入れた授業研究を行い、確かな学びのある授業づくりを推進することができた。 ○学力診断テスト等の結果分析や学期毎に基礎的・基本的な学習内容の定着状況を把握し、回復指導を通して、基礎学力の定着を図った。 ○授業だけでなく指導の場全体で学力課題克服のための指導について実践が進んだ。 △伝え表現したいと思える学習意欲の向上を進め、友達と共に学び合える授業改善を進める。 △適切な表現に注目させるなどして、言語活動を教育活動の様々な場面に位置付けて、言語活動の充実を図る。 △家庭との連携を更に進め、家庭学習の充実を図る。
生徒指導	1 人権尊重、規範意識の醸成という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、より良い人格の形成を促す。 2 自らの課題を解決する意欲と	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営に努め、子ども同士を適切に繋ぎ、児童一人一人が活躍できる学級を土台に、学習指導はもとより多様な異年齢活動に取り組む。 2 主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童が自己決定をしていく場を充実させた指導を行う。 3 学期毎に実施する学級経営評価の充実を図る。 4 学級経営の安定を図るための事例研究(学習集団の育	○自己有用感を育む授業づくり・学級活動・異年齢活動に取り組み、適切に繋がる人間関係の育成が進んだ。 ○学級集団づくりの必要性・ねらい等について継続した研修ができた。 ○生徒指導部のセンター機能を発揮させ、問題事象への指導の教訓化ができた。 △生徒指導部のセンター機能を更に強化し、予防的な生

	実践力を育成する。また、「いじめ」「不登校」等の諸問題については、未然防止に向けて早期発見・早期組織的対応、日常的な教育相談活動を行うとともに「心の教育」の充実を図る。	成・人間関係づくり・自治的活動)に取り組む。 5 生徒指導部会を充実させ、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚、日常的課題事象に対するセンター機能の強化は勿論、生徒指導の3機能を生かした指導の在り方に迫る活動を充実させる。 6 生徒指導上個別な支援が必要な児童について、支援内容・方策・体制・家庭との連携内容等について組織的な対応を充実させる。	徒指導を推進する。 △いじめ防止、事故・怪我の減少、規範意識の醸成等の指導力の向上を目指した実践の充実を図る。 △児童の自己決定の場を設定し、学級・児童会における自治的な活動を充実させる。 △安全な登下校・家庭での基本的な生活習慣の確立・心の教育・規範意識の醸成など、家庭・地域との連携の強化を図る。
健康（体育）・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に親しむ能力や態度を育成し、体育・運動能力の一層の充実を図る。 2 早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立し、健康で安全な生活を営む、たくましい実践力を育成する。	1 校内事故の防止指導の充実、登下校の安全指導・体制の充実を図る。 2 教科体育の充実とともに、日常的な活発な遊び、継続的な朝マラソン・朝縄跳び指導を充実させ、児童の基礎体力の向上を図る。 3 年間を通して、計画的に食育・保健指導に取り組む。 4 生活点検の取り組みを充実させ、生活改善に取り組む。 5 より良く生きるため体・心・命の教育、薬物乱用防止教育に取り組む。 6 施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 7 多様な状況を想定した実践的な避難訓練に取り組む。 8 登下校の安全を守るため地域・PTAと連携する。	○体育的な行事を節目として、年間通して体力作りに取り組み、体力の向上を図った。 ○PTAと連携して生活習慣を見直す取組を行い、保護者の意識の変革に働きかけた。 ○PTA・地域と連携した登下校指導により、通学上の安全について課題を共有し意識化することで、登下校の態度の改善が進んだ。 △体力づくりの取組をきっかけに継続して運動に取り組もうとする態度を育てる。 △薬物乱用防止の指導を推進する。
小中一貫教育への取組	1 本格実施2年目として(中学卒業時を見通す)の視点で、教育活動に取り組む。 2 校種間連携を進める。	1 AP(アプローチプログラム)・SC(スタートカリキュラム)も含めて、I期の最終学年までに付けるべき学力や社会性等について系統性を明らかにした実践を追究する。 2 II期の取組を中心にカリキュラムの整備を進めるとともに、小小連携による同学年の連携を進める。	○小学校段階で身に付けたり意識化したりしなければならぬ具体的な課題(学習意欲・習慣等)を明らかにすることができた。 ○「AP⇒SC」の効果を検証することができた。 △小学校段階の課題を学園化する働きかけを行う。
研修(資質向上の取組)	使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性をめざした研修を行い、実践的指導力の向上を図る。	1 教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上を目指した理論研修・事例研修を充実させる。 2 小中一貫教育に係る研究を充実させる。	○重点研究を通して、学習意欲や思考力向上に関わる授業づくりの研修が進んだ。 ○自己肯定感を育む集団づくりについて継続した研修により学級経営力の向上に繋がった。 △具体的実践から学ぶ機会を増やす。
特別支援教育	1 一人一人の教育的ニーズに応じ、全ての児童を支援するユニバーサルデザインの教育を推進する。 2 「共に生きる心豊かな児童」の育成を図る。	1 特別支援教育コーディネーターの機能を生かした職員研修の充実、児童支援に係る実践力の向上を図る。 2 支援会議により児童実態の把握を行い、指導・支援の在り方について全校体制で指導に取り組む。 3 正しい発達障害についての理解し、個別の指導計画・支援計画に基づき、組織的支援を行う。 4 理解教育に取り組む。	○児童の特性に応じた支援を検討することができた。 ○コーディネーターを中心に、関係機関・保護者と連携し、児童理解を進めることができた。 △保護者・地域の特別支援教育に対する正しい理解を進める。
次年度に向けた改善の方向性	小中一貫教育を推進し、組織的・効率的・機能的なR-P-D-C-Aマネジメントによる学校運営の質を高める。 ・授業改善では、「学習意欲に繋がる課題設定・思考を深める学習活動・分かり易く伝える表現力」をキーワードに「学び合う集団づくり」を進める。 ・学級活動・児童会活動等を通して、自己有用感・自己肯定感を高め、主体的に活動する力を培う。 ・家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上と地域の教育力の活用を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹波小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		○研究授業等を通して授業改善を進め、「わかる授業」の推進ができた。また、基礎・基本の定着も図られてきた。 ○組織的な取組により、落ち着いた学校生活の中で、互いの良さを認め合えた。 ○保護者や地域と連携した取組を進めることができた。 △更なる学力向上、基本的な生活習慣の確立をめざす。	1 確かな学力の育成 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業を推進する。 2 コミュニケーション能力の育成 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」生活を推進する。 3 評価を見通した取組の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 授業研究を通して、児童にとって「わかる」「できる」授業を計画的に進める。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制の確立、家庭学習の充実により、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 研究推進委員会を中心に一人1回以上の研究授業・公開授業を行い、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の実践研究を行い学び合う。 2 ドリルタイム・言語タイム・放課後補習・家庭学習・4年ふりスタ等により、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 身に付けた知識・技能を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成する授業と学習意欲を高める授業を、研究授業の視点として意識しながら授業充実を進める。 4 多様な外部人材の活用や学習環境の整備を計画的に行う。	○全学級で研究授業を実施し、学園の指導の視点を踏まえた実践研究が積み上がった。またC R T・全国学力調査等では、どの学年も平均を上回り、学期末テストも全校平均漢字9割・算数8割の点数が取れている。児童アンケート・保護者アンケートとも、「わかる授業」「基礎・基本の定着」で昨年よりも評価が高まった。 ○意欲的に学習できる場として漢字検定、算数検定を設定し、それぞれ98%、41%の児童が挑戦することができた。 ○授業では、多様な学習形態で、伝え合い学び合う活動の重視や生徒指導の三機能を生かした自己肯定感や意欲を高める研究実践を行うことができた。 ○地域人材や様々な関係機関と連携した学習や体験活動を実施し、児童の興味関心が深まった。 △個に応じた支援を更に進めていきたい。
生徒指導	1 一人ひとりの良さを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心と態度を育成する指導を進める。	1 教師が児童の良さを、また児童同士がお互いの良さを認め伝え合う場として、学級通信や学級活動、異年齢集団活動の中で設定することで、児童の自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 2 道徳の時間を中心に、特別活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育を推進する。また障害者理解教育や人権旬間の取組を中心として、人権教育を推進する。	○終わりの会や学習、異年齢の取組の中でも相互評価や教師の評価等を行い、友達の良さや自分の頑張りを認め合う場を多く設定することができた。 ○学校便りや学級通信等で、児童の良さを発信した。 ○児童アンケートでは、90%の児童が、自分には良いところがあると答え、自己肯定感が向上してきている。 ○障害のある人との交流、人権旬間の取組を通し、思いやりの心を育んできた。 △人権意識や自己肯定感を更に向上させていく。

健康（体育）・安全	1 全校的な体力づくりの取組を充実させたり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1 朝ランニング・朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図る。またP T Aと連携して基本的な生活習慣の確立を目指す。 2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」1－（2）についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。	○年間通じた朝ランニングや縄跳び等の取り組み方を工夫し、運動への意欲や体力を向上させることができた。 ○毎学期、定期的な「元気貯金」の取組を行い、自分の生活リズム、特に早寝を意識する児童が増えた。 ○児童アンケートで、いろんな事に挑戦する児童 100%、最後までやりきる児童 97%の結果が得られた。 △全児童の早寝等、基本的な生活習慣の確立をめざす。
小中一貫教育への取組	1 保育所・幼稚園・子ども園・中学校との連携した取組により、一貫した教育を強化する。	1 ねらいを明確にした保育所・幼稚園・子ども園・中学校との研修や取組を行い、峰山学園教育目標の実現に向け一貫教育を推進する。	○同じ方向で研究・実践を進め、学力充実期間や4年ふりスタ、保育所訪問・中学校体験の取組等、連携して実施することができた。 △一貫教育の取組状況を積極的に発信していく。
特別支援教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 教育的支援を必要とする児童を的確に把握し、教育支援部会を中心に具体的な支援・手立てを明確にしながら、校内体制を充実させ、指導を進める。	○教育支援部会を定期的にまた必要に応じて開き、具体的な対応を組織的に話し合い、進めることができた。 ○保護者面談を毎学期実施し、家庭と連携しながら、個別の指導・支援を行うことができた。 △児童の実態に応じたきめ細かな支援をより充実する。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 P T A・地域の関係機関等との連携を強化する。	1 学校の教育活動の様子を学校だよりや学級通信、ホームページ等で、分かりやすく発信したり、授業参観や行事への呼びかけ等を行ったりして、積極的な学校公開を進める。 2 P T Aとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○たよりや通信、ホームページで学校の情報発信や参観等、学校公開をし、その感想等も発信できた。 ○P T Aとは、読書(読み聞かせ・親子読書)、家庭学習、元気貯金、褒めて育てる等、連携した取組ができた。 ○保護者アンケートで97%が連携強化を評価している。 △更に取り組や情報発信の内容を充実し、双方向の情報発信についても大事に進める。
次年度に向けた改善の方向性	峰山学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。今後、より児童の実態に応じた課題設定・達成目標により、更に成果の見える取組を行う。 1 主体的に学ぶ授業、教え合い学び合う授業、生徒指導の三機能を生かした授業を進める。 2 基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を身に付け、活用する力を高める指導を行う。 3 家庭と連携し、家庭学習・読書の習慣化、基本的な生活習慣の定着を図る。 4 特別支援教育を充実させ、個に応じたきめ細かな支援・指導を行う。 5 P T A・地域連携を更に進め、開かれた学校づくりを行う。 6 峰山学園の取組と連動させ、小中一貫教育の充実に努める。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立長岡小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子を育成する。		○落ち着いた学習環境の中で教育活動を進めることができ、大きな生徒指導上のトラブルや不登校に関わる事例もなく安定した学校運営ができた。 ○授業研究や各取組に中堅の教員が中心となって関わり、内容の充実とともにそれぞれが教育実践力量を上げることができた。 △コミュニケーション力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりへの課題に対する取組の充実。 △基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた組織的・計画的な取組。	・基礎基本の定着を図り、さらに思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 ＜確かな学力の育成＞ ・生徒指導の三つの機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係の育成 ＜コミュニケーション能力の育成＞ ・家庭や地域と協働する学校づくりの推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	児童一人一人に基礎・基本や表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせる。	・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。 ・研究推進部、学力充実部からの提起を受け、ことばの力の育成に向けた指導の充実を目指した授業に取り組む。 ・朝読書、昼ドリル、放課後補習の取組を定着させ機能化を図る。 ・図書館教育の取組を充実させ、読書活動の推進による、言語に着目した取組を進める。 ・家庭との連携を密にし、学習習慣及び生活習慣の確立に向けて取り組む。	○算数科を重点研究の教科として設定し、全ての学年で研究授業を実施し研究協議をすることで教師の授業力の向上を図ることができた。 ○朝読書、昼ドリルの実施により基礎的な学力の基盤作りができた。 ○読書活動の推進に向け、毎日の朝読書の継続と毎週木曜日の図書支援員の活動等から、本に親しむ機会を年間を通して確保することができた。 △家庭学習及び家庭読書の習慣化に向けて取り組む。 △個々の課題に焦点を当てた補習の取組を継続する。
生徒指導	安心と安定のある学級経営の充実を図る。	・生徒指導の三つの機能（自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係）を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づく人間関係を育成する。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さががんばりを認め合える集団づくりを進める。 ・児童の日常的な状況を的確に把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に努める。	○ほとんどの学級で安定した学級経営が実施でき、大きなトラブルや事故・ケガもなく過ごすことができた。 ○特別活動との連携により、廊下歩行の励行やトイレのスリッパ揃えなどに取り組むことができ児童のきまりに対する意識を高めることができた。 △行為者不明の事案もあり、友達のことに関心を持つことができ、より良い人間関係を築いていこうとする意識を高めていく。 △ルールや決まりを守るという規範意識をさらに高めていくための取組を行う。

健康（体育）・安全	元気で規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	・朝の体力づくり（朝マラソン、縄跳び）を年間を通して計画的に実施する。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。（各学期ごとに生活点検の実施） ・登下校の安全に対して長岡っ子安全ボランティアと連携した取組をする。（ニコニコカーによる見回り、毎月の登校指導、安全点検）	○年間を通して朝マラソンや縄跳びに取り組み、基礎的な体力の向上を図ることができた。 ○学期のスタートの時期に合わせ生活点検を行い保護者と連携しながら生活習慣の改善に取り組んだことで、意識の向上を図ることができた。 ○通学路の一部変更により安全な登下校を実施することができた。 △生活点検の取組期間以外でも意識の継続を図る。
小中一貫教育への取組	峰山学園の一員として、学園経営方針に沿いながら教育課題の改善に向けて取り組む。 ・確かな学力の育成 ・コミュニケーション能力の育成 ・評価を見通した取組の充実	・学園共通の教育目標及び目指す児童像を掲げ、その達成に向けた取組を進める。 ・小中一貫教育を進めるための、小中連携及び小小連携の取組の意義を理解し意識的に参加する。 ・小スタートカリキュラムの実施、モデルカリキュラムの自校化に向けた取組を進める。 ・評価方法について研修を通して理解を深めていく。	○モデルカリキュラムを意識した授業研究に取り組むことで、モデルカリキュラムの自校化に向けて進めることができた。 ○主に丹波小との合同学習を通じて小小連携を進めるなど取組における連携は図ることができた。 △小中一貫教育の取組と自校での課題解決への取組が連動しているという意識に弱さがあった。 △目標と指導と評価の一体化について研修をすることでさらに評価を見通した取組を深めていきたい。
開かれた学校づくり	学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	・定期的な授業参観や行事への参観、日常的な家庭訪問や電話等を使つての連絡を実施する。 ・学校や児童の様子等、学校・学級だよりやホームページ等を活用し、積極的、具体的に情報発信し理解を得る。 ・学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用する。	○授業参観等の案内を確実に配布し、授業の様子や学校の教育活動を多くの方に見ていただく機会を確保することができた。参観後の感想は良い評価がほとんどであった。 ○学校ホームページの更新、学校便り・学級通信の発行等で学校の情報を発信し、理解・協力につなげることができた。 △地域人材の活用と地域人材の発掘について準備ができず十分な取組ができなかった。
研修（資質向上の取組）	校内での教育実践を通じ、中堅教員を中心に教育実践力の向上を図る。	・校内の重点研究を推進していく取組や取組過程の中で、教科指導力及び学級経営力の向上を図る。 ・研究会や研修で学んだ内容をその後に復講習の機会を設けることでさらに明確化していく。 ・各学期の重点行事に取り組む中で、取組方法や手立て等の交流を充実させ、教職員相互の学びにつなげる。	○夏季休業中を中心に研修会で学んだ内容について復講習を実施し、教員の指導力の向上につなぐことができた。 ○学期ごとの重点的な取組や行事の意義や取組方法を明確にしたことで、一致した指導につながり大きな達成感を感じることもできた。 △研修や取組の中での学びを広げ、生かしていく取組を作っていく。
次年度に向けた改善の方向性	・児童の学力の更なる向上に向けた研究活動の活性化 ・安定した学級経営に向け、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた指導の充実 ・生徒指導の充実に向け、特別活動を核とした児童の人間関係づくりの推進 ・特別支援教育の視点を踏まえた個に応じた児童への対応		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名「京丹後市立大宮第一小学校」

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進		○効果測定結果分析を基に、授業改善、早期回復指導を取り組み、基礎学力の向上が見られた。 ○各担当分掌のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校等について、改善に向けて組織的に取り組みが推進できた。 △全教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育成するための教育活動の充実を図る。 △大宮学園の組織運営・教育活動の充実を図るべき、校内組織推進の強化を図る。	1 全教育活動による「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成 2 授業研究の充実、授業改善による学力の向上 3 学び合い育ち合う学級集団・豊かな人間関係の育成 4 基礎体力・危機管理力の向上 5 大宮学園小中一貫教育の充実推進 6 学校経営システムの充実推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。 ○児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的事項の定着を図るべき授業改善を推進する。 ○算数科を重点教科とし、小小連携、小中連携により指導法の改善に取り組む。 ○小中一貫モデルカリキュラム、大宮学園3カリキュラムを生かした学習指導を推進する。	・全教育活動で思考力・言語力(書く・読む・表現)の向上を図る。 ・各学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上のための授業改善を図る。 ・算数科を基盤にして少人数指導による個別指導を充実させ、基礎学力の向上を図る。 ・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。 ・計画的に効果測定を行い、授業や補習により基礎的学習内容の早期回復を図る。 ・年間指導計画に各カリキュラムを位置づけ、定期的に検証を行いながら学習指導の充実を図る。 ・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通して家庭学習習慣の定着を図る。	○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。 ○各基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導を取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。 ○指導法の工夫・改善により、個に応じたきめ細かい指導が充実でき、基礎学力の向上を図ることができた。 ○週程表を改善し、全学年放課後回復指導の充実を図ることができた。 ○年間を通した学習指導部の提起により、家庭と連携して家庭学習習慣、家庭学習の充実を図ることができた。 △算数科重点研究をさらに充実させ、授業改善を図る。 △形成評価を工夫した効果測定に基づく、個に応じた即時回復指導についての工夫、徹底を図る。
生徒指導	○「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。 ○全教育活動を通して、人権尊重、規範意識・自尊感情の醸成、児童の個性・社会的資質・能力の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。	・生徒指導部会、いじめ対策委員会、教育相談部会のセンター機能を強化し、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚を目指した指導の充実を図る。 ・支援会議により、個別な支援が必要な児童の支援方策を検討し、組織的支援の充実を図る。 ・読書活動を充実させ、豊かな感性や言語力の育成を図る。 ・道徳の時間、全ての教育活動を通して人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる児童の育成を図る。 ・思いやりの心と豊かな人間関係を育むため、異年齢活動、自然体験・社会体験活動の充実を図る。 ・自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童の自己決定場面の充実を図る。 ・学級経営力の向上を目指し、事例研究(学習集団の育成・人間関係づくり・自治的活動)に取り組み、学期毎に実施する学級経営評価の充実を図る。	○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。 ○人権教育研究の成果を引き継ぎ、道徳、人権学習の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができた。 ○年間を通した多様な異年齢活動・体験活動の推進により、豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○全教育活動を通し「自ら考え、課題を解決していく力」の育成に取り組み、各学級・学年課題克服を図ることができた。 ○学期毎に、学級経営評価を基にした実践研修により、学級経営力の向上を図ることができた。 △学級・学年・児童会における自治的な活動を充実させる。 △登下校・地域での安全、家庭での基本的生活習慣の確立、心の教育など、家庭・地域との連携の強化を図る。 △加配配置なし、昼読書変更等により、読書量が減った。日常的な全校体制による指導の工夫を行う。

健康（体育）・安全	○教科体育、遊び、体力づくりを通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力を向上させる。 ○安心・安全な生活を営むための危機管理能力、危機対応力を育成する。 ○健康な心と体に成長するための、たくましく生きる実践力を育成する。	・教科体育の充実、日常的な活発な遊び、継続的な朝マラソン・朝縄跳びの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。 ・年間を通して、計画的に食育・保健指導の充実を図る。 ・安心・安全な学校生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理意識・対応能力の向上、施設点検・安全管理の徹底を図るとともに、実践的な避難訓練の充実を図る。 ・校内事故防止指導、登下校安全指導・体制の充実を図る。 ・生活点検の取り組みを充実させ、家庭生活改善を図る。 ・より良く生きるため体・心・命の教育の充実を図る。 ・登下校の安全を守るための地域・PTA連携の充実を図る。	○年間を通して教科体育、体力づくり、外遊びを充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができた。 ○きめ細かな日々・月ごと・特設の食育・保健指導の成果により、保健意識の高揚を図ることができた。 ○危機管理意識・対応力を高めるための連携・訓練、施設管理を行い、危機管理能力の向上を図ることができた ○校内安全指導、保護者・地域連携により校内事故防止、登下校・地域での事故防止の徹底を図ることができた。 △生活点検の取組を活用し、基本的な生活習慣の改善を図る。 △校内生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組む。
小中一貫教育への取組	○大中校区小中一貫校教育目標の達成に向けて、大宮学園経営計画に基づく小中一貫校実践を充実させる。	・効率的な大宮学園運営システムの構築を図る。 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を高める授業づくり（算数科・人権学習）・教育活動づくりについて、自校研修・大宮学園合同研修の充実を図る。 ・汽水域を中心に小小連携・小中連携教育活動の充実を図る。 ・中学校卒業までを見通した教育課程編成の充実を図る。 ・小一スタートカリキュラム作成、効果的な日常の情報連携・保幼小教育活動連携の充実を図る。	○一年次大宮学園のねらいに基づき、児童生徒連携教育活動、職員合同研修、自己肯定感を高める授業づくり等、小中一貫教育の充実を図ることができた。 ○一年次学園評価を丁寧に行い、二年次に向けて人権軸から小中一貫軸への組織改編を行う事ができた。 △組織改編を受け、一貫と接続を充実させるための新たな組織運営・教育活動の充実を図る。
特別支援教育	○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。 ○心身の障害特性に基づく、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。	・特別支援教育コーディネータの機能を生かし、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。 ・月例支援会議による児童実態の把握、指導・支援方法の策定により、全校体制による指導の充実を図る。 ・発達障害理解・指導についての理論的研修を充実させ、その成果を学級経営・学習指導場面で具現化させる。 ・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。 ・年間を通した丁寧な就学指導を行い、障害の状況に応じた適切・適確な個別指導の充実を図る。 ・障害を正しく理解するため、理解教育の充実を図る。	○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関わる研修を行い、個に応じた支援を充実させることができた。 ○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関、保護者との連携により、共通理解を深めながら個に応じた個別な支援・対応を図ることができた。 △さらに、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づく個に応じた支援の充実に努める。 △様々な個別な事情による突発的不適応状況に対し、状況に応じた支援・対応について、組織的支援力・対応力を高める。
開かれた学校づくり	○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることを実感することができる開かれた学校づくりを推進する。	・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を行い、子育て課題克服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。 ・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくために、懇談会活動の充実を図る。 ・地域の教育素材・人材を学校教育の充実に活かしていくための連携の充実を図る。	○個別課題に対して、迅速で丁寧な家庭との連携を行う事ができた。 ○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることができた。 △子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくための全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。
次年度に向けた改善の方向性	【推進】 【教育・研修】 【連携】	①改善学校運営システムによる、経営的会議としての学年主任会、教育課程推進会議としての企画委員会について、機能を強化する。 ①大宮学園目標である「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育むための教育活動の充実を図る。 ②算数科授業改善の取り組みを充実させ、基礎学力の向上を図る。教科指導力・生徒指導力・対応力の向上に向けた実践的研修の充実を図る。 ③人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を培うための学級経営・学校運営の充実を図る。 ④課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。突発的不適応状況に対する、組織的支援力・対応力を高める。 ①改編大宮学園の組織運営・教育活動の充実を図るため、校内組織である小中一貫教育推進部による組織推進の充実を図る。 ②学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。	

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立大宮南小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 上記教育目標を達成するために、教職員が組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、再配置校として地域・保護者から信頼され、児童にとって行きたくなる学校づくりを目指す。		○人権教育を基盤とした教育活動を進め、児童も教職員も人権的風土のある言動が増えた。 ○児童の学習規律、生活規律が向上し、基礎学力の向上が図られた。 △保幼小中連携による人権教育研究成果の小中一貫教育への接続△教育的支援を必要とする児童が増加している。	(1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもの育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1) 質の高い学習態度と授業規律をもった学習集団の育成 (2) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (3) 家庭との連携による家庭学習の質・量の向上	(1) 安定した学級経営のもと落ち着いて学習にのぞめる学習集団をつくる。 ・授業参観　・三者での課題共有 ・教育支援担当の活用・大宮学園「学びの力」の指導 (2) 大宮学園研究授業や校内研究授業で小中一貫教育の視点を大切にした研修を進める。 ・10年間を見通した指導、授業改善 ・大宮学園「ことばの力カリキュラム」の実践と検証 ・小中一貫導入SSの活用 (3) 大宮学園「学習の手引き」を活用し、学園全体としての家庭と連携した家庭学習習慣の強化を推進する。	○教師の授業力が向上するとともに少人数指導加配の活用や教務主任の指導・支援もあり、落ち着いて学習にのぞむことができ、診断テスト等の結果からも、学力向上が進んだ。 ○毎月の「学び目標」で、学習規律定着に向けての目標設定を行い、児童の意識を高めることができた。 ○中学校区全体での授業研究会や研修会を持ち、学力課題や指導課題を共有することで、小中一貫教育への意識が高まった。 ○△大宮学園として統一した家庭学習週間を毎学期設けたことで家庭学習への意識が高まり、進んで学習をする児童が増えたが、定着には更に工夫が必要である。
生徒指導	(1) 人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実 (2) 規範意識の高揚 (3) 学級経営の充実に基盤として特別活動等を通して豊かな心の育成を目指す。	(1) 互いの違いやよさを認め合える学級づくりを行う。 ・人権教育カリキュラムに基づいた人権学習 (2) 児童の状況を的確に把握し、非行防止の取組等を家庭・地域と連携して行うとともに日頃より積極的な生徒指導を展開する。 ・大宮学園のきまり策定　・学園内情報交流 ・問題事象の教材化 (3) 児童を鍛え、高める異年齢活動、学級活動を通して人間関係の形成と規範意識を高める。	○人権教育カリキュラムに沿った実践を行うとともに全学年人権学習の研究授業を行い、自他を尊重する学校風土が育っている。 ○大宮学園のきまりを検討し、中学校区全体として積極的な生徒指導に関する取組を行い、効果があがった。 (学校のきまりの修正、「学園5・6年の心得」の作成・指導) ○高学年のリーダー性が発揮され、節々の児童主体の取組の中で全校の一体感が進んでいる。 △不登校傾向の児童もあり、発達障害等様々な個別課題に対応するための一層の手だての追究が必要である。

健康（体育）・安全	(1) 体力づくりの推進 (2) 基本的な生活習慣の定着 (3) 学校内外の安全指導の徹底	(1) 目標を設定し、体力づくりの取組を行う。 ・マラソン、縄跳び (2) 計画的・重点的な保健指導とともに生活改善の取組を実施する。 (3) PTA、大宮南小子ども見守り隊、防犯ステーションと連携を図り、安全指導を徹底する。	○PTA、大宮南小校区安全ボランティアの会、防犯ステーション会議との連携のもと、無事故で1年を終えることができた。（見守り活動、にこにこカーによる安全パトロール、青パトパトロール等） ○△体力づくりの取組で意欲的に運動に取り組む児童が増えたが、年間を通してより一層体力づくりを図っていく必要がある。
小中一貫教育への取組	(1) 確かな学力の育成 (2) 人権意識の育成 (3) キャリア教育の充実 ～「ことばの力カリキュラム」 「人権教育カリキュラム」 「キャリア教育カリキュラム」 の継続～	(1) 確かな学力の育成 ・基礎学力向上を目指した授業づくり ・小中接続を充実させるための授業づくり・授業計画の策定 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり・保幼小の接続のための小1スタート・アプローチプログラムの策定 (2) 人権意識の育成・人権教育の理念に基づく「自他を大切に作る心」を育成するための教育活動の充実・人権学習の充実 (3) キャリア教育の充実 ・汽水域を中心とした連携教育活動、幼児児童生徒交流学习の充実・効果的な学校のきまり策定・指導（学習・生徒指導・家庭連携） ・夢、未来式	○中学校区全体での授業研究会や研修会を持ち、学力課題や指導課題を共有することで、小中一貫教育への意識が高まった。 ○人権旬間の取組や人権標語、人権意見発表会等を行い、互いの違いや良さを認め合おうという人権意識が高まった。 ○連携教育活動（合唱祭、地域清掃、部活動体験、あいさつ運動等）で児童生徒の交流が深まり、中1ギャップの解消に繋がっている。 △小中接続を充実させるための授業づくり・授業計画の策定は今後の課題である。
開かれた学校づくり	(1) 学校の情報を積極的に発信し、信頼される学校づくりにつなげる。 (2) 保護者・地域的心声を学校改善に活かす。	(1) 授業・行事参観、家庭訪問、学級懇談会・地区懇談会の実施 (2) 学校便り、学級通信、ホームページによる教育活動や情報の積極的発信 (3) 評価アンケートを行い、学校改善に活かす。	○ホームページをこまめに更新することにより、学校の様子を広く発信し、保護者・地域からも好評を得ている。 ○地域人材や学校支援ボランティア等、積極的に活用し、豊かな教育活動を展開することができた。 △日頃の授業実践等、学校の取組についての一層の情報発信が必要である。
特別支援教育	(1) 通常学級における特別支援を要する児童に対して適切な支援を進める。 (2) 職員研修を進め、指導力量を高める。	(1) きめ細かな学級経営と一人一人に課題に応じた指導支援 (2) 定期的な部会を開催し、実態把握と指導計画の策定を行う。 (3) 外部と連携した研修の実施	○様々な発達課題がある児童が在籍する中で、通常学級でのきめ細かで粘り強い指導が学級の安定化へとつながっている。 △個別の指導計画、個別の支援計画等、個に応じた指導の充実と理解教育を一層進めていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 学級経営の安定を一番の基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間外れやいじめのない学級や学校づくりを一層進める。 (2) 幼保・小中学校のスムーズな接続を図るために、小中一貫教育を推進し、学力向上を基本としながら、児童・生徒の行動連携を軸に連携を強化していく。 (3) PTA・地域と連携しながら児童の安心・安全を守る取組の充実を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○ 全校的に落ち着いた学習態度で授業充実を図ることができた。 ○ 6年生全国学力学習状況調査の国語・算数では、おおそ基礎・活用とも府・全国平均を上回ることができている。 ○ 組織的な生徒指導の取組が進み、規範意識を大切にした学校生活ができてきている。 △ 児童の個々の課題が大きく、見立てを行いながら組織的に粘り強く取り組む必要がある。	「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」 1 自分の考えを表現することができる。 2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。 3 いろんなことに挑戦することができる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進める。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 研究推進部・少人数指導を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の実践研究を行い、学び合う。 2 学力補充・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 身に付けた知識・技能を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成することを研究授業の視点として意識しながら授業充実を進める。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	○ 一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、本時の「めあて」を児童に分かりやすい言葉で提示し、学習の見通しを持たせる授業ができてきた。 ○ 保護者アンケートで約90%が、国算の基礎・基本の定着ができていると回答が得られた。 ○ 児童が意欲的に学習できる場として漢字検定・数学検定を設定し、それぞれ34名(15%)27名(12%)が挑戦することができている。 ○ 山陰海岸ジオパーク研究作品コンテストで入賞者を出すことができた。 ○ 各学年ともDRT(国算)において、平均8割を目指して取り組むことができた。 △ 今後も授業研究を通して活用する力を身に付けさせ、A層をつくる取組を進めていき、学力の向上を図っていきたい。
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、異年齢集団活動の中で、伝え合う場を設定することで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 2 道徳の時間を中心に、特別活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかわりに関すること」2-(2)について指導を重視する。	○ 生徒指導部・特別活動部が連携して積極的な生徒指導を行うことで、運動会・挨拶運動・大縄大会等で、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。また、相手の立場を考えて自分なりの考えを持ち行動することもできるようになった。 ○ 学校便り・学級通信を通して、取組の様子やねらいを説明しながら、児童のよさを積極的に紹介することができた。 ○ 保護者アンケートで約90%が、よさを認め合い伝え合っているとの回答が得られた。 △ 全ての児童が肯定感を持てるよう、今後も取組を進めていきたい。

健康（体育）・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦していこうとする態度を育成する。	1 期間を決め、朝マラソン・朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」1－（2）についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。	○ 学期に1回定期的に生活点検を実施し、児童・保護者の意識を向上させた。また、PTAと連携し「親子あいさつほかほか運動」で「あいさつ日記」にも取り組み、挨拶を通して親子の絆を深め、気持ちよく登校することができるようになった。 ○ 保護者アンケートで約90%が、最後まで粘り強くやり遂げようとしているとの回答が得られた。 △ 生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後も家庭と連携して取組を進めていきたい。
小中一貫教育への取組	1 保育所・保育園・幼稚園・中学校との取組を進め、一貫した教育を強化する。	1 保育所・保育園・幼稚園・中学校との研修、取組のねらいを明確にし、一貫教育を推進する。	○ 社会科・生活科の研究を網野学園の研究と一致させて取り組むことで、ねらいが明確になり、全教職員で実践することができた。 ○ 「一貫した教育を強化している」の保護者アンケート・教職員アンケートで、概ねも含め、90%の回答が得られた。
特別支援教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 教育相談部会を中心に教育的支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進める。	○ 特別支援校内委員会を定期的に開催し、個のニーズに応じた指導方法を検討し、つばめ学級では、ウルトラ1/50マラソン等の取組も保護者の理解を得ながら取り組むことができた。 ○ 年間を通して保護者と懇談することができ、保護者の願いを取り入れた教育支援計画を作成することができた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○ 授業公開・学校公開・各種たよりの発行・HPの更新を通して、学校の取組を発信できた。取組のアンケート・結果のまとめを発行することにより、学校の方針の理解につながり、保護者との連携が一層進んだ。保護者アンケートでもほぼ90%が連携できていると回答があった。ホームページのアクセス数一日100～150（1月21日現在164,786） ○ 稲作・そろばん・ミシン・読み聞かせ等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。
次年度に向けた改善の方向性	網野学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。今後、より児童の実態と合わせた短期の課題設定・達成目標「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」の設定により、更に成果の見える取組を行う。 1 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。 2 活用する力の育成、学習意欲の向上を図るための取組を行い、学力の安定を図る。 3 学校評価から教育実践に取り組むことができるよう、評価の視点・方法を明らかにする。 4 家庭と連携し、生活習慣を確立させると共に、家庭での学習を定着させる。		

(別紙様式1)

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
網野町域小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 1 規範意識の醸成 2 自ら将来を切り拓く力 3 豊かな人間関係を築く力 4 自然・人・社会とつながる力 の育成		○再配置1年目として、「絆づくり」として様々な取組ができ、児童の関係づくりが進んだ。 ○小中一貫教育で目指す、落ち着いた学校、落ち着いた授業づくりが進んだ。 ○「学ぶ」学校づくりとして思考を促す授業の研究が進んだ。 △再配置、小中一貫教育の取組を更に進め、地域や保護者に信頼してもらえるような学校をつくる。	1 学校再配置2年目として、児童が安心して学校生活を送れる教育環境づくり 2 網野町域小中一貫教育の「目指す子ども像」の実現を図るため、他の小中学校と一体化した教育推進 3 「学ぶ」「つながる」「躍動感」「信頼」をキーワードとした新しい学校文化の創造
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○よく「学ぶ」学校 1 目を輝かせて学習に向かう児童の育成 2 「思考」「つながる」「体験」を重視した分かる授業の創造 3 どの子も学びやすい個に応じた指導の推進	・教員の教科指導力を高める研修を日常的に推進する。 ・小中一貫教育の「これだけは(授業編)」に基づく授業を、組織的・継続的に進める。(思考、学び合い) ・スキルタイム、放課後補充、プラスワンスタディ、個別指導等、学力向上システム・プログラムによる指導の推進 ・児童の学習意欲を高めるため、家庭学習の取組を進める。(家庭学習がんばり週間等)	○「授業で児童を育てる」ことを共通理解し、授業研究や授業準備等を徹底的に行ってきた。教員自身が授業を大切にする気持ちが高まってきた。 ○網野学園の学力向上システムに従って、計画的に取組を進めていくことで、全校の学力向上につながった。 ○家庭の協力を得ながら、家庭学習がんばり週間を定期的に取り組み、児童の学習意欲を高めることができた。
生徒指導	○よさで「つながる」学校 1 規律をもち当たり前のことが当たり前にできる児童を育成 2 よさでつながる児童の育成 3 いじめ、暴言を許さない機運の徹底 4 居場所があり過ごしやすい教育環境づくり	・小中一貫教育の「これだけは」を組織的・継続的に進める。(授業規律の確立と規範意識の醸成) ・再配置2年目として、「きずな」「つながる」等をキーワードとし、年間を通して、すべての教育活動で取組を進める。 ・いじめや問題事象等の対応は、素早く迅速に行う。いじめアンケートなどを活用し、児童の状況を把握する。 ・成果のある学級経営の取組や工夫を定期的に交流し、教員の指導力を高める。	○「つながる」「きずな」をテーマにした取組を、特別活動全体で進めてきて、2年目となる。異年齢のかかわりのよさをカードに書いて集める取組を進め、児童の好ましい人間関係づくりを進めることができた。 ○いじめ、問題事象等、未然防止の取組が進み、事象件数の減少につながった。 ○不登校の早期対応を、全校として組織的に進めることができ、児童の登校を促すことができた。

健康（体育）・安全	○心と体を鍛え、生き生きわくわく「躍動感」のある学校づくり 1 元気・やる気・根気の育成 2 体を動かすことが好きな児童の育成 3 やりきらせる指導 4 生活リズムの確立	・市小学校駅伝大会 4 連覇を目指し、朝マラソン等、体力づくりを計画的に進める。 ・「元気アップカード」等、生活リズムを付ける取組を定期的に実施する。 ・安全についての意識を高めるため、避難訓練や不審者訓練、防災訓練等を計画的に進める。	○市小学校駅伝大会 4 連覇を目指し、日常的な体力づくりを計画的に進めることができ、駅伝 4 連覇達成と同時に、全校児童の体力を高めることができた。 ○避難訓練(火災、津波、風水害等)を計画的に実施し、児童の安全についての意識を高めることができた。3 月には、京丹後警察の協力により不審者対応訓練ができた。
小中一貫教育への取組	○網野町域小中一貫教育の全面実施 1 「目指す子ども像」「学校教育目標」「これだけは」の推進 2 各会議、各部会の推進 3 授業づくりについて実践研究を深め、「これだけは」(授業編)の授業を推進	・「環境が子どもを育てる」という理念のもと、落ち着いた学校、落ち着いた授業を目指す。(全校が集まる場での規律等) ・授業づくりを通して、教材解釈の方法、具体的な指導方法等を集团的に研修する。(学年部、自校での研究推進) ・小中一貫教育の目標を自校課題に引き寄せ、共通指導事項や教育課程に踏み込んだ取組を進め着実に成果を出す。 ・児童生徒の行動連携の機会を大切にし、学校として積極的に取組を進める。	○「当たり前のことが当たり前にできる」という網野学園の望ましい教育環境づくりを目指し、全校が集まる場の規律を年間通じて取り組み、児童の意識を高めてきたことで、落ち着いた学校づくりの実現につながった。 ○網野学園の取組として、部会等を計画的に実施し、学園全体で子どもをよくしていくという意識を、職員全体に広げることができた。 △教育課程に踏み込んだ取組推進が、更に望まれる。
特別支援教育	障害のある児童一人一人の教育的ニーズに応じ、障害に基づく種々の困難の改善・克服を図りながら個性や能力の伸長に努め、心豊かでたくましく生きる力を養う。(全校的な特別支援教育の推進)	・一人一人の児童の発達の様子、課題を明らかにし、個に応じた教育課程を編成し、基礎的な力を育てる。 ・配慮を要する児童の実態について共通理解し、研修を深め、個別の指導計画等を作成し、個々の児童のニーズに応じた指導を進める。 ・特別支援学級や通級指導教室等について、正しい理解と認識を育てる。 ・特別支援教室構想に係る実践を進める。	○特別支援教育充実加配の配置を受け、全校体制として、個々のニーズに応じた取組を推進することができた。(複数教員による指導、取り出し指導等) ○個々の児童に係るケース会議を、継続的に実施し、支援計画を立て、個に応じた指導を繰り返すことができた。児童の学力向上に結び付いた。 ○学力診断テスト等の分析により、発達上の特性を明らかにし、継続的、集中的に補習指導等を行った。
開かれた学校づくり	関係機関、保護者・地域との連携を大切に進める。	・ホームページ等、積極的な情報発信を行う。 ・授業参観、懇談会を定期的に実施する。 ・児童及び保護者の評価アンケートを実施する。 ・PTA等、網野学園としての連携組織づくりを着手する。	○ホームページについては、ほぼ毎日更新することを心がけ、保護者や地域に学校の教育活動を知らせ、理解と協力をしていただくことを目指した。 ○PTA懇談会出席 100%を目指す取組をPTA本部と連携して進めた。
次年度に向けた改善の方向性	○再配置の取組からうまれた「きずなづくり」や心を「つなげる」取組を、更に積極的に具体化しながら進める。 ○網野学園の「目指す子ども像」「教育目標」「これだけは!」や教育理念を大切にした学校経営を進める。 ○特別支援教育、教育相談機能の充実を図り、より個に応じた指導体制づくりを進める。 ○学力向上システムを機能させ、児童の学力充実を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立島津小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○「かがやき」の達成目標をもとに、短期目標の「合言葉」をもとに、学校を活性化していくことができた。 ○網野中学校区小中一貫教育体制の中で、重点研究を図工科として、指導法の研究を進めることができた。 △「合い言葉」をもとに、児童会活動は意識して進めることができたが、学級経営の中では弱かった。 △「これだけは」授業編の実践や、個別課題に応じた学力向上の取組を、更に充実していく研修を進めていく。	1 網野学園の統一した教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育実践を生かした指導法の充実を進める。 2 全ての教育活動の中に、合言葉（短期目標）を常に位置づけ「島小システム」による学校運営を進める。 3 網野学園としての授業研究を積極的に進めていく。 4 いじめ・不登校等、生徒指導・教育相談の充実。 5 外部評価を真摯に受け止め、開かれた学校を目指す。 6 勤務時間縮減に努める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、学力充実の取組を進める。 ・図工科の指導研究を他教科の指導力向上に活かす。 ・網野学園が連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	・網野学園推進会議の提案をもとに「これだけは！」を、全校でやりきって行く体制を作る。 ・「これだけは！」を日常的に実践し、自己評価を作り改善を目指す。 ・図工科の授業研究を通して、主体的に学習に向かう児童を育成する。 ・網野学園一斉に、家庭学習頑張り週間を実施し、効果を高める。	○ 網野学園の共通目標「これだけは！」について、総会・学校説明会・懇談会等で説明し理解を深めた。 ○ 図工科の授業研究を通して、言語活動を大切にした指導について、研究を深めることができた。 △ 網野学園「これだけは！」の実践充実を各学級で検証・充実させ、さらに保護者の理解を得、家庭学習充実を目指す。 △ 校内研修を更に充実し指導力を向上させ、全校児童の学力向上を目指した取組を進める。
生徒指導	・網野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・「島小システム」を機能させ、意欲的な児童を育成する。 ・心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。	・規律ある児童の活動を通して、互いに認め合う場面を作り評価していく。 ・学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・全ての計画に、短期目標「合言葉」を意図的に実践する内容を取り入れる。 ・生徒指導部が中心となって、問題事象解決に向けた取組を機能的に進める。	○ 網野学園「これだけは！」の目標を常に課題とし、全校が取組を進める中で、一定の成果が見られた。 ○ 学期毎の内部評価アンケートをもとに、実態の再確認と指導課題の共通理解を図ることができた。 ○ 年間を通し児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができてきた。 △ いじめ事象につながる日常課題について、更に人権感覚を高めた指導を進めていく。 △ 関係機関とも連携し、教育相談活動の充実を目指す。

健康（体育）・安全	・網野学園家庭編に基づく取組を、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図る。 ・安全への実践的態度の育成を図る。 ・食育の推進を図る。	・網野学園「これだけは！」に基づき、家庭と連携した取組を進める。 ・朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。 ・活動の中で安全を考える場面を作る。 ・実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。	○ 基本的生活習慣の確立に向けた取組を、網野学園家庭編を活用して保・幼保護者にも啓発できた。 ○ 朝の体力づくりでは、指導者が連携し全校がきびきびと活動に参加する姿が見られた。 ○ 火災・地震・津波・不審者対応の避難訓練ができた。 △ 基本的生活習慣課題は、家庭差が大きい。 △ 給食週間や食育の日に合わせた学習はできたが、日常的に意識を高める指導が弱い。
小中一貫教育への取組	・網野学園の組織を機能化し、効果的な指導を進める。 ・網野学園各部会の研修を基に、自校の研修充実を図る。 ・生徒会、児童会がより連携し、実践的態度を育てる。	・推進部会を受けて自校実践を高める。 ・学年部会の授業研究会を中心としながら、指導力向上の研修を進める。 ・小中の児童会・生徒会がより連携し、自らが主体的に活動する場面を作る。 ・児童生徒の交流を更に大切にする。	○ 網野学園として、校長・教頭・教務主任がそれぞれの組織の中で、機能的な動きを進めることができた。 ○ 自校の重点研究とつないだ学園の授業研究会ができ、多くの意見を校内の研究に生かすことができた。 ○ 学園の生徒会・児童会本部が連携した取組ができた。 △ 実践を通してさらに教職員相互の理解を深める。 △ 一貫教育の効果・良さを保護者に伝わるようにする。
特別支援教育	・特別支援学級児童の障害を理解し、学力充実と自立する力を育てる。 ・発達障害的児童に対して、組織的な取組を進める。 ・就学指導の充実を目指す。	・配慮の必要な児童保護者と学校が丁寧な懇談をし、指導の充実を目指す。 ・個別に配慮の必要な児童に対して、学校体制を組んで対応する。 ・就学指導を進め、該当保護者の理解を得られる取組を進める。	○ 学習発表会で、支援学級児童の真剣な発表を鑑賞する中で、理解教育を進めることができた。 ○ 校内体制を組む中で、配慮児童保護者との面談を進め、関係機関とも連携した取組ができた。 △ 特別支援教育理解について、保護者への啓発をさらに進めていく。 △ より一層就学指導についての研修を進める。
開かれた学校づくり	・学校の様子を積極的に地域へ発信する努力を進める。 ・地域教材を生かした教育課程編成を進める。 ・外部評価を受ける機会を大切に、学校改善に生かして行く。	・学校行事（運動会・学習発表会・縄跳び大会等）を通して学校教育に理解を得る取組を進める。 ・地域の環境や人的資源を生かした学習活動を進め、地域との連携を深める。 ・行事毎のアンケートや学校評議員懇談会の意見を生かした取組を進める。	○ 年間計画に沿って各行事を取り組むことができ、それぞれで肯定的評価を頂いた。 ○ 地域の教育資源である「鳴き砂」「縮緬」等、新しい学習も取り入れた教材研究を進めることができた。 ○ アメリカのマンチェスターメモリアル小との国際交流をスタートすることができた。 △ 取組を更に理解してもらうための広報を充実する。
次年度に向けた改善の方向性	・網野学園小中一貫教育の方針をもとにしながら、自校の教育課題をしっかりと共通理解する中で、教育課程のより良い改善に向けた取組を進める。 ・教科の指導研究を進めていく上で、言語活動充実の視点と児童が活動する場面をどのように効果的に考えるか、組織的に研究していく。 ・達成目標実現をめざした短期目標「合言葉」の実践を更に機能化し、児童・教職員さらには保護者も「島小システム」を一緒に進めることを目指す。 ・生徒指導、教育相談活動を充実し、日常的に心の教育の実践を目指す。又、国際交流の取組を進める中で、豊かな心の育成を目指していく。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立橋小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子（知） み：みんななかよく支え合う子（徳） の：のびのび生き生きやりぬく子（体） 賢く、やさしく、たくましく、みんなが輝く『楽しい学校』～元気・笑顔・挑戦～		○異年齢の取組を中心とし、全校や学級間における豊かな人間関係の育成を図ることができた。 ○基礎・基本の力の定着を目指し授業力向上に向けた取組を、校内組織体制を整備しながら行うことができた。 ○中学校の閉校を前に小中の児童・生徒間の有意義な交流を図ることができた。 ○「元気・笑顔・挑戦」を合言葉とし、様々な場において主体的に活動する児童の姿が多く見られた。 △網野町域小中一貫教育の研究組織の領域において研究を深めること、教職員の授業力向上に係る点で課題が残った。 △家庭学習の定着等、家庭との連携が不十分な状況がある。	1 賢く…明るく元気に進んで学ぶ子 学力の充実,向上と一人ひとりの個性,良さ,可能性を伸ばし、将来に夢と希望の持てる児童を育てる。 2 やさしく…みんななかよく支え合う子…学び合い、励まし合い、支え合う豊かな人間関係を築く。 3 たくましく… 当たり前のことが当たり前にできる力と何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。 4 みんなが輝く楽しい学校…のびのび生き生きやり抜く子… 授業作りと学級作りを連動させ学ぶ楽しさを共有し合い、個性豊かな児童を育む。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	(1)学力実態、学習状況を把握し、基礎・基本の確かな学力を身につけるための取組を学校ぐるみで行うことで組織力を高める。 (2)各教科に言語活動を適切に位置付け、児童の思考力・判断力・表現力を育む。 (3)主体的な学びを育むための指導法を研究し、教師の授業力の向上を図る。	・学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善の取組を研究推進部・学力充実部が進め、全校の気運を作る。小中一貫教育の取組と連動させる。 ・重点研究領域である「ことば、文学」の取組を組織的に行い、児童の表現力、言語能力の育成を図る。 ・学力充実月間を設け、家庭学習がんばり週間、校内授業強化月間等を設定する。 ・総合的な学習の時間、生活科をはじめとし、探究活動、主体的に学ぶ機会を充実させ課題解決能力を育む。 ・4年生以上は漢字検定を活用し、言語力育成を図る機会とする。	○網野学園小中一貫教育で共通に取り組む授業スタイルを全学年で意識化して取り組んだ。若く経験の浅い教員もねらいに沿った授業展開への意識化が図れた。 ○学力充実月間、家庭学習頑張り週間等の取組により、家庭の意識の向上、児童の学習に対する自主性を高めることができた。 ○漢字検定場を設定し、言語力育成を図る一助となった。 △国・算共に活用力については課題が残った。今後も思考力、表現力、読解力を育てていく必要がある。
生徒指導	(1)人権尊重の観点に立ち、いじめや差別を許さない人権感覚と人権認識を培う。 (2)規範意識の醸成を図る。 (3)いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談を充実させる。	・異年齢活動を通して、他と調和できる力、体や命を大切にできる力を育む。 ・日常の出来事を教材化し、思考力・判断力、規範意識、あたり前のことが当たり前にできる力を育てる。 ・定例の教育相談部会、生徒指導部会等を充実させ、関係機関との連携を踏まえた取組を推進する。	○異年齢活動を中心に他と調和できる力、お互いを思いやる心、リーダー性等を育むことができた。 ○生徒指導面では月ごとの目標を決め、児童会の取組とも連動させ、生活や行動について意識させることができた。 △廊下歩行、トイレのスリッパを揃える等、共同生活におけるマナーや約束事の励行については課題が残った。

健康（体育）・安全	(1)体力作りを通して何事も最後までやり通す粘り強い心を育てる。 (2)自分や友達の体と命を大切に する児童の育成に努める。 (3)きびきびした行動様式、場に応じた行動様式を身に付けさせる。	・年間を通した体力作りを進め、児童の体力と最後までやり抜く強い心を育てる。（朝マラソン、朝縄跳び） ・定期的な生活点検や網野学園『これだけは！家庭編』をもとに、基本的生活習慣の確立を目指す。 ・他機関との連携により健康や安全への意識を高める。避難訓練、防犯訓練、薬物乱用防止教室等を実施し、規範意識をはじめ“命を守る”という意識を醸成する。	○年間を通した体力作りを進めることができ、苦手なことに立ち向かう粘り強さが出てきた。 ○他機関と連携した避難訓練や防犯訓練、薬物乱用防止教室等を実施し規範意識や安全の意識の向上が図れた。 △基本的生活習慣の確立に向け学期毎に点検を行い、保護者への意識喚起を行ったが、就寝時刻、テレビ・ゲームの時間を守ることに課題は依然として大きい。
小中一貫教育への取組	(1)網野学園小中一貫教育の取組を課題解決への手法に活かす。何を大事に取り組むのかを教職員が共通理解し、組織的に取組を進める。 (2)連携加配から指導法を学び、授業改善の糸口とする。	・「ことば・文学」を重点研究とし、具体的な実践を追求していくことで教師の授業力向上を図る。全校的な取組とリンクさせ環境面からも児童に思考力、言語力をつける。 ・「これだけは！授業編」を各教科指導場面で活用する。 ・小中からの加配教員との繋ぎ役を管理職が行い、学校運営に反映させることで課題解決を図る一助とする。	○日々の授業実践において、網野学園:「これだけは！授業」をどの学年においても意識して授業を進めることができた。講師を含む若手の授業改善に繋がった。 ○中学校への接続を意識した指導や基礎学力の定着に向けた学園としての取組を自校の取組に反映させ学校としての取組に活かすことができた。
特別支援教育	(1)ユニバーサルデザインの授業作り、環境を整え、個々のニーズに応じた教育支援の充実に努める。 (2)通常学級に在籍する支援の必要な児童への適切な支援を組織的に行う。 (3)特別支援教育に対する理解を図る。	・ユニバーサル化を取り入れた学習環境、教材教具、授業展開を工夫する。 ・特別支援コーディネーターを中心に加配教員、S・S、管理職との支援会議を定例化し、配慮を要する児童の実態を共通理解した上で校内の動きを構築していく。 ・特別支援教育に対する保護者理解を丁寧に行い、他機関との連携のもとに個別のニーズに対応できる支援を追求する。	○個のニーズに応じた支援について特別支援教育部、教育相談部を中心に検討し、他機関、家庭との連携のもとに進めることができた。 ○保護者との連携による就学指導のもとに、学級開設の目途が立った。 ○不適応やパニックを起こす児童に対して組織的な対応ができた。担任やS Sの負担を軽減させることができた。 △他機関との連携のもとに対応を検討してきたが、十分な改善にまでは至っていない。
開かれた学校づくり	(1)心身ともに健全な児童を育てるために学校・保護者・地域が一体となった教育活動を展開する。 (2)地域・保護者に対して学校の情報を積極的に発信する。 (3)夏の校舎移転に備え、計画的に準備を進める。	・学校だより、学校HP等を活用した積極的な情報発信を工夫する。 ・地域に根差した教育の展開や丹後学を重視し地域の資源や人材を活用する。地域に誇りがもてる児童を育成する。 ・保護者・地域の思いを教育活動に反映させる。 ・スムーズな校舎移転、地域・保護者・児童の思いを反映できる新校舎での環境を整えることに努力する。	○土曜活用の機会に学校公開と説明会を行い、本校の教育についての理解を得る機会となった。 ○夏季休業中の校舎移転の際には、保護者、地域の方の応援もあり、スムーズに移転作業を終えることができた。 ○新校舎での様子を見てもらう機会として参観日をはじめ給食試食会（全学年）、網高新体操部演技鑑賞を行った。 △地域人材をさらに活用し児童の郷土愛を育てる。
次年度に向けた改善の方向性	・ユニバーサルデザインに基づく環境の整備を積極的に進め、特別支援教育の視点を学校経営上の大きな柱とする。 ・誰もが安心して学べる学校づくりのために、心の教育を充実させ、児童の主体性を育む。 ・基礎学力の定着を図り、本校の学力課題である思考力・判断力・表現力の更なる向上を図る。 ・講師を含む若手教員の指導力、授業力アップに向けた学校体制を組み、安定した学級経営のもとに、学力の伸長を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立豊栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学校教育目標「郷土を愛し、自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」の具現化を図る学校づくりを進める。 ・「学ぶ意欲があふれる学校」をテーマに重点的な取組をとおして、学校力の向上を図る。		「図画工作科」の研究協力校として、児童と教職員で内容のある中間発表を実施することができた。 ○学級経営の安定、基礎学力や学習意欲の向上 △言語活動や自己有用感を醸成する取組に力を入れる。 △小中一貫教育の取組と関連し、家庭学習を強化する。	めざす児童像の具現化に向け、重点的な活動に力を入れ、全職員が参画した組織的な教育活動を推進していく。 ・図画工作の授業研究を中心に楽しい学習指導を追求する。 ・児童同士が喜びを共感し合う学級づくりを進める。 ・小中一貫教育と関連させ、意欲を高めていく行事を設定していく。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	学習の楽しさを実感させ、基礎的な学力を定着させる指導の強化 ・言語活動や活用力を広げる取組をとおして、表現力を高める。	学校全体で学校課題の整理を行い、指導の共通化を図る。 ・意欲を引き出す図画工作教育の授業研究（描く・伝えることを重視した授業づくり） ・課題の考察をもとにした回復指導と中学校区との取組と関連した言語活動等の推進	○図画工作科教育の共通理解が進み、他教科への指導に広がりが生まれてきた。 ○言語活動を重視した学習形態により、基礎学力の底上げと児童の学習意欲が高まってきている。 △「自分の考えを書きまとめ、発言する」力を基本に、思考・判断していく力を更に付けていく。
生徒指導	認め合いや児童の自尊感情を重視した生徒指導を進める。 ・学校生活のルールや約束を守り人間関係づくりを進める取組の実施 （いじめ・不登校への対応）	児童と教師が一体となって、よい学習環境づくりをめざし取組を進める。 ・諸活動をとおして、話し合い、リーダー性を育成する。 ・全校で人権視点を重視した学級経営を行う。 ・支援を要する児童への個別の指導を丁寧に行う。 （欠席状況の把握、諸機関との連携）	○朝の挨拶、異年齢遊び、学校好きの児童の増加等、児童居場所づくりが進み、学校での人間関係が安定している。（配慮を要する児童への組織的な対応等） △問題事例を教訓化し、タイムリーで肯定的評価による積極的な生徒指導を進めていく。 △関係諸機関と連携し、更に課題克服の取組を共有化して、中学校への円滑な指導の接続を行う。
健康（体育）・安全	家庭と連携し、健康で安全な生活を営む実践力を育てる。 ・食育指導や体力づくり、基本的な生活リズムを定着させる取組 ・避難訓練・事故防止・防犯指導等の実施	日常的に保健だよりや給食だより、学級だより等に関連させながら活用し、児童・保護者の健康意識を育てる。 ・体力づくり、生活リズムや食育等を中心とした学級指導の徹底 ・学習の手引き、家庭学習頑張り週間、いじめアンケート、人権標語等を活用した啓発活動	○自転車教室を実施、にこにこカーの活用等によって見守り活動と交通安全への意識が高まった。 ○非行防止教室の実施により、善悪の判断や情報機器の安全な扱い方について学ぶことができた。 △災害時（地震と不審者）の基本的な対応、食育の奨励

小中一貫教育への取組	「夢と希望と創造性のあふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる児童・生徒の育成」という中学校区学校の教育目標と関連した本校の取組を更に具現化していく。	重点目標「言語活動の充実による質の高い学力の育成」を目指し、保幼小中学校の連携を図り、教職員の指導力を高める。 ・中学校区の経営会議をもとにした行動連携、教育内容の充実を更に高める。 (保幼小中連携による授業研究、土曜活用事業等)	○地域・保護者、学校支援ボランティア、峰山高校、幻一氏等から協力支援していただき、児童の学習環境が整った。 ○合同修学旅行や部活体験等、小小連携・小中連携の共通連携の取組をとおして、中学校区で学習をしていく雰囲気が醸成されつつある。 △総合的な学習の活用、地域教材の開発等、学校からの更なる教育情報の発信と取組を広報していく。
開かれた学校づくり	府小研の研究協力校としての利点を大いに活用する。 (他校への波及させるような実践の深化、バックボーンとなる教育環境整備、保護者、地域への広報と連携強化)	・研究主題をいかした郷土を愛する気持ちを育む教育活動を全校で実践する。 (地域素材・人材との出会い、本の読み聞かせ、総合的な学習・食育の取組、特色ある学校・児童会行事) ・地域の文化・芸術のセンターづくりと丁寧な情報発信	○宿泊体験、研究発表や幻一版画展開催等、保護者や地域の求める学校の賑わいをつくることができた。教育相談活動を中心に児童の学習状況を把握し、各学級で共通の指導と支援をすることができた。 △中学校区で、児童・生徒の指導について共通理解が進んだ。地域の文化・芸術のセンターづくりを、更に進めていく。
研修(資質向上の取組)	府小学校教育研究会協力校として、「創造力と豊かな情操を育成する学習指導と評価の工夫」という図画工作の研究をまとめる。この研究をとおして、他教科へも一般化できる指導を確立させる。	・府・市小研や外部講師等と積極的に連携し、教職員の専門性、指導力の向上を図る研修を実施していく。 ・多くの職員を外部研修に積極的参加させ、児童の表現力の向上を図るために研修で学んだことを実践させていく。	○センターや局の指導主事、市の担当等の指導助言をとおして、指導力が高まり、児童の学習意欲や表現力を高めることができた。 △更に、図画工作科で学んだ視点を他教科の指導へも広げ、児童の言語活動を更に高めていく。
次年度に向けた改善の方向性	① 府小研図画工作科教育の研究成果をもとに、中学校区の算数・数学科を中心とした重点教科に授業づくり研究をシフトし、児童の基礎学力の向上と表現力（言語活動）の向上を図る教育を進めていく。 ② 中学校区の「言語活動の充実による質の高い学力の育成」という一貫教育の目標と関連させ、保幼小中の連携を強め、「開かれた学校」づくりを更に推進していく。 ③ 地域からの学校評価を重視し、「安心・安全な教育環境」「信頼される学校」づくりに向け、保護者・地域と連携した取組に力を注ぐ。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立間人小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 人権尊重の精神に立った教育を進める。 2 基礎基本の定着と質の高い学力を身に付けさせる。 3 開かれた学校づくりと信頼される学校をめざす。 4 防災意識を高め、安心・安全の学校づくりを進める。		○児童の実態を共有し、対応していくことができた。 ○学校の HP により、家庭や地域と連携ができた。 ○あいさつの励行が児童に浸透してきた。 △思考力や活用する力をつける授業づくり △計画した取組を貫徹するねばり強い指導	1 子どもの将来を見据え、生きる力を身に付けさせる。 2 どの子にも学力を身につけさせるために、授業改善を進める。 3 保護者や地域社会に信頼される学校づくりをめざす。 4 保・幼・小・中学校他との連携・協働を深める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	- 学習規律、学習習慣の確立、学力の向上 - 目標設定、効果的な学習指導(授業形態、言語活動等)、的確な評価 - ユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくり	- 授業では、付けるべき力とその学び方等を視覚に訴え、説明のことばの抑揚、間、声の大きさに工夫を凝らし、理解させる。(授業観察、校内授業研、授業公開) - 根拠を示し、ことばでわかりやすく相手に伝えることができるよう、書く活動を意識した授業実践を行う。 - 既習事項の定着を諸テストにより把握し、結果分析を行い回復していく学習指導を行う。	○ 学習のめあてに迫る発問の工夫や考えたことを整理し、書くことを重点にした指導を展開した。学級や児童会活動の中で、わかるように伝えようと表現を工夫する児童が増えた。 △ 書くことに対して、抵抗を示す児童は少なくなったが、根拠をもとにより説得力のある文面を作成するまでに至っているとは言い難い。
生徒指導	- 生徒指導の充実及び豊かな人間性をはぐくむ教育の実践 - 人権教育の推進（信頼関係構築、人権意識、感覚の高揚） - 不登校の未然防止及び解消に向けた教育相談活動の充実	- 人権教育に関連する情報の提供、人権意識を高めるよう研修を実施する。 - 子ども同士の良好な人間関係が築けるよう児童の言動に注目し、分掌と連携を図り組織的な指導を行う。 - 児童、保護者、地域にかかわる情報の交流を行い、指導方向を確認し、実践につなげる。	○ 週末の児童の様子、家庭や地域からの情報交流を行い、改善策を検討し組織的な取組を進め、課題の克服ができた。いじめ調査や日々の子どもの実情から、学級指導、個人面談等、時期を逸することなく対応し、未然防止につながった。 △ 子ども同士で問題解決する方法や人権の大切さを理解だけにとどまることなく、実践できる力をつけることが必要である。

健康（体育）・安全	- 基本的な生活習慣を整え、体力の向上、健康の増進 - 危険から身を守り、安全で健康な生活をするための知識や態度の育成	- 安全な登下校ができるよう家庭や地域ボランティアと連携した安全指導、あいさつ等励行する。 - 体育や遊びで体を動かすことをとおして体力づくりを行う。 - 防災訓練の実施によりわが身は自身で守ることを自覚する。	○ 登校や下校を安全にすることや遊びや体育で体を動かすことで体力がつき、基本的な生活習慣が確立してきたことにより、全児童欠席ゼロの日が増えた。 △ 保健指導（眼、歯、薬物、性等）したことが、実生活に生かすことができるよう継続的な指導を展開していくことが大切である。
小中一貫教育への取組	- 保幼と小、小小、小中の連携を図り、効果的な指導の研究 - 中学校への円滑な接続 - 保護者、地域への啓発、理解	- 丹後中学校区内の各校、幼稚園、保育所と交流（参観等）により切れ目のない指導を継続させる。 - 中学校の合唱祭の鑑賞、部活動の体験をし、中学校生活に見通しをもたせる。 - 小中一貫教育に関わる取組について HP 等で紹介する。	○ 各校種と連携した参観、合同学習等により、児童の活動が活性化した。中学生になった時の姿を具体化させ、中1ギャップの解消につながった。 △ 小中一貫教育に関わる取組について、たよりやHP等で地域に幅広く発信していく必要がある。
危機管理	- 生活安全、交通安全、災害安全の日常的な指導 - いじめ、嫌がらせを許さない公平な正しい判断の指導 - 学校と保護者、地域社会との連携により情報の収集と対応策の検討、実践	- 校内外の施設の危険箇所点検の実施（月1） - 児童の学校生活（集団登校、教室の中、縦割りのグループ内、休憩時間等の様子）の実態を把握し、個別の相談活動や対策会議を行う。 - 週末の会議（情報交換、指導方向の確認等）で、児童の状況、指導者として服務規律を保ち、任務を果たしたかを振り返る。	○ 危険箇所、登下校の安全に関わる指導事項は、教職員で共有化し迅速に全校集会、学級内で指導を行い、けが防止につながった。 ○ 生徒指導部や教育相談部等関連分掌と連携し、個々の事象に応じてケース会議を設定し、保護者の協力も得ながら具体的な対応ができた。 △ 家庭や地域と連携を密にし、子どもの実態を把握したことを教育活動に生かしていくことが必要である。
開かれた学校づくり	- 地域の人材を活用した教育活動の展開 - 学校からの情報発信による理解と信頼を得る学校づくり - 学校と保護者、地域ボランティアの方々との情報交換	- 読書ボランティアの方より月に一回「読み聞かせ」を実施する。 - HPにより「給食の様子」「学校行事」「保健だより」等を地域へ発信する。 - 保護者、地域の方との懇談の機会を設定し、学校・家庭・地域が総がかりで子どもの健全育成に努める。	○ 各種たよりの発行やHPの更新を定期的に行い、児童の活動や体力、健康に関する指導の様子を家庭、地域に伝えた。 ○ 学校支援ボランティアの方々の協力を得て、学習活動や学校行事を進めることができた。児童の学習意欲も高まった。 △ 子どもの活動の様子等の発信については、計画的に行うことや取組のねらい等詳細に伝え、さらなる理解、協力が得られるよう工夫した発信としていくことが肝要である。
次年度に向けた改善の方向性	- 学習のめあてに対して適切な評価、検証を行い、学習意欲を高める。 - 自他共に大切にし、良好な人間関係を構築する。（協力し助け合うこと、感謝の心をもつ、自己有用感を身につける） - 学校からの情報発信については、計画的に行い、家庭・地域と学校の連携を図り、安心安全な学校づくりを進める。 - 保幼小、小小連携、小中連携を行うとともに小中一貫教育の一層の推進を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教職員の協働体制と創意工夫により、学校教育目標の具現化を目指し、「安全で元気に気持ちよく学べる学校」の創造に努める。		○ボランティアや地域人材等を活用して、授業・取組を充実させたり、回復指導を実施したりすることができた。 ○学習規律について、全校統一して指導することができた。 △保護者や関係機関との連携をとり、配慮を要する児童へのきめ細かな指導を行う。 △小中一貫教育について、教職員の共通理解を図り、推進する。	1 確かな学力の育成につながる学習指導と家庭学習の習慣化を図る取組を充実させる。 2 特別支援教育の視点と教育相談機能による適切な個別指導を充実させる。 3 小中一貫教育実施に向けての準備を一層進める。 4 家庭・地域と連携しながら、安全指導・安全管理を徹底する。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 確かな学力を育成する指導を充実させる。 2 基礎的・基本的内容の定着を図る。 3 家庭学習の習慣化を図る。	・言語活動が充実している授業づくりについて研究し、実践する。 ・放課後及び長期休業中の補習・補充を実施する。 ・「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の習慣を定着させる取組を家庭と連携して実施する。	△授業研究を柱に研究し、実践するよう努めたが、どの授業でも言語活動が充実しているとは言い切れない。確かな学力を育成する指導は、言語活動を充実させて一層高めたい。 △放課後や夏季・冬季の休業中に補習・補充指導を行った。回復が図られた児童が多かったが、回数は、もう少し増やしてもよいと考える。基礎基本の定着を図るには、授業改善と補習とで今後も取り組みたい。 ○家庭学習の習慣化に関わる取組は、家庭の協力も得ながら実施した。宿題を確実にやり切る児童が増え、習慣が確かになりつつある。
生徒指導	1 児童理解に基づく指導を充実させる。 2 生活習慣の確立を図る。 3 個に応じた適切な教育相談活動を行う。 4 いじめ防止の取組を実施する。	・児童の状況把握と学級経営に対する評価から改善を図る。 ・生活習慣の定着を図る取組を休み明けに実施する。 ・家庭や関係機関と連携をとり、組織的・継続的に相談活動を行う。 ・いじめに関わるアンケート等を活用して児童の実態をいじめ防止の視点で把握する。	○毎学期、課題や改善点を明確にし、充実向上するよう努めた。 ○生活習慣の定着を図る取組は毎学期実施した。その回ごとに改善が見られた。 △地域や家庭からも情報をもらいながら、児童の実態把握や事象対応をした。児童理解を深め、よりよい指導につなげたい。 ○家庭との相談活動は必要に応じて実施し、指導や対応について組織的・継続的に検討し、改善を図った。個別対応の適切さを追究し、積極的な相談活動を今後も続けたい。 ○いじめについては、実態をいじめ防止の視点で丁寧に把握した。気になる点はすぐに対応し、指導もした。

健 康 （ 体 育 ） ・ 安 全	1 安全指導及び安全管理を徹底する。 2 児童の健康な生活づくりを指導・支援する。	・避難訓練や安全に関わる取組を実施する。 ・登下校の状況把握から即指導・対応という流れを機能させる。 ・児童の生活実態の把握と点検活動を実施する。	○不審者対応訓練については、対応と避難方法をスクールサポーターと一緒に検討し、本校の現状に鑑みた内容で訓練し、改善できた。 ○通学については、登下校の様子や状況から即指導・対応した。安全指導と安全管理はし過ぎることはない的心得でできるだけことはしようと努めたが、場合によっては体制がとりづらかった。 ○生活実態点検の取組を学期ごとに実施し、個別に指導した結果、改善がみられた。
小中一貫教育への取組	校種間の連携を密にとり、小中一貫教育実施のための準備を一層進める。	・中学校区内の担任会において他校との学年間の児童交流を行う。 ・中学校区内小・中学校間で連携を密にし、連携事業を実施して評価する。	△調整がつかず実施しなかった活動が1つあった。細やかな調整や準備、活動報告の発信に努めたい。 ○小中学校間の連携事業は、連携を取りながら実施・評価した。本校なりの課題を付け加えて取り組み、課題解決につながった。
特別支援教育	通常学級における特別支援教育の視点による指導・支援を実施する。	・アセスメント票、個別の指導計画、個別の支援計画を活用して指導する。 ・通常学級における特別支援教育の在り方についての研修を実施し、指導の仕方が分かるようにする。	○個別の指導計画を用いて指導・評価し、次の学期では改善して指導するようにした。保護者との連携にも活用した。 ○京都府総合教育センター出前講座を実施し、発達検査の読み取りと検査結果にそった授業中の指導の仕方を学んだ。該当児童在籍の学級では、ユニバーサルの視点による授業づくりを研究実践した。通常学級での指導・支援に特別支援教育の視点が入るようになってきた。
危機管理	1 児童と教職員が安心・安全に学校生活を送るようにする。 2 危機管理に関わる教職員の意識を向上させる。	・安全点検を毎月実施し、不具合等を早期に見検する。 ・気象警報等発令時の対応について、基本の対応を見直しながらよりよい対応をする。 ・「コンプライアンスハンドブック」を用いた研修を行う。	△安全点検の実施日が、遅れる月があった。 ○危険性が感じられる物は修繕・撤去し、安全な学校生活を送らせるようにした。小さな修繕は、しきれない部分が残った。 ○気象警報等発令時の基本的な対応を見直して改め、適切な対応ができるようにした。 ○年度当初に「コンプライアンスハンドブック」を用いた研修により教員のコンプライアンスへの理解と意識が高まり、相互に注意し合うようになった。しかし、しだいに意識低下も見られるので、繰り返し危機管理意識を醸成させるように確認し合いたい。
次年度に向けた改善の方向性	1 確かな学力の育成を図るため、授業中の指導についてはさらなる研究実践を行い、補習・補充、家庭学習などの取組を見直し、充実・改善を図る。 2 児童理解に基づく指導を充実させるため、児童実態の把握に努めるとともに教員の研修や実践の振り返り、家庭との連携を充実させる。 3 小中一貫教育の実施に向け、校種間連携を丁寧にするとともに計画と見通しをもち、教育活動での確実な実施を図る。 4 安全点検の確実な実施のため、実施日を検討する。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立 吉野小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
日常の教育活動を充実させていくことで、児童が安心して意欲的に活動できる学校、保護者・地域から信頼される学校をつくる。		○目指す授業の共有化が進み、基礎学力の定着・向上が図られた。 ○組織的な運営や日常における授業実践充実の意識が高まってきた。 △基礎学力のさらなる充実、学習意欲の向上に向けた取組を家庭と連携して進める。 △特色ある学校づくりの充実のためにも保護者・地域との連携をさらに深める。	(1)基礎基本の定着を図り、さらに思考力・判断力・表現力を充実させる学習活動の推進 (2)豊かな人間性を育む「心の教育」の推進による、生きる力の育成 (3)信頼される学校づくりの推進 (4)小中一貫教育を見通した、様々な連携の推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	学力の充実向上を重要な教育課題として位置付けて取り組む。 (1)学習内容の定着に向けた取組 (2)教師の授業実践力の向上に向けた取組 (3)学習習慣（家庭学習習慣）の確立を目指した取組	(1)基礎的な学習内容の定着に向けて取り組む。 ・個々の児童の学力課題を明らかにし、学級の取組を基本にしながら、全校で共有化した取組を進める。 ・朝のチャレンジタイム、昼読書の時間を設定する。 ・補充学習への支援を組織的に行う。 (2)授業実践力の向上に向けて取り組む。 ・重点教科として、算数科の授業研究を進める。 ・学習指導強化月間を中心とした日々の授業実践力の向上を図る。 (3)家庭と連携して、学習習慣の定着を図る。 ・具体的な取組内容の理解や情報発信に努める。	○日々の授業において事前の教材研究を重視し、目標を明確にした指導計画・単元構想を持ち、1時間の授業の充実を図ることができた。 ○日々の授業実践に加え、意図的に授業改善に取り組むよう重点研究活動、学習指導強化月間等を活用してきた。 △児童個々の把握や指導の充実を一層図ると共に、時間外の指導や家庭学習等指導全体の構想をより明確にしながら指導していくことの重要性を確認していく。
生徒指導	友達関係づくりや規範意識の向上を目指して取り組む。 (1)コミュニケーション力を高め良好な友達関係を育成する。 (2)規範意識を高める。 (3)不登校やいじめの未然防止に努める。	(1)掃除、給食など、年間を通じた異年齢集団活動を充実させ、リーダー性やコミュニケーション力の育成を図る。 (2)肯定的な評価を軸に、規範意識を高め、自己肯定感（有用感）を育てる。 (3)事象の早期発見・早期対応を図ると共に、全教職員による組織的な指導を進める。 (4)教育相談部を中心に、家庭や関係機関との連携を密にし、安定した登校を実現する。	○異年齢集団活動を通し、高学年のリーダー性の発揮と共に、学年を超えた良好な関係を築くことができた。 ○事象に対する早期対応を基本に、個別対応・組織的対応の判断をしながら適切に対処することができた。 ○丁寧な関わりにより不登校傾向児童の成長を促すことができ、改善を図ることができた。 △学習も含め考える力を一層身に付けさせると共に、規範意識や自尊感情を育てる指導を今後も重視する。

健康（体育）・安全	元気で規則正しい生活ができる児童を育成する。 (1) 主体的に運動しようとする児童を育てる。 (2) 事故の未然防止や、安全確保に対する意識を高める。	(1) 朝の体力づくりを、年間を通して実施する。 ・朝マラソン、朝縄跳びの取組。 ・「京の子ども元気なからだスタンダード」の継続した取組 (2) 望ましい生活習慣の確立に向けた取組をする。 ・さわやか点検を各学期に実施 (3) 登下校の安全指導の徹底を図り、地域のボランティア等と連携した取組を進める。	○年間を通し、体力づくりの取組を継続させるよう、組織的に進めることができた。（マラソン、縄跳び） ○ボランティアの方々と連携し、安全な登下校ができた。 △相手やまわりのことを考える力がまだ弱く、危険を予知する力、判断する力、安全や健康を守る意識を高めるようにする。
小中一貫教育への取組	小中一貫教育を見通した様々な連携を進めていく。 (1) 弥栄学園として提起する内容の理解と積極的な推進 (2) 校内研修の充実	(1) 弥栄学園小中一貫教育のねらいや内容の理解を深める。 ・推進会議の提起内容を理解し、積極的に関わろうとする。 ・校内研修での共通理解を意図的に進める。 (2) 具体的な連携や交流を積極的に取り組む。 ・他校種研修や授業研究・公開に進んで参加する。	○全体研修会や各会議を通し、10年間を見通した指導の一貫性の意義について理解を深めることができた。 △中学校の指導形態など、他校種の理解がまだ十分でなく、中学校から学ぶよう取組を考えていく。
研 修	教師の指導力量を向上させるための研修を充実させる。 (1) 「学力の充実・向上」の取組とあわせ、教師の授業実践力の向上を図る。 (2) 校内研修を充実させ、教師の資質向上を図る。	(1) 診断テスト等の結果分析を通して指導方法についての研修を深める。 (2) 算数科を中心とした教材分析や指導方法、授業の改善につながる研修を進める。 (3) 学習指導強化月間等を活用し、日常的に授業実践力の向上に努める。	○教材解釈の仕方や具体的な単元構想の持ち方など、実践していく上で欠かせない内容を重点研究や学習指導強化月間の取組を通し、指導の在り方について理解を深め、個々の実践に生かせるようになってきた。 △診断テスト等、実態分析をもとにした授業改善が具体的に進めるまでには至らなかった。
特色ある学校づくり	本校の伝統や地域の財産に支えられた取組を充実させる。	(1) 米作り、収穫祭（吉野フェスタ）等、豊富な地域の人材や資源を活用した本校独自の取組を進める。 (2) 異年齢集団による活動（チーム給食、チーム掃除など）を充実させる。	○市給食研に向けた地域人材の活用や収穫祭（吉野フェスタ）への協力など、本校独自の地域とつながる取組を進めることができた。 ○異年齢集団活動の日常的な取組を重視することにより、全校児童の関係づくりを更に進めることができた。 △より一層、地域を大事にし、地域から学ぼうとする学校になるよう、具体的な構想を練っていくようにする。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 学力向上に向け、日々の授業実践力の向上、習熟・定着を図る取組の充実や家庭学習の習慣化を図る取組等を一体化させ進める。 (2) 気持ちの良くなるあいさつをはじめ、豊かな人権感覚を養う取組の一層の充実を図る。 (3) 小中一貫教育の推進とあわせ、弥栄小学校と連携した取組を進める。 (4) 家庭・地域との連携をより一層深め、信頼される学校づくり、特色ある学校づくりをさらに進める。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
かしこく やさしく たくましく ～自主・自立～ (1) 言語活動の充実 (2) 自己肯定感の醸成		○弥栄学園構想に基づく10年間の教育課程の編成 ○地域協働による学校文化の創造 ○△異年齢活動の充実による、再配置校の人間関係構築 △課題解決型の授業による基礎学力・活用力の育成	1 学力の向上(授業づくり) 2 学級経営の充実(学級づくり) 3 教職員の資質向上 4 信頼される学校づくり 5 小中一貫教育(小小連携・小中連携)の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	1 学習規律の確立 2 言語活動の充実 3 学び合える授業の構成 4 読書活動の充実 5 家庭学習の充実	1 学習規律を確立させ、学習に向かう姿勢をつくる。 2 全教科・領域の中で言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 3 安心して学び合える学習環境の中で、少人数加配の活用や指導方法を工夫し学力を定着させる。 4 図書支援員活用やPTAと連携し、読書に親しませる。 5 「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の習慣化を図る。	○学習規律を意識した指導で、聞く姿勢が定着した。 ○△「書くこと」を丁寧に指導し、抵抗なく書けるようになったが、思考力が付いたとはまだ言えない。 △算数科を中心に加配を有効活用し、課題解決型の学習やグループ学習を取り入れたり、言語活動の充実を図ったが、基礎学力の定着には課題が残る。 ○△図書室の環境整備により、図書室利用が増えたが、家庭では積極的に本を読むことは少ない。 ○△中学校区で統一した時間・内容の家庭学習ができるようになったが後1割の児童は定着していない。
生徒指導	1 規範意識の醸成 2 人とつながる力の育成 3 自他を尊重する心の育成 4 気持ちのよい挨拶の励行 ○挨拶お礼は顔を見て ○素直に「ごめんなさい」	1 全校児童が公平・公正に生活するためにルールやマナーを児童自身に考えさせ、守ることで規範意識を高める。 2 学級遊びや異年齢活動等を通して、人間関係力を高める。 3 自他のよいところを積極的に見つけ、伝えさせる。 4 PTA・地域と連携し、挨拶の心地よさを体得させる。	○遊びを通して、ルールやマナーを意識することができた。 ○意図的な学級遊びや異年齢活動を通して互いを思いやる良好な人間関係を結び、トラブルが減った。 ○「いいとこメガネ」の取組を通して、自分のよさにも気づき、自尊感情を高めることができた。 ○△保護者・地域の方の協力を得て、挨拶運動を実施したが、顔を見て挨拶できる児童はまだ半数である。
健康(体育)・安全	1 責任感の育成 2 体力づくりの推進 3 生活習慣の確立 4 何事にも立ち向かう心の育成	1 係りや当番活動、委員会活動では、自分の役割は責任をもってやり遂げる力を育てる。 2 目標を設定し、マラソン・縄跳びで体力づくりをさせる。 3 「ほけんだより」による保健指導や、食に関する指導、生活点検の取組により、運動や栄養・睡眠が体に大切なものであることを指導し、よりよい生活習慣を身に付けさせる。	○創意工夫ある委員会活動を自主的にできた。 △掃除の仕方は、今後も丁寧な指導が必要である。 ○頑張りカードの活用により、自分の記録に挑戦し体力づくりに励む児童が増えた。 ○給食では遅食児童が減り残食もほとんどなくなった △家庭での生活時間(早寝・早起き・テレビ・ゲームの時間)管理ができてにくい。特に寝る時刻が遅い。 ○苦手なことや自分の記録に、チャレンジする児童は増えた。

		4 苦手な事でも互いに励まし合い「粘り強く頑張ってよかった」と実感できる取組を仕組み、自尊感情を高める。	△2月の「1週間忘れ物なし」の取組では、全校の61%しか達成しなかった。粘り強くやり切る力はまだ弱い。
小中一貫教育への取組	1 学習規律の徹底 2 系統的な授業スタイルの構築 3 地域への発信	1 弥栄中学校区で、共通して指導する「学習規律」について検討し、徹底指導する。 2 中1ギャップ解消の為に、中学校を見据えた低学年からの系統的な授業スタイルを構築する。 3 弥栄中学校区の教育活動を、地域へ広める広報活動を意図的に行い、関心を持ってもらい保護者・地域からの協力を得る。	○中学校区の「学習規律」を意識した授業づくりにより、話を聞く姿勢や学習に向かう姿勢がよくなった。 ○共通課題を「書くこと」に設定したことで、意図的な指導ができ、思考力・表現力が伸びつつある。 △高学年の授業スタイルについては研修が必要である。 △学校だより・HPで、中学校との連携事業を積極的に広報し、保護者・地域の方に広めたが周知徹底できていない。
危機管理	1 迅速・丁寧な初期対応に努める。 2 報告・連絡・相談・確認を怠らない。 3 登下校の安全確保に努める 4 児童の、人間関係・仲間関係を把握する。 5 児童の危険予知能力を育てる。	1 最悪を想定し、適切な初期対応に努める。 2 報・連・相・確認を徹底し、常日頃からの情報収集と迅速な対応を図る。 3 広い校区の登下校であるので、ボランティア団体や防犯ステーションとの連携を図り、安全指導を徹底する。 4 教師の鋭い人権感覚を研ぎすまし、児童の人間関係・仲間関係を把握し、いじめ等が見つかれば、早期に対応する。登校渋り傾向児童については、保護者面談を定期的に複数で行う。 5 児童自身に、危険を回避する力を付ける。	○職員間の連携が強く、問題事象を早くキャッチしやすいムードだったので、大きな問題になる前に対処できた。 ○毎週の会議で児童実態交流や、各担当からの報・連・相・確認により、常に状況を把握でき初期対応できた。 ○保護者・地域の方の協力により安全に登下校できた。 △下校の仕方には、生徒指導上の課題が残る。 ○△学校全体が落ち着き、昨年度28件もあった事故災害（管理内）が14件に激減したが、不注意な行動により、学校備品を損傷してしまうこともあった。 △危険回避力が弱いので、行動に見通しを持たせたい。
研修（教職員の資質向上）	1 子どもを上達させるための指導力を付ける。 2 授業実践力・学級経営力の向上を図る。 3 小中一貫教育に関する研修を深める。	1 教師の評価基準を高く持ち、全教職員が同一步調で指導できる力量を高めるための研修を充実させる。（月目標を設定し、振り返りを大切にする） 2 算数科の研究を推進する中で、授業づくり・学級づくりについて学び合える教職員集団とする。 3 弥栄中学校・吉野小学校と協力し合い、課題を焦点化して研修を深める。	○全教職員の協働意識が高く、同一步調での指導ができ、弥栄小スタイルが確立しつつある。 ○算数科において主発問の工夫やペア・グループ学習を取り入れる研究を推進し学習意欲の向上がみられた。 ○授業づくり・学級づくりについて、日常会話の中でも互いの実践を交流し、互いに学び合うことができた。 △小中一貫教育実施に向け、目指す子ども像・学びの連続性について、さらに論議する必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	○ 来年度は、弥栄中学校区小中一貫教育本格実施となるので、3校の共通課題を明らかにし、焦点化した指導の在り方を研究する必要がある。 ○ 思考過程を大切にしたい課題解決型の授業づくり、安定した学級づくりについて、理論研修・実技研修を通してさらに研究を深め、学力向上に努める。 ○ 研修として時間設定した場面だけでなく、教職員間で日常的によりよい教育指導法について学び合い、人材育成を図る。 ○ 来年度も特別支援教育を学校経営の柱に据えた教育を行う。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立久美浜小学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。		○全校チャレンジ計算等に取り組み、計算力が高まった。 ○算数科を中心に思考の視覚化や根拠を基にした発言、ペア学習など重視した授業を仕組むことにより、児童の学習意欲や活用力が育ちつつある。 ○児童のリーダー性の高まりや友人関係の安定が図られた。 △基礎学力の定着や活用力の育成 △自分で考えて行動するとともに、日常生活をやり切る。 △何でも言い合える仲間意識の醸成	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着及び、根拠をもとに自分の考えを説明・表現する力を向上させる。 2 気持ちよく生活するための必要なマナーやルールを考えて行動できる力や相手を思いやる心を育成する。 3 目標の実現や日常生活の自分の役割について継続して取り組む強い心と体を育てる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な知識や技能を習得させる。 2 特に算数科において、思考力、判断力、表現力等を育成する授業作りを進める。 3 家庭と連携し、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図る。 4 読書活動の充実を図る。	1 月1回全校チャレンジ計算に取り組む。 2 授業の中で適応問題を行う。 3 算数的活動と言語活動を結び付けた指導を充実させる。 4 ユニバーサルデザインに基づいた授業や支援方を準備する。 5 授業のめあてを明確にするとともに、ペア学習やグループ活動を計画的に取り入れる。 6 家庭学習の手引きを活用した家庭学習を行うとともに、学期2回家庭学習頑張り週間を設ける。 7 週4回朝読書の間を設定し、教師も読書をする。	○計画的に実施できた。適応問題も平均7割の時間で実施できた。 ○図や絵に表したり、根拠を基に説明したりする指導を行い、児童の活用力が育成されてきている。 △教師の指示や発問、個に応じた支援方策等は、今後も工夫が必要である。 ○算数科においては、授業のめあてを示すことができた。また、児童の学び合いが深まった。 ○家庭学習の習慣化が図られてきている。(74%) ○朝読書は、集中して読書をしている学年が多い。
生徒指導	1 リーダーの育成や好ましい友人関係の構築を図る。 2 規律の確立及び自律心の育成を図る。 3 不登校・いじめの未然防止を図る。	1 リーダー性等について付けたい力を共通理解して取り組み、肯定的な言葉かけや評価をしたりする。 2 人間関係を繋ぐ言葉としての挨拶に取り組む。 3 児童に考えさせる取組を計画的に行う。 4 久美小当たり前ルールを学期1回行う。 5 不登校等の未然防止について、複数で対応したり、記録を取ったりするなど組織的に取り組む。	○児童会活動を通して6年生の主体性やリーダー性が高まった。また、学級でもリーダー性や主体性を重視する取組が実施された。 ○児童会の取組として年間を通して実施した。(児童アンケート96%ができています。) △児童がよりよい学校生活を考える取組にまで至らなかった。 ○気になる児童について組織的に対応できた。

健康（体育）・安全	1 学校内外における事故防止と安心安全体制の確立を図る。 2 基本的な生活習慣の確立を図る。 3 危機回避能力を育成する。	1 学校保健安全計画に基づいた保健指導を計画的に行う。 2 久美っ子見守り隊と連携した取組を行う。 3 ヘルメット点検を月1回行う。 4 生活点検を学期1回実施し児童の実態を把握するとともに保護者への啓発を進める。 5 事故災害の実態について共通理解を行い指導に生かす。	○保健便り等を活用して計画的に実施できた。 ○成果と課題を踏まえた指導事項の共通理解ができた。 ○ヘルメットの着用率が向上した。（約90％） ○基本的な生活習慣の定着は、約70％で推移している。 △日本スポーツ振興センターにかかる怪我が増加した。（安易な不注意による怪我が増加）
小中一貫教育への取組	1 組織体制の確立と中学校区の課題解決に向けて連携した取組を進める。 2 全面実施に向けて教職員の意欲を高める。 3 保護者や地域への啓発を行う。	1 モデルカリキュラムを活用した授業研究を行い、指導方法等について共通理解を図る。 2 児童・生徒と一緒にできる取組を行う。 3 各部会の活動や取組を会議の中で報告・協議し、組織的に取り組む中で、教職員の共通理解や意欲を高める。 4 様々な場面での情報公開や便りを発行するなど、啓発を進める。	○低・中・高学年・中学校で授業研究を行い、指導方法等について学ぶことができた。 ○中学校と合同で挨拶運動に取り組むことができた。 △職員会で各部会からの提起や報告をしたが、時間不足で十分な協議が出来なかった。 ○HPや会議等を活用して啓発を行った。中学校区としての啓発はタイムリーにできなかった。
特別支援教育	1 個別の指導計画を活用し、個に応じた支援方策の充実を図る。 2 障害のある児童（人）への理解と認識を深め、正しい行動ができるようにする。	1 指導に活用できる個別の指導計画について研修するとともに、授業参観等を計画的に行い、校内委員会等で支援方策について検証・改善を行う。 2 個別の教育支援計画を計画的に作成する。 3 保護者との相談を重視し、連携した指導を進める。 4 目標を明確にした障害に対する理解教育を学年に応じて計画的に行う。	○個別の指導計画に基づいて授業参観を行い、より具体的な支援方策に改善を図ることができた。 △個別の教育支援計画を新たに作成できなかった。 ○学期に1回程度、継続して懇談を行う中で、就学に対する共通理解が深まった。 △場面に応じて指導したが、計画的には実施できなかった。（特に発達障害）
開かれた学校づくり	1 家庭・地域社会との連携を図りながら、教育活動の推進、健全育成に努める。 2 地域を生かした豊かな体験活動の充実を図る。	1 HPの更新を定期的に行う。また、PTA会議、懇談会、各種会議等で積極的に情報の公開を行う。 2 学校や学級の様子や教育方針が見える通信を発行する。 3 保護者や関係機関の方々に参観の機会を多く設け、外部アンケートや各種会議を行い、学校運営の改善に生かす。 4 学校支援ボランティアや地域の人的・物的資源を積極的に活用する。（クラブ活動、学習支援、総合学習等）	○HPは定期的に更新し、アクセス数も増えた。様々な場で情報発信に努めた。 ○各種便りは定期的に発行できた。指導方針の見える通信も増えた。 ○アンケート結果や様々な意見を学校改善に生かすことができた。 ○ボランティアや地域の人材、物的資源の活用の幅が広がった。（人数76人、日数58日）
次年度に向けた改善の方向性	○久美浜中学校区として、基礎的・基本的な内容の確実な定着と表現力・思考力・判断力等の活用力を高める授業づくりや学習意欲の向上や家庭学習の習慣化に向けた研究や取組を行う。 ○よりより学校生活や社会生活を送るために規範意識の醸成を図ったり、生活ルールやマナーについて自ら課題を見つけ改善したりしていく取組を行う。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
・2年目の学校課題を整理し解決する。 ・児童に知・徳・体をバランス良く定着させる。 ・教職員評価・学校評価をとおして教職員の資質向上・組織的な教育活動を継続して行う。		・再配置校としてどの活動でも教員が一体となり、新しい取組を作り上げ、子どもたちの意識に入れ、新しい高龍小学校を作り上げる事ができた。 ・バス通学児童が半数近くいる中での放課後復習時間確保が難しかった。	・授業の中で思考をくぐらせる場面を入れ、基礎・基本の力の充実と共に自分の考えを持ち、表現できる力を育てる。 ・改善方策をもった三者会運営と、組織的な教育活動の推進により教員の資質向上につなげる。 ・高龍地域見守り隊を立ち上げる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	○基礎的・基本的な知識技能の習得 ○授業の中で思考をくぐらせる場面の挿入 ○学力テスト分析と誤答研究及び算数科における各学年のテスト誤答研究 ・学びの基礎を身に付ける。	・算数重点单元におけるプレテスト実施による課題把握と課題解決に向けた個別支援を実施する。(加配教員の丁寧な支援) ・反復学習や誤答分析を行うなかで、基礎・基本の学力を習得させる。 ・全学年での授業の決まりを作成し目標がはっきりした授業をつくりあげる。 ・思考・表現・学び合いの場面を单元を通して取り入れ、意欲的に学習に取り組める工夫をする。 ・誤答整理と分析を行い、間違いの傾向をつかみ指導に活かす。 ・家庭学習の内容充実と自主的な学習の進め方の確認を行う。	○单元に入る前に教科書復習問題を実施。未定着部分を見極め、指導を行い、学習終了後の形成テストを先に作成することで、目標をはっきりさせた指導を行った。 ○発表のルールを掲示・指導し、自分の考えを書いたり発表したりすることが児童に定着した。 ○全校で計算練習テストを実施した。回が進むごとに練習が生き、個々の児童の計算の力が向上し意味のある学びになった。 △思考部分で自分の考えを文章化しにくい児童もあるため、どのように支援の準備を行い自力解決へとつなぐのかは課題であった。
生徒指導	○個を大切にし、個性を集団の中で生かせる力を付けるとともに、お互いに気持ちの良い言語生活を送る。 ○日々の問題行動への対処は組織的に行う。	・今子どもに何を教えるのか思いをしっかりと持ち、コミュニケーションが相手にとって気持ちの良い言葉を使い、それができるような指導を行う。 ・粘り強く最後まで力を出せる児童を育成するために、「挑戦」する場をつくる。 ・問題行動に関して「悪いことは悪い」と伝え、事実を正確に把握し、生徒指導部を中心とした組織的な指導を行う。また、保護者からの悩みなどの相談については丁寧に対応する。	○頻発する課題に対して学級だけでの対応でなく、生指部が組織として動く体制ができた。児童・保護者対応とも、部としての方向性を確認して対応できた。 ○「2年目の挑戦」を意識し、学期ごとの目標を具体的に提示した。継続した活動になるよう「場」を与えたことで、児童が意識して取り組めるようになった。 △3つの地域独特の長年に及んでいる課題も発生した。なかなか学校が入りにくいものもあったが、「高龍小」としての対応方法を考える機会となった。

健康（体育）・安全	○命の大切さを伝える ○健康な体作りを推進する。	・登下校見守りについて、学校全体での取組体制の確立と、地域連携による見守り隊の設置を行う。 ・子どもの生活リズムの点検活動を実施し、家庭生活の様子をつかみ指導に活かす。 ・除去食児童対応に関して保護者との打ち合わせを毎月実施して思いを聞き、他児童の給食と交わらないように徹底する。 ・危険回避能力を身に付けさせる（安全教室・避難訓練など）訓練を行い、その大切さについて指導する。	○「高龍児見守り隊」を発足することができた。各学期に感謝の会を行い、児童が地域・警察の方へ感謝の気持ちを伝え一緒に下校することができた。 ○すっきり点検と家庭学習頑張り週間を合わせて実施し、保護者への点検活動の負担を減らした。回を重ねる中で各家庭での学習習慣づくりの成果が増えた。 ○月1回の除去食児童対応の会議を行い、除去すべき食材と持ち込み食の確認をした。児童も保護者も安心して給食をとることができた。
小中一貫教育への取組	○久美浜中学校区の児童・生徒課題をもとに、特色を生かした研究構想を立て実践する。	・4部会の活動において、それぞれの具体的な課題を明らかにして、解決できるよう計画・実践・評価の動きをつくり上げる。 ・算数科を中心に低学年部会での研究授業において研修を深め、合わせて保育所・幼稚園との連携を密にするなかでアプローチカリキュラムの計画・検証を進める。	○部会ごとの活動内容を、積極的に実施することができた。全職員が関わり、特に学力充実・学年部会などにおいては個々が力を発揮することができた。 ○低学年部は子ども園・保育所との継続した参観・交流を実施し、アプローチカリキュラムを作成することができた。現在できるものから実施中である。
特別支援教委育	○実態把握による支援体制の充実を行う。 ○校内委員会の設置と継続的な配慮を要する児童の指導と観察を行う。	・特別支援学級担任・通級指導教室の専門的視点の目線での配慮を要する児童の気付きについて定期的・継続的に交流する場をつくり、特別支援・言語教室担任の専門的視点での指導・支援方策を学ばせ、学級での支援計画を立て実践させる。	○週一回の校内委員会を継続して行えた。対象児童に合わせた具体的な取組について話し合い、その後の経過も確認した。現状・取組を共有する中で、児童の変容を確認できる場として位置づけることができた。 △配慮を要する児童への細かい実際の指導について、より細かな指導法を記録化するなど工夫が必要である。
開かれた学校作り	○地域の魅力に気づき、故郷への理解を深める。	・3地区に広がる地域の魅力を集め、歴史を学び、地域での体験・活動の実施により、高龍地域の一員としての自覚を高める活動を作り上げる。 ・地域の方々、講師になっていただいた方々の学びをまとめ、発信することで郷土愛を育成する。	○総合的な学習の時間における地域学習のなかで、太鼓、暮らしを良くするためのため池、農作業、土地のいわれなど様々な観点から地域の方のお話を通して学ぶことができた。音楽発表会や環境フォーラム、参観日など機会を生かしてまとめを発信することができた。
次年度に向けた改善の方向性	・「めあての提示・自力解決・交流・まとめ・振り返り」という一連の流れを各教科の中で行い、教員の目指した目標について児童が自分の言葉で「何がわかったか」ということを振り返られるような授業を作り上げる。また、「今日の学び」と「家庭学習の内容」がつながるような取組も考える。 ・配慮を要する児童について分析を行い、その児童に応じた指導を考え指導に活かす。学習時における声かけや定着させるための工夫など、個別の目標をはっきりさせ、その達成に向けた指導を行う。 ・保幼からの小中一貫教育で、小学校をまん中におき、保育所・こども園、中学校との連携をさらに進める。学園のめあて（ゴールとなる姿）を、自校の取組の中に具体的（ステップを考え）に取り入れ、全職員で意識して取組ができるようにする。合わせて進捗状況について随時確認し、次へのステップを意識した取組となるように進行していく。		

(別紙様式1)

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立かぶと山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
※町内同一目標 小中一貫教育 ふるさとを愛し 意欲的に学び 優しい心をもち 根気強く努力する子どもの育成		① 肯定的評価、規範意識を身に付けさせる指導に努め、児童が「学校が楽しい」と思う状況を作り出せた。(90%) ② 年度始めの学力診断テストと比べ、年度末のDRTテストでは半数の項目で平均比が上昇、半数の項目が下降した。 ③ 受容すること、ルールを教えること・社会化させることをバランスを取りながら指導する。(特別支援教育充実) ④ 登下校時に配慮すべき点について、早期に改善することができ、安全確保につなげることができた。 ⑤ 小中一貫教育を自校の課題解決、活性化のために利用する。	① いごちのよい学校 ・自己肯定感、豊かな人間関係の育成 ・規範意識の高揚(ルールを守る) ② 学力向上を図る学校 ・基礎学力の定着・質の高い学力の育成 ③ 家庭・地域に開かれ、信頼のある学校 ◎教育活動の合い言葉(小中一貫目標 概要版) 「ふるさと 友だち 学び 大好き子」の育成
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	基礎的・基本的な学習内容の習熟と、思考力・判断力・表現力の向上。	・「分かる授業づくり」「できる授業づくり」をテーマに重点研究や日常の教職員の交流により学びあう。 ・算数科を重点研究として「問題解決の過程」を重視して授業研究を進める。 ・京都府丹後教育局「小4ふりかえり学習」実践開発協力校として学力定着状況の分析をし、計画的・継続的な学力回復を図る。 ・ドリルタイムに基礎・基本の反復練習を繰り返す。	○特別支援学級を含めて、各学年1回ずつ、計7回の授業研究会を通して、課題解決の授業づくりのためには、既習事項を本時の目標とどのように関係づけるか等の見通しを持つことが必要であること等について学びあえた。 ○全校でプリント繰り返し学習に取り組むことができた。 ○4年生では、丹後教育局の事業を活用して、計画的に学び直しをすることができた。 △年間を通して、計画的、継続的に反復練習を積み上げるために、成果が見えるための工夫をし、全体で共有する。
生徒指導	「いごちのよい学級・学校」を目標にし、具現化を図る。	・「いごちのよいクラスにするためのアンケート」を年3回(4月、7月、12月)実施し、教育活動を進める際の重要な資料とし、学級経営、学校経営に活かす。 ※学級経営案の書式変更(アンケート結果に基づく計画) ・「自己肯定感を高める」、「規範意識の高揚」の指導目標を年間を通して企画委員会を中心に、各分掌の動きに関係づける等児童目標に落とし込み、児童実態の改善を図る。 ・異年齢活動を積極的に取り入れ、人間関係を深める。 ・中学校区「法やルールに関する教育」研究指定の実践	○アンケートを年3回実施・分析し、要配慮児童に全教職員が肯定的な声かけをしたり、担任が不満を持つ児童に意識的に承認の場を設定したりする等、児童の学級生活満足度を高めるための意図的な働き掛けをすることができた。 ○企画委員会で、今年度規範意識を高めるための合い言葉を「風林火山」と設定。特別活動を進める際、各委員会が「合い言葉」を意識した、取組をすることができた。 ○「法やルールに関する教育」に関して、情報関係の授業、薬物乱用防止教室、非行防止教室を開催した。

健康（体育）・安全	健康・体力の増進を図る。 安全の確保を図る。	・春、秋に朝マラソンに取り組む。 ・ニコニコカーで登校時、下校時見守り活動をし、安全確保に努める。またその際、地域より情報を収集し、迅速な対応に努める。 ・見守りボランティアのネットワークの構築を図る。 ・長期休業明けには生活習慣点検週間を設ける。	○秋のマラソン、丹後小学生駅伝競走大会に向けて朝マラソンを実施。継続することで持久力を鍛え、丹後小学生駅伝競走大会では、第7位に入賞することができた。 ○ほぼ毎朝学校がニコニコカーで巡回することで、地域情報を早くキャッチしたり、ボランティアさんとの関係を深めたりし、円滑な学校経営に繋げることができた。 ○地域の合意を得ながら、通学路一部変更の準備を進めた。
小中一貫教育への取組	小中一貫教育を自校の課題解決、活性化のために利用する。	・土曜活用を利用して、6年生が久美浜中学校のクラブ活動見学・体験をする。 ・久美浜学園の学年会議を設定し、他校の実践より多くを積極的に学び、本校の実践に生かす。 ・子ども園年長組と小学一年生とのスムーズな連携のためのカリキュラムづくりを進める。 ・授業研究を通して汽水域の指導法について学び、日常の授業に反映する。 ・「家庭学習がんばり週間」等家庭との連携を強める。	○学園経営会議で、中学校のクラブ活動見学については、今年度は体験を中心とすることを構想し、実行する等、小中一貫教育を本校児童の「中1ギャップ解消」の為に活用することができた。 ○学年会議では、各校の児童の状況、教材の交流等をし、各担任の学級経営、授業改善に繋げることができた。 ○中学校の定期テストと連動させ「家庭学習がんばり週間」を実施し、家庭学習の意識化を図ることができた。 ○「小学校これだけは」プリントの反復練習をした。
特別支援教育	校内サポート体制の確立を図り、個の指導に活かす。	・特別支援教育指導員の効果的、計画的な活用を図る。また状況に応じて柔軟な対応ができることも大切にする。 ・サポート会（低、中、高）を毎月1回持ち、情報交流、分析をして手立てを考える。 ・より専門性の高い機関と連携をとる。	○毎週月曜日に支援チーム会議を開き、特別支援教育指導員の週の動きについて計画を立てた。その計画を全教職員で共有化し、組織として有効に指導員を活用することができた。 ○医療、福祉、SC、SSW等、必要な連携に努めた。
特色ある学校づくり	開校3年目。かぶと山小学校区の人・自然・文化などについて学び、まとめ、情報発信する。	・各学年地域学習を系統的・計画的に積み上げ、成果を地域に発信する。 ・再配置による「ひずみ」については、アンテナを高く張り、日常的にやわらかく対応し改善し続ける。	○教育目標を「ふるさと・友だち・学び 大好きっ子の育成」とし、ふるさとを前面に出すことで、年間を通して地域との結びつきを大切にすることを意識し続けた。 ○HPアクセス数が h25 年度（14000）h26 年度（41000）h27 年度（87000）と確実に増加している。
次年度に向けた改善の方向性	・いごこちのよい学校をつくるために、「豊かな人間関係」「規範意識の高揚」が必要である。そのために、学校生活全体を通して「ソーシャルスキルトレーニング」を意識し、「やってみせ（モデル）、言ってみせて（インフォメーション）、させてみて（リハーサル）、ほめる（フィードバック）」ことを計画的に、継続的に、根気強く積み上げ、児童の変容につなぐ。 ・全教職員が共通の目標を年間を通して意識し続け、「チームかぶと山」としての成果を出すために、目標の達成状況の見える化・数値化を図り、関係分掌が丁寧な連携をし、PDCAサイクルに基づく地道で継続的な進行管理をすることで、児童の変容につなぐ。 ・久美浜学園の取組や11月18日（金）市給食研究会での発表を、学校経営の活性化に活用する。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす学校像】 ・生徒にとっては魅力ある学校 ・家庭、地域社会にとっては開かれた学校 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・粘り強く挑戦する生徒 【重点課題】 ・確かな学力の充実・向上 ・豊かな人間性の育成 ・信頼を高める学校づくり		【小中一貫教育初年度の取組】 ○行事は、ほぼ予定どおりにすすめることができた。 ○交流事業等をとおして自己肯定感を向上させ、中学校入学への不安解消につなげる事が出来た。 △小小連携・小中連携の在り方をさらに研究する。 【確かな学力の育成】 ○京都式少人数授業を実施し、きめ細かな指導ができた。 △家庭学習習慣の定着、学習意欲向上の取組が必要である。 △教科指導についてのさらなる研究が必要である。 【豊かな心の育成】 ○組織的対応により不登校生徒が減少した。 ○問題事象の暴力行為がかなり減少した。 △不登校生徒の解消と未然防止に課題を残した。 △人権意識・規範意識の醸成に課題を残した。 △個別の支援計画による生徒への具体的な指導が必要である。 【信頼を高める学校づくり】 ○学校公開や学校便り等で、積極的な情報発信を行った。	【小中一貫教育完全実施】 ・児童生徒の「自己肯定感」を更に育成する。 ・小中連携の取組内容を学園内全教職員が共通理解し、組織的・計画的に実践する。 【確かな学力の育成】 ・教師の授業実践力の向上を図る。 ・言語活動の充実、家庭学習習慣の確立を図る。 ・総合的な学習、読書活動を一層充実させる。 【豊かな心の育成】 ・道徳教育を根底にすえた教育活動を展開する。 ・人権及び規範意識の醸成を図る。 ・不登校やいじめの未然防止のための組織的計画的な取組を進める。 ・豊かな食生活を目指し食育を推進する。 【信頼を高める学校づくり】 ・学校・地域・家庭の連携を一層強化する。 ・家庭の教育力を高めるための活動を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。 ・学習規律を確立させると共に、家庭学習の充実を図る。	・小中一貫した学習指導方法を研究する。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数授業（数学・英語）を効果的に実施する。 ・校内授業研究会を実施し授業実践力を高める。	○小中一貫教育の取組において、授業での「生徒指導の3機能」を意識して授業を行うことができた。 ○学力充実委員会が計画した校内授業研究会が実施でき、授業の指導力向上が図れた。 ○学習状況等の交流を行い具体的な指導方針を立てたことで、授業規律の確立が図れた。 ○定期テスト前の家庭学習充実週間の取組により、学習意欲向上への一助とすることができた。 △家庭学習の充実に向けて、宿題等の出し方、生徒の意欲を向上させるための工夫改善が必要である。

生徒指導	・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の実態を早期に把握し、問題事象発生の未然防止を図る。 ・生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。 ・関係諸機関との連携を進める。	・小中一貫した指導を実施する。 ・自己肯定感の向上のための指導を充実する。 ・問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。（生徒指導日より） ・不登校生徒については毎週の教育相談部会やケース会議で実態を把握・分析し、具体的な方針を立て行動する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主体的な活動を組織していく。 ・警察、児童相談所等関係機関と連携を図る。	○ブロック活動等を通して、自己肯定感の育成ができた。 - また、その結果として全校生徒が落ち着いた中で生活できた。 ○生徒会活動により生徒の意欲と主体性が向上した。 ○防犯教室等の実施により、生徒の規範意識を高めた。 ○部活動は全教職員で早朝から指導し、生徒・保護者から信頼を得るとともに、生徒の自信を高めた。 △情報端末機器の正しい取扱方等の善悪の判断力・行動力の育成を強化する。 △不登校生徒解消への取組を更に進める必要がある。
健康（体育）・安全	・保健教育を系統的に進める。 ・食育の推進を図る。 ・安全意識の向上を図る。 ・体力の向上を図る。	・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・教科等との関連を図った食に関する指導を推進する。 ・交通安全指導を徹底する。（交通教室、PTAとの連携） ・避難訓練（地震・火災）を実施し安全意識を高める。 ・教科体育指導時の安全確保を徹底させる。	○病気予防の意識が高まった。 ○給食マナーが向上し、感謝する心が育った。 ○地震・火災等に対する安全意識や対応力が高まった。 ○部活動等で体力の向上と競技力向上が図れた。 △自転車の交通マナー向上に向けて工夫改善が急務である。
小中一貫教育への取組	・峰山中学校区小中一貫教育実施校（愛称「峰山学園」）の機能化を図る。 ・自己肯定感を育成する。 ・峰中中一ギャップを解消する。	・すべての小中学校が「目指す子ども像」達成に向け、学校経営方針を共通化し、指導を行う。 ・小中学校が一貫した学習指導・生徒指導等を実施する。 ・児童生徒同士・教職員同士で交流の機会を確保する。 ・児童生徒の教育支援環境を整える。	○峰中ギャップ（学力、問題事象、不登校）が改善した。 ○中1生に対するアンケート結果から、小中一貫教育の成果が顕著に表れた。 ○本校生徒の自己肯定感が増加した。 △実施事業の見直し等も必要である。
開かれた学校づくり	・地域や保護者に積極的な情報を発信する。	・教育内容、生徒の活動等を保護者や地域に発信する。 ・地域へのボランティア活動を推進する。 ・ホームページ、学校便り、学級便り等を充実する。学校だよりは地域回覧を実施する。	○学校行事の参観、学校だよりの発行（地域回覧含む）、HPの定期的な更新ができた。 △小中一貫教育の広報の方法を工夫する。
進路指導	・キャリア教育を計画的に推進する。 ・説明会・進路相談の充実を図る。	・体験活動に基づきキャリア意識の向上と啓発を進める。 ・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。 ・保護者・生徒向けの進路説明会を早期から行う。 ・二者・三者面談を早期に開催し希望進路実現を図る。	○体験活動により勤労観を育成することができた。立志式で将来の決意を持たせることができた。 ○生徒・保護者ともに進路実現に向けた意識が向上した。 ○3年生は希望進路を実現させた。 △9年間を見通したキャリア教育の充実が課題である。
次年度に向けた改善の方向性	◎ 小中一貫教育実施により、峰中ギャップの解消を図る峰山学園経営の一層の充実 1 峰山学園の教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子どもの育成」の実現に向け、小中学校が一貫した教育を推進する。 2 学力向上プロジェクト、心の教育プロジェクトの活性化と、信頼を高める学校づくりの発展を図る。 3 地域連携協働の推進組織「峰山学園教育支援協議会」の活用により、学校経営の充実を図る。		

(別紙様式1)

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着 2 進路を切り拓く能力と実行力の育成 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上		○生徒達の学校生活が安定している。 ○授業改善に向けて授業研究等に工夫努力し、学力向上につなげる取組が進んだ。生徒のわかりやすい授業の評価は22年度70%→23年度81%→24年度80%→25年度83%→26年度82%と継続的な評価を得ている。 ○保護者に学校の課題と方策をオープンにして協力を要請、生徒には考え・目標立ての指導で集団の意識改革を図った。 ○校内研修フィードバック化が定着し、教職員で共有化することと研修の意識改革を図ることができた。 △生徒指導に関わる学級経営力の向上と組織的な指導体制で迅速な対応を行う。 △不登校問題の改善に向けて、具体的な方策と実践を行う。	1 学力向上に向けた取組の推進を図る。 2 夢や希望をもって未来を拓く、進路指導の充実を図る。 3 生徒指導の充実を図る。 4 健康や体力の向上に努めさせ、心豊かな人間性を育む。 5 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化を図る。 6 人権尊重を培う教育の推進と教職員の指導力向上を図る研修の充実を図る。 7 保幼・小・中・高連携の更なる推進に努める。 8 信頼され、開かれた学校づくりに努める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・効果的な学校運営の推進 ・学力の実態把握と向上 ・学ぶ意欲の向上 ・思考力、判断力、表現力の育成（言語の力・活用する力） ・指導方法の研究と改善 ・授業規律の確立 ・家庭学習習慣の確立 ・人権教育と集団育成を基盤に学校生活の安定と活性化の創造	・効果的な学校運営を推進するため、各分掌との連携強化を行い、教育活動の取組の充実を図る。 ・学校経営計画による総括と改善に向けた具体的方策の確認を行い、生徒達の学ぶ意欲の引き出しと教職員の教科指導の充実を図る。 ・家庭学習習慣の確立に向けた計画立てと取組を推進する。全教科で言語の力を育成するための週末課題学習を提示し、指導の継続を行う。 ・指導力の向上を図る研修の充実を図る。 ・授業規律に関する指導の統一を図る。 ・生徒会活動の充実を図る。 ・集会、HR、SHRにおいて聞く・考える・話し合うことを重視し、生徒の生活改善と学校生活の活性化を図る。	○家庭学習習慣の確立に向けた計画立てと取組が推進できた。とくに、全教科が言語の力を育成するための課題を提示し、学習習慣の意識化につなげることができた。 ○外部研修を校内研修にフィードバックするなど、授業改善に向けた研究を推進した。生徒のわかりやすい授業の評価は、22年度70%→23年度81%→24年度80%→25年度83%→26年度82%→27年度86%と上昇している。 ○学力向上につながる言語の力の取組は人権学習の取組や総合的な学習の時間の生き方学習や発表会にその力を発揮することができた。日常生活や授業の中での継続と検証・研究をしていかなければならない。 △学力の定着・向上に向けた各教科の指導方法と取組を整理し、学習の手引きの活用と家庭学習の定着に生かす。

生徒指導	・生徒指導体制の充実改善 ・学級経営の充実 ・好ましい人間関係の育成 ・自らの課題を解決する意欲の育成 ・規範意識の向上 ・不登校の未然防止	・きめ細かな指導体制を確立し、報告・連絡・相談を徹底し、具体的な方策をもって迅速な対応を行う。 ・学級経営、教科指導、部活指導などあらゆる場面で規範意識を向上させる指導の展開を行う。 ・アンケートを実施し、生徒の悩みや相談について把握し、生徒理解とともに丁寧な指導・助言を行う。 ・家庭、地域、校種間と連携した生徒指導の充実を図る。 ・定期的な教育相談部会を行い、現状維持ではなく一歩踏み出す方策を練り合い、不登校解消に向けた指導を行う。	○保護者に学校の課題と方策を伝え協力を要請、生徒には聞く・考えさせる指導の展開で集団の意識改革を図った。 ○指導の方向を共通認識する指示系統の一致を図った。 ○生徒の規範意識の涵養、自他の人権尊重、社会性の育成や自己指導力を培う取組は、生徒会活動の活性化や個々の生徒の意欲の高まりとして変容が見られた。全体的に生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 △目標や計画を考えさせる教育相談と生徒指導により、3年生の不登校は改善した。家庭と一致した未来を切り拓いていくための意欲や自尊感情の育成に課題が残る。
健康（体育）・安全	・安全教育の充実 ・部活動の推進	・避難訓練、交通マナー、登下校の安全、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。 ・異年齢の集団で、共通の興味関心をもって運動や文化の楽しさを体得させるため、日々の部活指導を大切にする。	○津波・地震の避難訓練は、大宮こども園の園児と共に高台に避難する取組も三年目となり、園児に手を貸しながら全校生徒が素早く避難した。地域清掃は奉仕精神を高めるのに有効である。部活指導は生徒の達成感、充実感を高めた。
小中一貫教育への取組	・人権教育総合推進地域事業の成果の継続と研究の充実 ・教育活動の積極的な公開	・人権教育、学習指導、生徒指導、キャリア教育に関する小中連携の研究・研修を推進する。 ・学校から地域へ発信、広報の充実を目指す。	○大宮学園の先生同士の研修を深める事ができた。 ○人権意識の涵養を図る研究の取組が継続している。 △小中の交流・連携教育活動の充実に課題がある。
進路指導	・三年間を見通した系統的、計画的な進路指導の推進 ・目的意識を高める指導の充実 ・学力の向上	・職場体験、講話学習の実施、進路学習の充実を図る。 ・計画的な二者面談、三者面談の実施を行う。 ・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。 ・放課後学習会と家庭学習課題の取組を行う。	○キャリア教育カリキュラムを継続活用し、実践している。 ○家庭学習課題の指導は、生徒の学習意欲と家庭学習習慣の定着につながった。 ○進路学習を充実させるために指導資料の充実を図った。
研修の充実	・教職員の指導力向上を図る研修の充実 ・人権意識の啓発・向上と実践力の育成 ・学力向上の理論研究	・外部研修の内容を校内研修へフィードバックする。 ・人権意識を高め、実践的な力を育てる。 ・言語の力の理論研究を進め、全教科の学習と諸活動で言語の力を育て、思考力・表現力を高める。	○外部研修の校内研修フィードバック化が充実し、教職員で共有化した。言語の力の育成手法を学び実践に生かした。 ○学習指導要領の内容の理解を図る校内研修を行い、学力の三要素や評価について研究を深めた。 △自他を尊重する意識の涵養を更に充実させていく。
次年度に向けた改善の方向性	1 小中一貫校として連携しつつ、教職員の教科指導力・学級経営力・生徒指導力の向上を目指す。（指導力とコミュニケーション能力の育成） 2 人権尊重を基盤に心豊かな生徒の育成を目指す。（人権意識の涵養、言語の力の育成） 3 全教科における質の高い学力の育成と教育活動の充実を目指す。 4 夢や希望をもって、未来を切り拓く逞しい生徒の育成を目指す。（進路実現） 5 不登校と問題事象の未然防止に向けた家庭・地域・学校の連携を目指す。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○小中一貫教育実施校として、「これだけは！授業編」もとづいた授業改善が全教科に浸透した。 ○授業は全学年とも一定落ち着いてできるようになった。 △家庭学習の習慣（1時間以上の割合）が高学年になるにつれ、全国・府平均を下回る傾向にある。 ○問題事象の発生件数はほぼ昨年度と同様で推移し、全体は落ち着いた状態を保っている。 △不登校は減少傾向にあり、関係機関との連携等により登校日数が増加する事例も見られるようになった。一方深刻なケースの具体的な手立てを講じる必要がある。 ○再配置と連動した小中一貫教育を推進し、次年度からの網野町域全体で小中一貫教育を導入する基盤が整った。	(1) 確かな学力の向上 ア 授業規律の確立 イ 学びスタイルの確立 ウ 家庭学習の充実 エ 補充学習の充実 (2) 豊かな人間性・社会性の育成 ア 生徒との信頼関係の構築 イ 組織的指導力の向上 ウ 網野町域を範囲とした生徒会活動の活性化 (3) 体力の向上 ア 積極的・意欲的な部活動への参加 イ 新体力テストの結果を踏まえた継続的指導 ウ 安全教育と怪我等の未然防止
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・授業規律の確立 ・基礎基本の徹底 ・活用する力の育成 ・家庭学習の充実 ・補充学習の充実	・共通指導事項「これだけは！」に基づく指導の統一 ・小中相互の授業参観、事前研・事後研への参加 ・全教員による授業開始直後の巡回指導 ・週末課題の提示と「これだけは！」家庭編の周知 「中学生は目標 90 分以上の家庭学習時間」 ・中1ふりスタ、中2学力アップ、中3受験対策指導の充実	○学力充実の前提となる授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。今年度特に「考えを交流する」場面の授業改善が進み、各教科でペア学習・グループ学習ができるようになってきた。 ○各種学力調査において、全国・府平均を上回る結果をあげている。 △網野学園全体で家庭学習充実の取組を行い、取組期間中は成果があったが、まだ定着はしていない。
生徒指導	・生徒との信頼関係の構築 ・規範意識の醸成 ・不登校の改善と未然防止 ・望ましい人間関係の育成と集団の質の向上 ・組織的指導力の向上	・あらゆる指導場面での「ほめる」「励ます」指導の継続 ・複数指導など「みんなで動く」指導体制の強化 ・網野町域を範囲とした生徒会活動の活性化 ・生徒指導部会（いじめ対策委員会）、教育相談部会の定例化 ・毎週月曜の「気づき」の発行による実態把握と指導の統一 ・関係機関との連携（麦わら、病院等）	○教職員の先を見通した指導が随所ででき、学校再配置による大きな生徒間トラブルは生じなかった。 ○アルミ缶回収、花いっぱい運動など網野学園小・中学校の児童会・生徒会活動の交流がさらに深まった。 △中学1年生の不登校はなかったが、2・3年生の不登校生徒の解消には至らず、年間30日以上の子の出現率が約2%となった。校内ケース会議が十分に持てず、対応が担任任せになるところもあった。

健康（体育）・安全	・安全に対する意識の高揚 ・健康教育の推進 ・体力の向上	・積極的・意欲的な部活動への参加のための丁寧な指導 ・毎日の登下校指導、定期的なPTA登校指導 ・交通安全教室（1年）、避難訓練（年3回）の実施 ・定期的な施設・設備の安全点検 ・新体力テストの分析と活用 ・非行防止教室、性に関する指導等の実施	○学校再配置によって部員の人数も増え、多くの部で活性化が図れた。生徒も非常に意欲的に臨んでいる。 △一部の部活動において、顧問との信頼関係が築けず、指導の入りにくい状態となったが、外部指導者の援助を得ながら活動を進めることができた。 ○非行防止教室、性に関する指導を計画通り行うことができ、問題事象の未然防止に効果があった。
小中一貫教育への取組	・組織体制の再構築 ・保・幼・小・中における指導の統一 ・行動連携のさらなる充実 ・家庭、地域社会との連携	・「網野学園」としての一体感の高揚と組織の再構築 ・共通指導事項「これだけは！」に基づいた授業実践 ・授業研究、交流行事等の計画的な実施 ・「これだけは！」家庭編の周知と新たなPTA組織の設立	○学習指導、生徒指導等で小中学校の連携強化を図ることができた。 ○アプローチプログラムの作成など保育所・幼稚園との連携が進んだ。 △○家庭・地域との連携が課題として残っているが、来年度からの小中一貫校PTA組織、教育支援協議会設立に向けての準備組織を確立することができた。
特別支援教育	・校内体制の充実 ・障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進	・情緒学級開設に伴う特別支援教育のさらなる充実 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内指導委員会の機能化 ・特別支援学級における指導体制の充実 ・通級指導教室における個に応じた指導の充実 ・個別の指導計画と支援計画の見直しと活用	○情緒・自閉症学級の開設に伴い、教科担任会を開催し、効果的な指導法の研究ができた。当該生徒が他の生徒に関わる場面が増え、コミュニケーション力の育成に大きな成果があった。 ○個別の指導計画、教育支援計画を整備し、指導に生かすことができた。 △引き続き特別支援教育の研修行い、平成28年4月施行の障害者差別解消法への対応を十分に検討しなければならない。
開かれた学校づくり	・信頼される学校づくり ・双方向の情報交流を生かした学校改善	・学校再配置による「新たな地域づくり」を意識した取組（学校だより全地区回覧、PTA、町域全体にまたがる行事等） ・地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ・地域への貢献（ボランティア活動、演奏活動等） ・地域の教育力の活用（伝統文化体験、職場体験、外部講師の招聘等） ・学校だより、再配置だより「きずな」、HP等による情報発信	○学校再配置後の学校の様子を地域の方にも知ってもらうため、学校だよりの全戸で回覧できるようにした。「学校の様子がよくわかる」との好評をたくさんいただいた。 ○学校ホームページもほぼ毎日更新し、タイムリーに生徒の様子を発信できた。 ○学校評価保護者アンケートでは、「総合的に見て学校を信頼できる」と肯定的な回答した保護者が88%を占め、新生網野中学校としての良いスタートを切ることができた。
次年度に向けた改善の方向性	①学校再配置2年目となり、豊かな人間関係の醸成を今年度以上に意識して教育活動を進めていく。 ②生徒の規範意識を高め、教育活動の基盤となる落ち着いた学校・学級を維持し、「当たり前に行えること」のレベルアップを目指す。 ③学力の充実・向上と不登校の未然防止・解消を目指し、小中一貫教育を有効な手段として、校区小学校、保育所・幼稚園との連携をさらに進めていく。		

(別紙様式1)

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立丹後中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
丹後中学校の開校2年目の教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校にする。 「再配置して良かった。」と実感してもらえるような丹後中学校の教育を創り上げることである。		昨年度は、開校年度であり、調整したり、丁寧に生徒の状況を把握したりして、教育活動を進めることが求められた。その中、大きな環境変化となる宇川地区についても毎学期「保護者会」を開催して意見や思いを聞き取り、学校経営に生かすことができた。生徒の「新しい学校の歴史を自分たちで築く」気持ちで前進できた。	①開校2年目であり、教育活動の一つ一つを確認・検証しながら進めていき、生徒が輝く校風を築く。 ②小中一貫教育導入準備校(2年次)として、小中で交流行事や合同研修などを進めて、完全実施に向けて準備を進めること
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	・分かりやすい授業づくりを行う。 ・言語活動を取り入れ、「ことばの力」の育成を図る。 ・基礎学力の定着を図る。	・授業研究会及び相互の授業参観や教材研究を通して、生徒にとって分かりやすい授業づくりを研究する。 ・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫し、実践する。 ・ドリルや家庭での課題学習を継続的に実施する。	○教科担当者での日常的な教材研究に加えて、学校として、授業研究会を開催して、「言語活動」を取り入れ、生徒が相互に高め会える授業づくりについて研修し、実践した。 ○ドリルや家庭学習について、学習方法まで指導して、計画的に生徒自身が学習できるよう指導した。
生徒指導	・安心できる仲間関係を築かせる。 ・新しい学校としてのルールを確認しながら定着させる。 ・SNS等の使用について、実態を把握して指導を行う。	・授業中のみならず、生徒の休憩時間も教師が教室や廊下にいるようにして、生徒の状況を丁寧に把握すると同時に生徒との関係づくりを進める。 ・月ごとの「月目標」を定め、指導の重点を確認しながら、新しい学校としての規範作りを進める。 ・「非行防止教室」を開催する。学級での指導も進める。	○生徒の仲間関係にいつも気を配り、変化やサインを見逃さないように「指導の隙間」をなくす実践を行い、気付いたことは、教職員で共有して早期に対応できた。 ○月目標及び後半は週目標を設定して、指導が統一したものとなった。 ○「薬物乱用防止」の全校指導も含め実施できた。
健康(体育)・安全	・体力を育てることで、忍耐力などの心の強さも鍛える。その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。	・学校として、部活動の指導を重視し、体育系のクラブだけでなく、文化系のクラブの生徒についても、体力作りを推奨して進めていく。 ・登下校の見守り指導及び挨拶運動を展開する。 ・学期ごとに、安全な校内生活の指導を行う。	○体力づくりを推進し、冬季は、全てのクラブと一緒に、柔軟性を高め、体幹を鍛えるトレーニングを行うことができ、体力の向上と合わせ柔軟性の向上を図れた。 ○PTAの会員も一緒になり、登下校の指導をし、安全についても意識化させることができた。 ○エアコンの設置工事も行われたが、工事期間も含め、校内生活の安全な過ごし方指導ができ、事故防止できた。

小中一貫教育への取組	・小中合同の授業研究会を開催して、指導の系統性を研究する。 ・小中交流事業を通して、中学生の自覚を高める。 ・導入準備2年次として、完全実施に向けて準備を進める。	・第Ⅱ期（小学5年～中学1年）を中心に授業研究会を開催して、小学校の授業参観・事後研究会などから、中学校として指導に生かせることを学ぶ。 ・中学校の合唱祭への6年生参加や6年生部活動体験など、小学生と中学生の触れあう場面を計画的に設定して交流させる。 ・全体研修会（5月・7月・2月）などを通して、教職員の参画意識・当事者意識を高め、準備を進める。	○小学校との合同の授業研究会を実施することにより、小学校の指導法を学ぶと同時に、小学校高学年の児童のものの考え方や状況について知ることができ、効果があった。 ○小学生との関わりの中で、中学生が良き手本となるという自覚が芽生え、「優しく丁寧に教える」という気持ちが高まってきた。 ○全体研修会を行うことで、「導入準備校」としての取組の全体像を全員で共有できたことは効果的であった。
開かれた学校づくり	・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校2年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だよりは発行回数や配付対象が限られるので、よりタイムリーな情報として学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学校の教育活動を発信していく。	・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、地域の皆さんや民生委員様・学校評議員様など、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を頂戴するようにしていく。 ・校舎を活用していない旧宇川中学校区の皆さんにも生徒の様子がよくわかるように、写真をできるだけ掲載した学校だよりやホームページの作成に心がける。 ・宇川地区保護者会を開催して、学校の様子を伝え、意見や感想を聞かせていただくようにする。	○計画的に授業参観や行事参観をしていただき、感想をお寄せいただいた。ほぼ全員の方が、「生徒が生き生きと頑張ってやっていて、とても感動します。」と再配置についても肯定的な意見をいただくことができた。多くの方に「再配置して、本当に良かった。」と評価をいただいた。 ○ほぼ毎日のように学校HPを更新して、できるだけ学校の教育活動や生徒の取組の様子を発信してきた。多くのアクセスがあり、良く見ていただいていることがわかった。 ○1学期末に保護者会を開催し、状況を報告した。昨年度は4回実施してきたので、保護者にも理解が得られた。
特別支援教育	・生徒の特性にあった支援を計画的に実践する。 ・新設された「情緒学級」の指導の充実を図る。	・個別の指導計画・支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、適切な支援を実施する。 ・職員研修や視察などを通して、指導の充実を図り、適切な支援により、生徒の力の伸長を目指す。	△個別の教育支援計画の作成を保護者の意見を十分いかしながら作成することについては、全員分とならなかった。 ○新設の特別支援学級（自閉症・情緒）についても、先進地視察などの研修を通して、効果的な指導を展開することができた。
次年度に向けた改善の方向性	①再配置の成果については、保護者と地域の方々に「よかった」と実感していただけたので、更に、教育効果を高めるためにも、小中一貫教育を手法として、教育活動の工夫・改善を進めていきたい。特に、「言語活動」の充実を柱に、生徒の学力向上を目指す授業づくりを進めたい。 ②特別支援教育の充実を図るため、教職員研修を充実させると同時に、通常学級に在籍している支援を要する生徒への支援のあり方を研修し、生徒が向上心を持って授業に臨み、自尊感情を持って取り組めるように推進したい。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔 京丹後市立弥栄中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 基礎学力の定着・活用力の育成と主体的な学習態度の養成 2 心の教育の充実による不登校の未然防止と解消 3 小中一貫教育の推進による指導の円滑な接続の実現 4 生徒指導の3機能を生かした積極的な生徒指導の展開 5 安心・安全で信頼される開かれた学校づくりの推進		1 学力 ○基礎基本の徹底と学力の定着につながる補充学習等の工夫された取組により学力の充実につながった。 △家庭学習の定着に不十分さが残った。 2 心の教育 ○小学生との交流や異年齢集団活動の充実により、自己肯定感の醸成を図ることができた。 △不登校生徒の解消という点で課題が残った。 3 安心安全な学校づくり ○生徒達は避難訓練に整然と参加することができ、危機意識を高める講話も実現した。 △定期的な校内安全点検に不十分さが残った。	1 学力の充実 ・教科指導における指導方法の工夫と改善及び校内、中学校区授業研究会の実施、各種診断テストの分析 ・言語活動を含めた学び合いを重視する学習形態の研究推進と家庭学習習慣定着の取組 2 不登校課題の改善 ・教育相談機能の充実による組織的・継続的な指導の展開と関係機関との連携 3 小中一貫教育実施に向けた取組の推進 ・教育活動の連続性・協働性を高める指導の推進 ・児童生徒の交流を推進するための基盤整備 4 教職員の資質能力の向上 5 特別支援教育の充実
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	・基礎基本の徹底と、学力の定着につながる日常的な取組の推進 ・学習規律、学習習慣の確立 ・全ての教育活動を通して学力の基本となる言語力の向上 ・学び合いを重視する学習形態の研究推進	・学び合いを重視する学習形態等、校内・中学校区授業研究会の実施と指導方法の改善 ・教務主任・学習指導主任の連携主導のもと、各教師の「授業の振り返りたより」等実施による授業実践力向上 ・各種学力診断テスト等の分析と小中連携による小中共通課題の共有と取組 ・授業アンケートと学校生活アンケートの実施と活用 ・定期テスト前全校学習の実施 ・長期休業中と土曜活用による学力向上のための全校補充学習の実施と日々の延長補充学習の実施 ・3年生による1・2年生の延長学習時間を利用した教科学習指導の実施	○「言語活動の充実・考えて書く学習」のテーマを設定し授業研究会を実施することで、主体的・協働的な学習に対する意識が高まり、授業の中に取り入れる場面が広がった。 ○各種補充学習を丁寧に意欲的に実施することで、基礎的・基本的な学力の定着につながり、各種調査・テストにおいても、全ての教科で府・全国を上回る結果を残すことができた。 △中2で家庭学習1時間以上の生徒が38%しかおらず、昨年度より20%も減少した。この雰囲気为学校全体に広がると、学力低下につながるので家庭学習習慣の確立を図る必要がある。

生徒指導	・生徒指導の3機能を生かした指導による問題行動の未然防止と不登校生徒出現防止 ・教育相談体制の確立と関係機関との連携 ・部活動、生徒会活動における主体的な態度の育成	・校内教育相談体制の確立といじめアンケートの実施によるいじめや不登校の未然防止と解消 ・小中連携による自己肯定感を高める取組の展開 ・定例の教育相談部会・生徒指導部会の開催 ・学校生活における基本的なマナー、ルールの指導 ・全教育活動における道德教育の推進と、異年齢活動による自他を思いやる心の育成 ・問題事象に対する丁寧な事実関係の把握と早い対応を基本とした生徒・保護者への粘り強い指導	○毎週の生徒指導・教育相談会議で情報を共有し、対応を図ることで3名の不登校生徒の改善、問題行動関係人数の減少（19人→8人）につなげる事ができた。 ○主体的な生徒会活動を展開させ、スローガン「弥心輝笑」の達成に向けて取り組ませることができた。 △2年生女子の人間関係の改善が図れず、1名の不登校傾向生徒の出現につながるとともに、悩みを抱える生徒が増えた。
健康（体育）・安全	・基本的な生活習慣の確立 ・保健教育と保健管理の徹底 ・防災意識の高揚と事故防止 ・部活動の充実	・日々の健康観察の実施と保健指導の充実 ・薬物乱用防止教室や性に関する指導等、各学年の実態に即した保健教育を実施 ・学期ごとの避難訓練の実施と自転車点検の実施 ・早朝ランニングの確立と部活動の時間確保	○日々、生徒の健康状態を的確に把握し、学級閉鎖等適切に実施することで、感染拡大防止に努めた。 ○早朝ランニングに意欲的に取り組む生徒が多い。また、テスト前朝練停止期間を延ばし健康に配慮した。
小中一貫教育への取組	・基礎学力の定着と充実向上 ・生徒指導・教育相談活動の充実 ・連続性・協働性を高める教職員の小中一貫教育への理解 ・小中一貫教育の地域への発信	・日常からの連携を推進するための環境整備 ・学力授業づくり部会による学び合いを重視した授業研究の推進 ・生徒指導・特別活動部会による望ましい学級づくりや問題行動防止の連携の在り方、共通指導内容の検討 ・教育相談部会による個人カルテの活用等円滑な接続の推進 ・児童生徒の交流活動の実施と教職員による授業参観や他校種研修等の実施	○学力・授業づくり部会を中心に、連続性・一貫性のある授業づくりの研究に取り組み、今年度より事後研究会も実施する中で、協働意識を高める事ができた。 △弥栄の地域性を生かし、異年齢交流活動を行う事で、自己有用感の醸成や中学校生活への憧れを育みたい。 △保護者・地域へ一貫教育の意義や良さを更に発信していく必要がある。
研修（教職員の資質向上）	・教育課題解決に向けた前向きな教職員集団の育成 ・各種研修を活用した指導力の向上	・教育課題（本校・京丹後市・管内）の理解を図るための日常の啓発 ・R P D C Aのサイクルに沿った実践の共通理解と自らの係わりによる成果の共有 ・全教職員の資質向上に向けて、研修の伝達講習等による責任ある組織人としての自覚	○ミドルリーダーの育成を意識し、分掌主任としての役割を重視する中で、意欲の向上を図ることができた。 ○若い先生方への面談等通じて、自身の課題解決に向けて意欲的に教育活動に取り組む姿があった。 △授業研究会の開始が2学期になったので、来年度は年間を通じて位置づける中で1学期から実施を図る。
特別支援教育	・情緒障害についての理解の促進 ・全教職員による組織的・計画的な指導の推進 ・保護者との連携促進	・特別支援教育コーディネーター研修の伝達講習による全教職員資質能力の向上 ・校内委員会の定期開催による全教職員の意識の高揚と学校全体としての支援体制の充実	○特別支援教育を本校の重点教育課題として全教職員が意識し、研修等に積極的に取り組むことができた。 △それぞれの発達課題に応じた支援等、日々の指導の中で実践できる資質・能力を育成する。
次年度に向けた改善の方向性	・小中一貫教育を推進する中で、弥栄学園の教育課題（自己表現力・コミュニケーション能力の育成、自己肯定感の醸成等）の克服に向けた計画的な取組を展開するとともに、保護者・地域をつなぐ学園としての活動を展開する。 ・主体的・協働的な学習活動を推進し、生徒自身の学ぶ意欲を引き出し、安定した家庭学習習慣を確立させる中で、学力の充実・向上を図る。 ・心を開く関係づくりのための行事や活動を重視し、安心できる学校生活を基盤に、問題行動・不登校生徒出現の未然防止を図る。		

平成27年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 学校再配置をして、みんなが良かったと言える学校づくりを推進する。 2 職員体制を確立させ、組織的な指導力を展開する。 3 学力の充実・向上を図るとともに、キャリア教育を生かした進路指導を推進する。 4 豊かな心を育成する教育を推進する。		○徹底した初年度の総括に基づき2年目を迎えたことで、生徒や保護者が混乱せず、円滑なスタートが切れた。 ○ベテラン教職員の指導力を生かすため、分掌組織や日常の教育活動を工夫することで、若い経験年数の浅い教職員も安心して指導できるようになった。 ○生徒支援を基盤とした、迅速、丁寧で組織的な指導が、問題事象の減少と未然防止につながった。 ○「夏みかんの日」の取組等により学校生活向上に目を向けさせ、日常的な委員会活動が活性化した。 △系統別に、グループによる学習や言語活動を視点に入れた授業改善の研修を進めたが教員の意識改善には至らなかった。 △小中一貫教育について、久美浜中学校区の組織が十分機能していないため、取組が進んでいない。	【法やルールに関する教育の推進・充実】 = 【人権教育・道徳教育・特別活動の推進】 ◇【知】「活用する力の育成」 ・各種テストによる伸び率アップ ・家庭学習1時間以上の生徒の割合70%以上 ◇【徳】自立の力、支え合う力の育成 ・不登校モニター生徒の登校日数の増加（前年度比） ・新たな不登校の未然防止（1・2年生） ◇【体】自らを高め続ける力の育成 ・部活動の充実 ・規則正しい生活習慣、望ましい食習慣 ・ボランティア活動、体験活動の充実 ◇小中一貫教育の推進 ・行動連携の充実（子どもの交流、教職員の交流） ・法やルールに関する教育の推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
教育課程 学習指導	1 生徒や地域の実態に即した教育課程の編成 2 授業実践力の向上 3 言語活動の充実 4 学習習慣の確立	◇地域の実態を踏まえた教育課程の編成と工夫 ・総合的な学習の時間の取組内容の工夫と充実 ◇小中一貫教育と連動した授業改善の推進 ・小中共通指導内容を踏まえた授業展開と工夫 ◇学習意欲の喚起と学習習慣の確立 ・（家庭）学習の仕方の指導 ・久美中検定の工夫改善 ・中1ふりスタ、中2学力アップ、中3受験対策指導の充実	○総合学習では丹後学モデルカリキュラムを活用し、学年の達成目標を明確にして体験内容と発信方法等を工夫した。（1年：地域調べ 2年：職場体験 3年：地域ふれあいサロン） ○保幼小中との連携を強化し、「小学校で付けておきたい力」を確認して基礎基本の定着を図った。 ○小・中で授業構造を統一させ、ユニバーサルデザインに基づいた授業改善を図った。 △久美中検定の内容は工夫できたが、学習意欲と相まって、取り組みませ方を検討する必要がある。 △学習意欲を喚起するための有効で系統的・計画的な指導ができていない。 △家庭学習の習慣（1時間以上の割合）が身に付いておらず、全国・府平均を下回っている。

生徒指導	1 法やルールに関する教育の推進と人権・規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校・不登校傾向の生徒の未然防止と解消 5 関係諸団体との連携強化	◇生徒とのふれ合い、話しこみの充実 ◇複数指導等、「みんなで動く」指導体制の強化 ◇徹底した事前指導による学校行事、生徒会活動の充実 ◇自己肯定感を育むための「ほめる指導」の充実 ◇久美中校区PTA、関係諸団体との連携強化 ・ネットトラブルといじめ 等 ◇生徒指導部会（いじめ対策委員会）、教育相談部会の定例化 ◇「気づき」「今週の気になる生徒」の発行による実態把握と指導の統一 ◇関係諸機関との連携（麦わら、病院、SSW）	○事象の把握や指導内容と指導方法の確認等、組織的に取り組むことで対応が的確になり、みんなで動けるようになった。 ○生徒指導部会や教育相談部会、特別活動部会を定例化することで課題解決に向けた取組が連動し、成果を上げた。 ○麦わら等、関係機関と綿密に連携することで完全不登校生徒数が減少した。 ○今日的課題である「スマホ等の安全な取扱い」に特化した保護者学習会や非行防止教室を校区全体で計画的に実施した。 ○「夏みかんの日」の取組を充実させ、生活を振り返らせることで集団が前向きになった。 △「はあとほっとタイム」を計画的に実施し、自己肯定感を更に高める必要がある。
健康（体育）・安全	1 部活動の充実と達成感の享受 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導の充実 4 交通安全指導の徹底と健康教育の充実	◇緊急時対応訓練（火災、不審者、地震） ◇食育指導と保健指導との連携 ◇関係諸機関との連携による取組の充実 ・自転車（安全）指導、薬物指導	○各学期に1回ずつ（7月：火災、12月：地震、2月：不審者）緊急時対応訓練を実施し、基本対応への周知を図った。 ○自転車安全指導や薬物指導、性に関する指導等、外部講師を招聘し、健康安全教育を一層充実させることができた。
小中一貫教育への取組	1 研究組織の再構築 2 行動連携の強化	◇研究組織の機能化と取組の充実 ◇法やルールに関する教育の推進と行動連携の充実 ・公開授業（各期、指導の一貫性・連続性） ・久美中校区PTAの取組 （あいさつ運動、ネットトラブルといじめ）	○法やルールに関する教育について大学教授等の外部講師を招聘し、実践のイメージを校区内教職員で共有化させた。また、本校独自の公開授業を実施し、実践記録を作成した。 ○本校生徒会と小学児童会が協働で「あいさつ運動」を実施し、小中連携の活動を活性化させた。
特別支援教育	1 校内体制の充実 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の推進	◇生徒支援校内委員会の機能化 ◇特別な支援を要する生徒のアセスメント票の作成と個別の指導計画、支援計画の作成 ◇関係諸機関との連携強化、保護者懇談の充実	○特別な支援を要する生徒を把握し、アセスメント票等による実態把握を行った。 △有効な手立てについて個別のデータを蓄積している段階であり、校内委員会を機能させ、個に応じた指導を行う必要がある。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくり 2 双方向の情報交流を生かした学校改善	◇地域や保護者に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇積極的な学校公開 ・各種団体との連携と協働 ・学校だより、HP等による情報発信（学校行事等）	○特に生徒指導等、誠実・迅速・丁寧な対応と指導を組織的行ったので持ち越し事例がなく、一定の信頼を得た。 ○民生児童委員会や同窓会等の参観や会議が多く、双方向での情報交流ができています。
次年度に向けた改善の方向性	◇小中一貫教育完全実施に伴い、その利点を最大限生かすとともに、小中教職員の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 ・基礎基本の定着を中心に据えた総合的な学力向上策を共通理解させ、職員みんなで取り組む。（授業規律の確立、小中共通の授業構造による授業改善） ・生徒の望ましい人間関係を構築し、自尊感情を高める取組をさらに工夫し、充実させる。 ・「学校・地域連携推進協議会」を立ち上げ、新たな仕組みを機能化させることで教育全体を充実させる。		